

第3期ふじみ野市地域福祉計画 策定のための調査結果報告書

**令和5年3月
ふじみ野市**

目 次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査の概要.....	1
3	報告書の見方.....	2
II	一般市民調査の結果.....	3
1	あなたご自身について.....	3
2	「福祉」について.....	8
3	「地域」との関わりについて.....	11
4	地域活動やボランティア活動などについて.....	35
5	福祉サービスなどについて.....	48
6	福祉施策などについて.....	55
7	自由記述.....	57
III	専門職・地域福祉活動関係者調査の結果.....	61
IV	関係団体ヒアリング調査の結果.....	115
1	自治組織ヒアリング調査.....	115
2	社会とのつながりづくりに向けたヒアリング調査.....	116
3	中学生ヒアリング調査.....	120
V	庁内関係課調査.....	123
基本目標 I	心をつなぐ～誰もが気軽につながるまち～.....	124
基本目標 II	人がつなぐ～世代を超えたまちのつなぎ役～.....	126
基本目標 III	つながるシステム～「オールふじみ野」で解決できる体制～.....	128

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 30 年に策定した「第 2 期ふじみ野市地域福祉計画」が令和 5 年度末で終了することから、令和 6 年度を初年度とする「第 3 期ふじみ野市地域福祉計画」を策定することとなりました。

本調査は、アンケート調査や関係団体等へのヒアリングを通じて、市民や地域で活動されている皆様の福祉観、地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、次期計画に反映することを目的として実施しました。

2 調査の概要

調査対象		調査方法	調査の目的
一般市民	市内在住の 18 歳以上の市民 2,000 人	アンケート	市民の福祉観、地域活動への参加状況などの実態など全体的な傾向を把握する
専門職・地域福祉活動関係者	市内の福祉・介護・医療・教育・保育機関で業務を行う職員及び民生委員・児童委員、自治組織、保護司、NPO・ボランティア団体 332 件	アンケート	地域活動者や福祉の専門職の視点から、地域の現状や課題を把握する
	ふじみ野市自治組織連合会	ヒアリング	地域におけるコミュニティ活動の現状と課題、取り組み事例を把握する
	地域の活動拠点の運営や就労支援に取り組む団体・事業所	ヒアリング	社会的な孤立のリスクを抱える人等が地域や社会とのつながりを持ち続けるための支援(参加支援)に関する課題や連携方策を把握する
中学生	市内中学校	ヒアリング	若い世代が福祉に関心を持ち、担い手となることができるよう、地域の現状や課題、連携方策を把握する
庁内関係課		シート配布	「第 2 期ふじみ野市地域福祉計画」の進捗状況と課題を把握する

■アンケート概要

	一般市民	専門職・地域福祉活動関係者
標本数	2,000 人	332 票（郵送：215 票、手渡し配付：117 票）
抽出法	住民基本台帳から、無作為に抽出	—
調査期間	令和 4 年 9 月 5 日～10 月 5 日	令和 4 年 8 月 25 日～11 月 30 日
調査手法	調査票による本人記入方式 郵送配布・郵送または WEB 回収	調査票による本人記入方式 手渡し及び郵送配布・郵送または WEB 回収
回収結果	回収数：725 件 （紙面：510 件、WEB：215 件） 回収率：36.3%	回収数：183 件 （紙面：113 件、WEB：70 件） 回収率：55.1%

【参考】前回調査（平成 28 年度）

種類	配布数	回収数	回収率
一般市民調査	2,000 票	673 件	33.7%
専門職調査※	332 票	167 件	50.3%

※前回は市内で福祉・介護・医療・教育・保育機関で業務を行う職員、民生委員・児童委員が対象

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は集計対象者数に対するそれぞれの回答数の割合を、小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表いずれも同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢毎の有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- グラフのn数（number of cases）は、回答者数（集計対象者総数）を表しています。また、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 本報告書において、分析手法のひとつとしてクロス集計を用います。その際、クロス集計分析結果表の分析軸に「無回答」がある場合（例として、年齢が無回答だった場合）は表示しません。そのため、分析軸の回答者数の合計が全体の合計と一致しない場合があります。
- 本文中に「前回調査」とあるものは、ふじみ野市が平成28年度に実施した「ふじみ野市地域福祉計画策定のためのアンケート調査報告書」（配布2,000票、回収673件、回収率33.7%）の結果を示しています。なお、今回調査は各年代の調査票の配布件数を前回調査と異なった配分で行っています。そのため、前回調査結果と今回調査結果との傾向が異なる場合があります。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

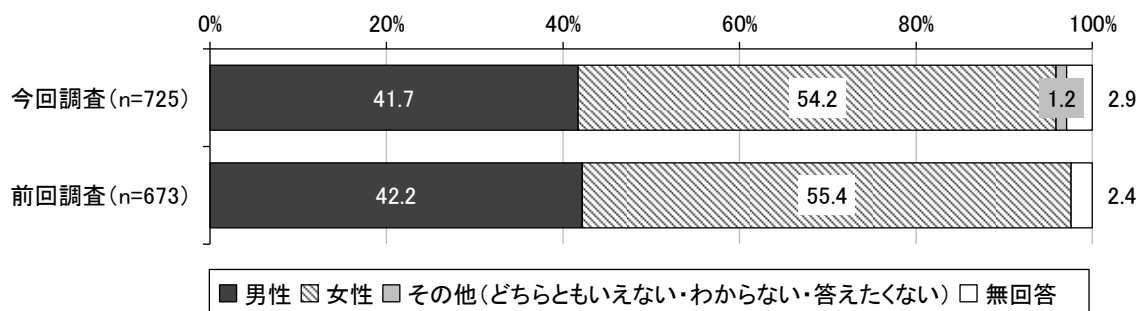
Ⅱ 一般市民調査の結果

1 あなたご自身について

問1 差し支えなければ、あなたの性別を教えてください。(単数回答)

回答者の性別については、「女性」が54.2%、「男性」が41.7%、「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」が1.2%となっています。

前回調査では、「男性」が42.2%、「女性」が55.4%となっており、女性が男性を上回っています。

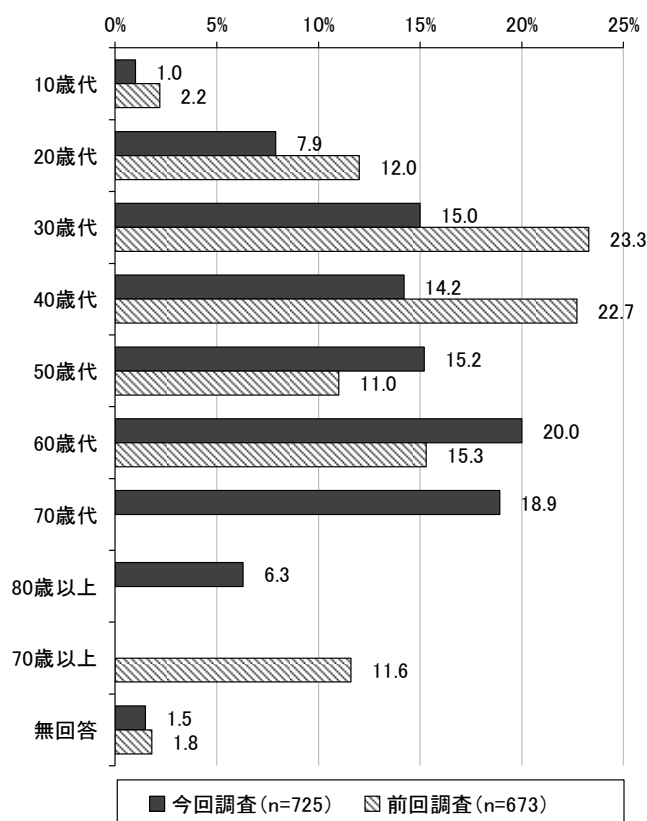


※「その他（どちらともいえない・わからない・答えたくない）」は今回調査のみの選択肢。

問2 あなたの年代を教えてください。(単数回答)

回答者の年代については、「60 歳代」が20.0%と最も多く、次いで「70 歳代」が18.9%、「50 歳代」が15.2%となっています。

前回調査では、「30 歳代」が23.3%と最も多く、次いで「40 歳代」が22.7%、「60 歳代」が15.3%となっています。

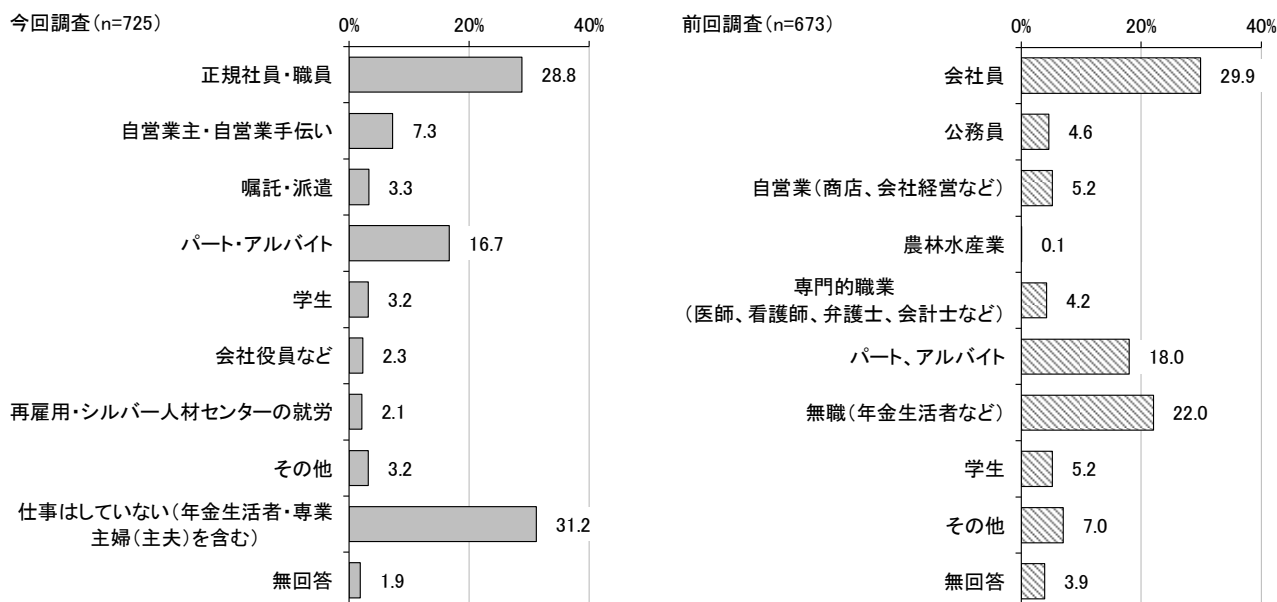


※「70 歳代」「80 歳以上」は今回調査のみの選択肢。「70 歳以上」は前回調査のみの選択肢。

問3 あなたの主な職業を教えてください。(単数回答)

回答者の主な職業については、「仕事はしていない(年金生活者・専業主婦(主夫)を含む)」が31.2%と最も多く、次いで「正規社員・職員」が28.8%、「パート・アルバイト」が16.7%となっています。

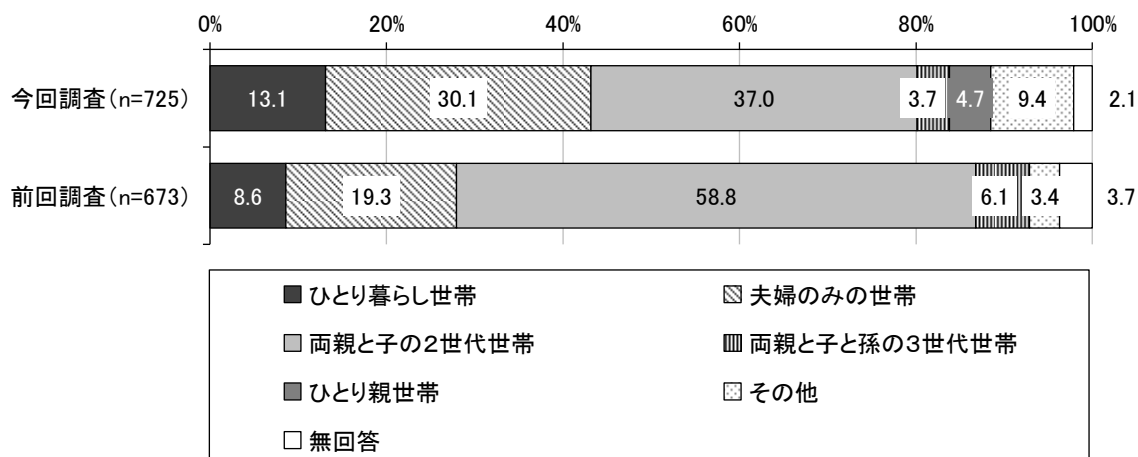
前回調査では、「会社員」が29.9%と最も多く、次いで「無職(年金生活者など)」が22.0%、「パート・アルバイト」が18.0%となっています。



問4 あなたの家族構成について教えてください。(単数回答)

回答者の家族構成については、「両親と子の2世代世帯」が37.0%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が30.1%、「ひとり暮らし世帯」が13.1%となっています。

前回調査では、「親と子の2世代世帯」が58.8%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が19.3%、「ひとり暮らし世帯」が8.6%となっています。

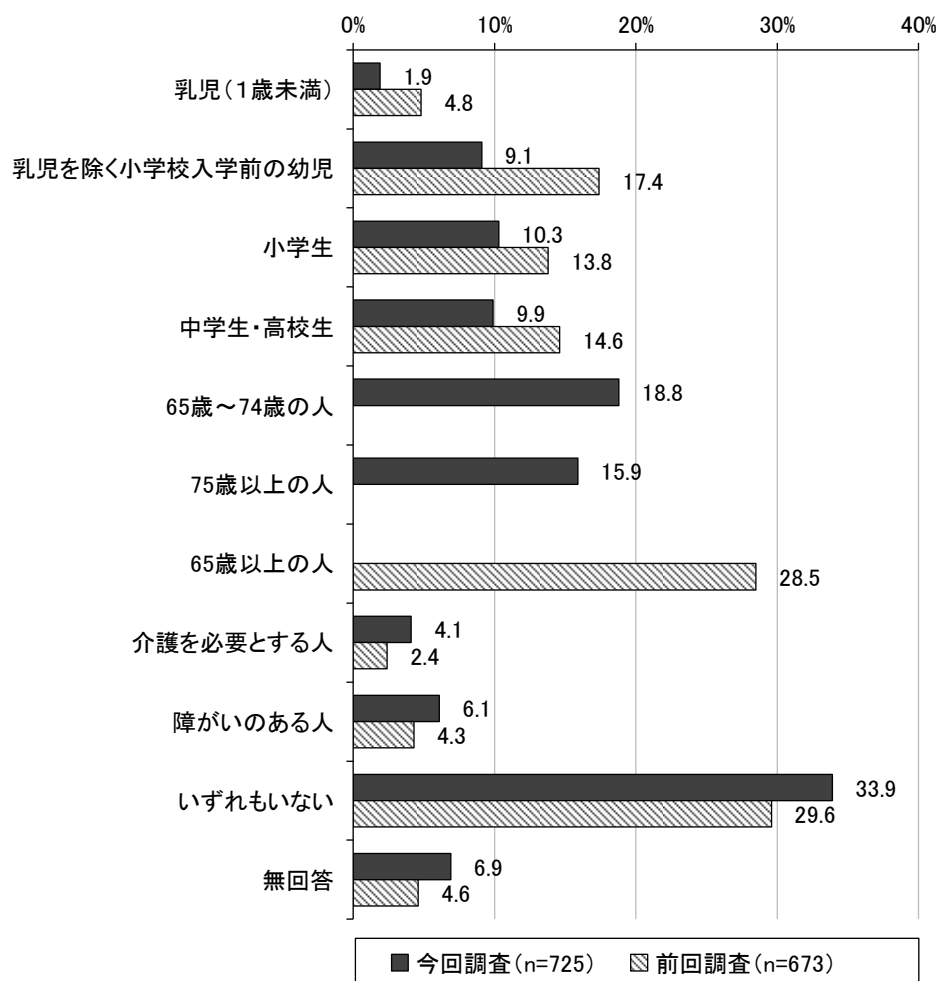


※「ひとり親世帯」は今回調査のみの選択肢。今回調査の「両親と子の2世代世帯」「両親と子と孫の3世代世帯」は、前回調査では「親と子の2世代世帯」「親と子と孫の3世代世帯」。

問5 あなた自身や同居している家族の中に、次のような人はいますか。(複数回答)

回答者自身や同居者の中にいる方については、「いずれもない」が 33.9%と最も多く、次いで「65歳～74歳の人」が 18.8%、「75歳以上の人」が 15.9%となっています。

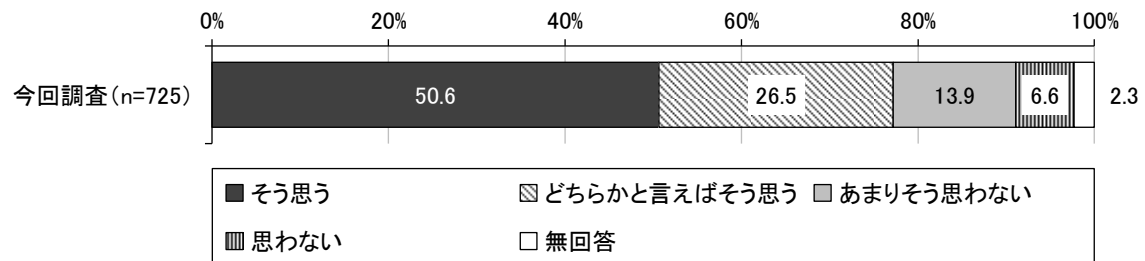
前回調査では、「いずれもない」が 29.6%と最も多く、次いで「65歳以上の人」が 28.5%、「乳児を除く小学校入学前の幼児」が 17.4%となっています。



※「65歳～74歳の人」「75歳以上の人」は今回調査のみの選択肢。「65歳以上の人」は前回調査のみの選択肢。

問6 あなたは、自分には親しい人がいると思いますか。(単数回答)

自分には親しい人がいると思うかについては、「そう思う」が50.6%と最も多く、「どちらかと言えばそう思う」の26.5%と合わせて、77.1%が“思う”と回答しています。一方、「あまりそう思わない」の13.9%と「思わない」の6.6%を合わせた20.5%が“思わない”と回答しています。



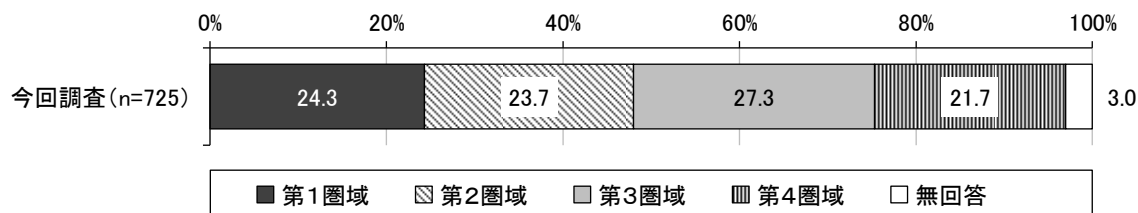
年代別にみると、全ての年代で「そう思う」が最も多くなっています。また、80歳以上で“思わない”がその他の年代に比べて多くなっています。

■年代別

単位: %		そう 思う	ど ち ら か と 言 え ば そ う 思 う	あ ま り そ う 思 わ な い	思 わ な い	無 回 答	思 う (計)	思 わ な い (計)
今回調査(n=725)		50.6	26.5	13.9	6.6	2.3	77.1	20.5
年代 別	10歳代(n=7)	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	20歳代(n=57)	68.4	21.1	3.5	7.0	0.0	89.5	10.5
	30歳代(n=109)	61.5	24.8	7.3	6.4	0.0	86.3	13.7
	40歳代(n=103)	41.7	35.0	20.4	1.9	1.0	76.7	22.3
	50歳代(n=110)	50.9	30.0	12.7	6.4	0.0	80.9	19.1
	60歳代(n=145)	51.0	26.9	12.4	9.7	0.0	77.9	22.1
	70歳代(n=137)	48.2	24.1	19.0	7.3	1.5	72.3	26.3
	80歳以上(n=46)	39.1	19.6	26.1	8.7	6.5	58.7	34.8

問7 あなたが住んでいる地区を教えてください。(単数回答)

回答者の居住地区（日常生活圏域）については、「第3圏域」が27.3%と最も多く、次いで「第1圏域」が24.3%、「第2圏域」が23.7%となっています。



■日常生活圏域

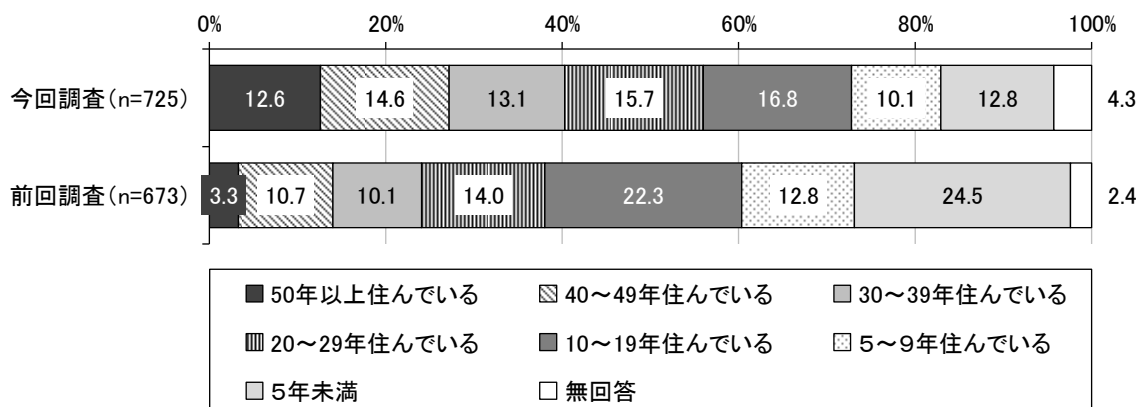
圏域	地区
第1圏域	池上、上ノ原、上野台、大原、川崎、北野、清見、駒林、駒林元町1～2丁目、新駒林、新田、滝、築地、水宮、仲、中ノ島、中丸、長宮、中福岡、西原、花ノ木、福岡、福岡新田、松山、本新田、元福岡、谷田
第2圏域	霞ヶ丘、上福岡、駒西、駒林元町3～4丁目、西、富士見台、福岡中央、福岡武蔵野、丸山、南台
第3圏域	大井中央3～4丁目、亀久保2～4丁目、亀久保(1215～2205)、鶴ヶ岡、鶴ヶ舞、西鶴ヶ岡、東久保、ふじみ野、緑ヶ丘
第4圏域	旭、市沢、うれし野、大井、大井中央1～2丁目、大井武蔵野、亀久保1丁目、亀久保(643～1196)、桜ヶ丘、苗間

※本アンケートでは、「亀久保」の回答を第3圏域に計上しています。

問8 あなたは、ふじみ野市に合計で何年住んでいますか。(単数回答)

回答者の居住年数については、「10～19年住んでいる」が16.8%と最も多く、次いで「20～29年住んでいる」が15.7%、「40～49年住んでいる」が14.6%となっています。

前回調査では、「住んでから5年未満」が24.5%と最も多く、次いで「10～19年住んでいる」が22.3%、「20～29年住んでいる」が14.0%となっています。



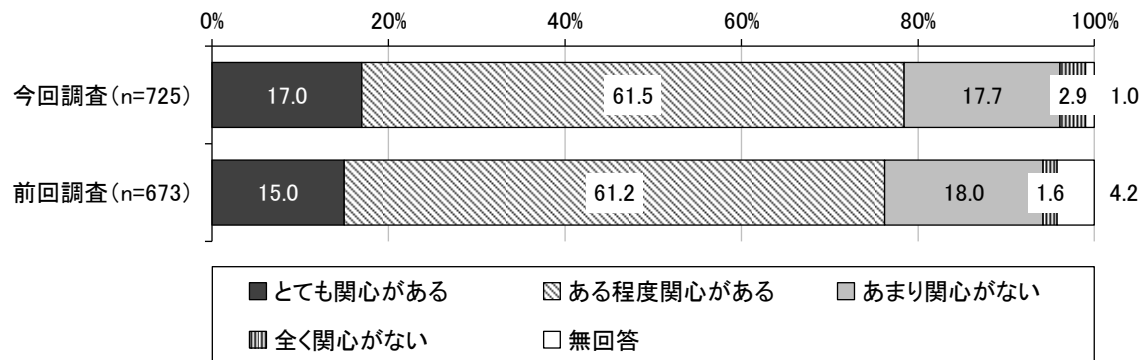
※今回調査の「5年未満」は、前回調査では「住んでから5年未満」。

2 「福祉」について

問9-(1) あなたは「福祉」に関心をおもちですか。(単数回答)

「福祉」への関心については、「ある程度関心がある」が61.5%と最も多く、「とても関心がある」の17.0%と合わせて、78.5%が“関心がある”と回答しています。「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合わせた“関心がない”は20.6%となっています。

前回調査では、“関心がある”が76.2%、“関心がない”が19.6%となっています。

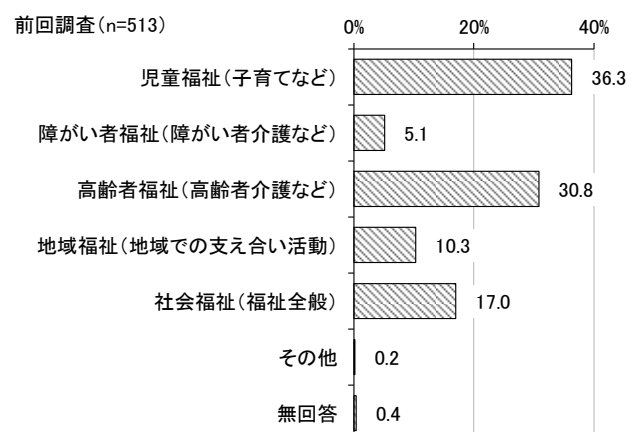
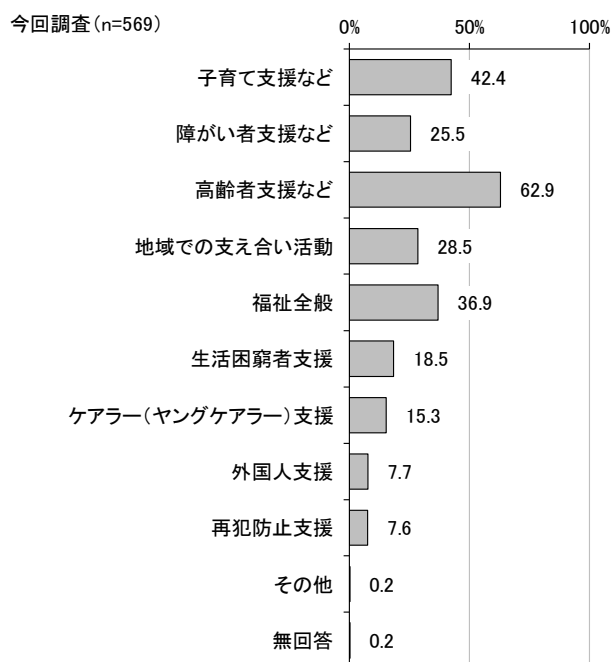


(問9-(1)で「とても関心がある」「ある程度関心がある」を選んだ人におたずねします。)

問9-(2) 特にどの福祉の分野に関心をおもちですか。(複数回答)

特にどの福祉の分野に関心があるかについては、「高齢者支援など」が62.9%と最も多く、次いで「子育て支援など」が42.4%、「福祉全般」が36.9%となっています。

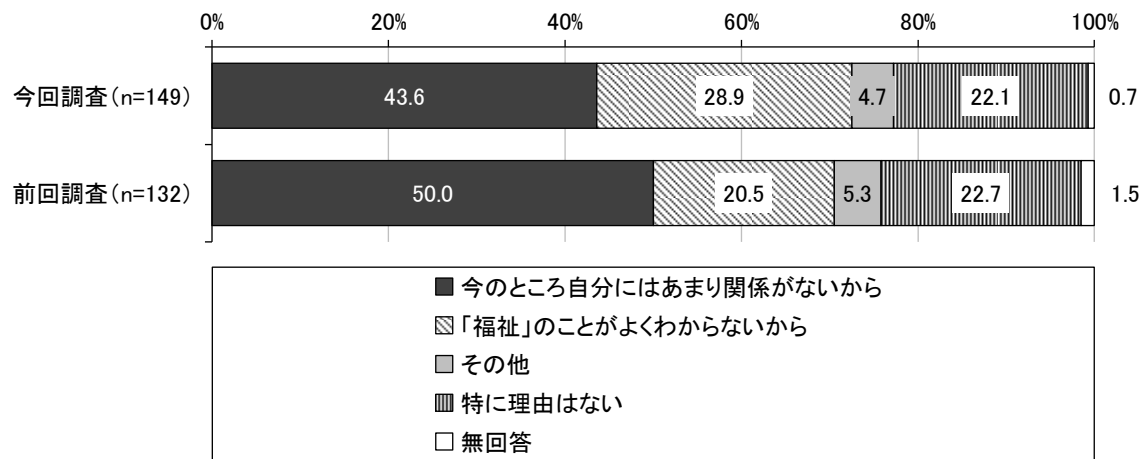
前回調査では、「児童福祉(子育てなど)」が36.3%と最も多く、次いで「高齢者福祉(高齢者介護など)」が30.8%、「社会福祉(福祉全般)」が17.0%となっています。



(問9-(1)で「あまり関心がない」「全く関心がない」を選んだ人におたずねします。)

問9-(3) その理由を教えてください。(単数回答)

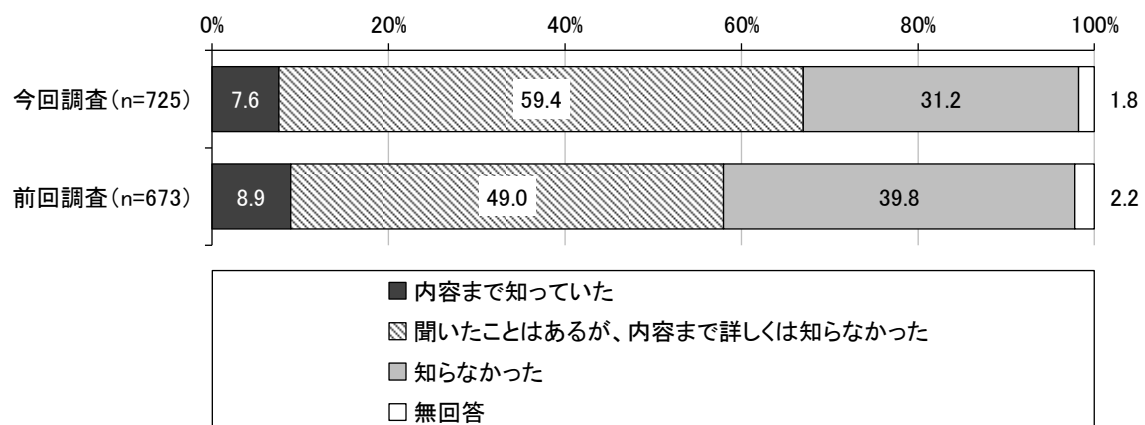
福祉に関心がない理由については、「今のところ自分にはあまり関係がないから」が43.6%と最も多く、次いで「福祉」のことがよくわからないから」が28.9%、「特に理由はない」が22.1%となっています。



問 10 あなたはこの調査の前から「地域福祉」という言葉を知っていましたか。(単数回答)

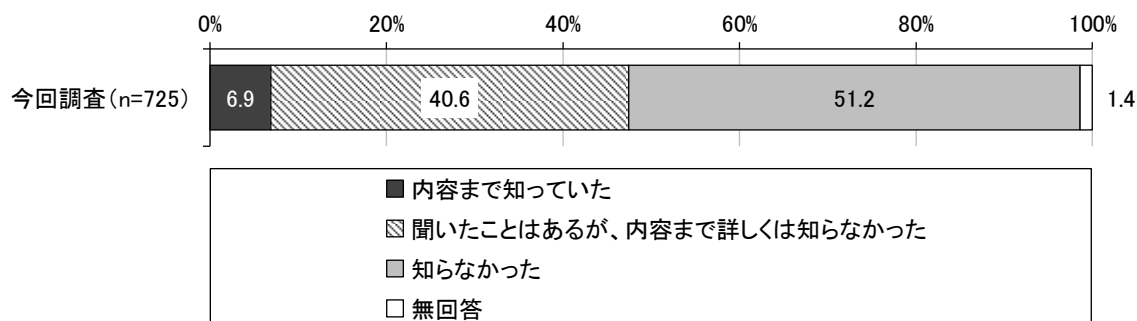
この調査を見る前から「地域福祉」という言葉を知っていたかについては、「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が59.4%と最も多く、次いで「知らなかった」が31.2%、「内容まで知っていた」が7.6%となっています。

前回調査では、「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が49.0%と最も多く、次いで「知らなかった」が39.8%、「内容まで知っていた」が8.9%となっています。



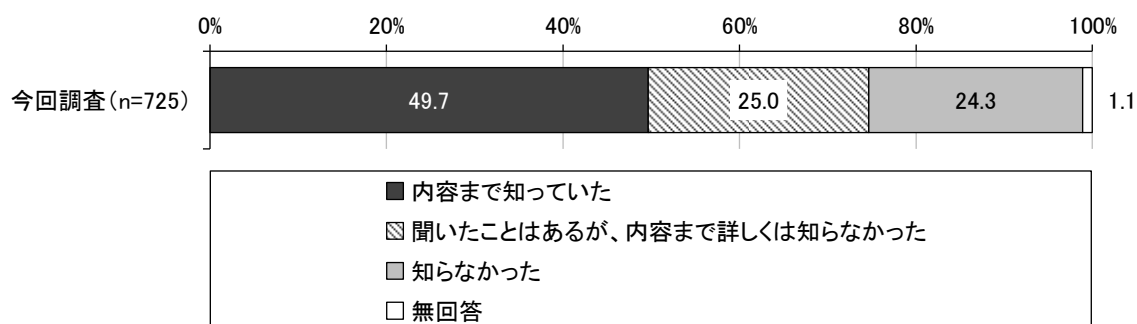
問 11 あなたはこの調査の前から「地域共生社会」という言葉を知っていましたか。(単数回答)

この調査を見る前から「地域共生社会」という言葉を知っていたかについては、「知らなかった」が51.2%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が40.6%、「内容まで知っていた」が6.9%となっています。



問 12 あなたはこの調査の前から「ケアラー(ヤングケアラー)」という言葉を知っていましたか。(単数回答)

この調査を見る前から「ケアラー(ヤングケアラー)」という言葉を知っていたかについては、「内容まで知っていた」が49.7%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容まで詳しくは知らなかった」が25.0%、「知らなかった」が24.3%となっています。

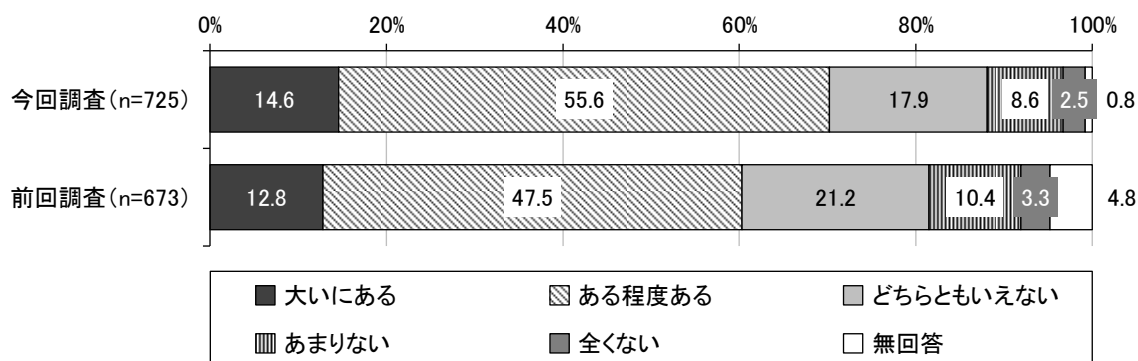


3 「地域」との関わりについて

問 13 あなたは、今住んでいる地域に愛着がありますか。(単数回答)

今住んでいる地域に愛着があるかについては、「ある程度ある」が 55.6%と最も多く、「大いにある」の 14.6%と合わせると、70.2%が“愛着がある”と回答しています。一方、「あまりない」の 8.6%と「全くない」の 2.5%を合わせた“愛着はない”は 11.1%となっています。また、「どちらともいえない」が 17.9%となっています。

前回調査では、“愛着がある”が 60.3%、“愛着はない”が 13.7%となっています。



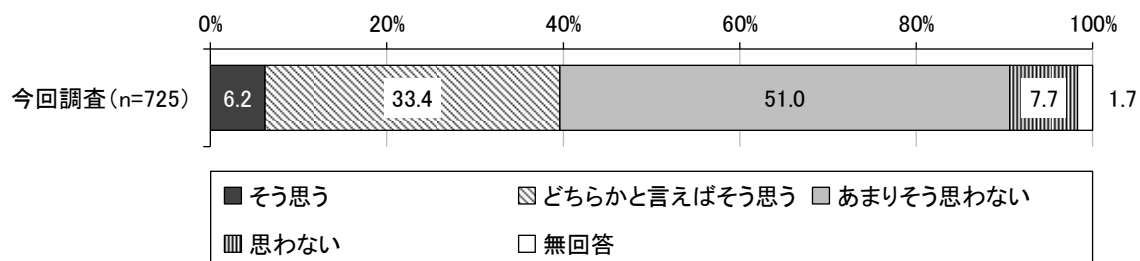
日常生活圏域別にみると、全ての日常生活圏域で「ある程度ある」が最も多くなっています。

■ 日常生活圏域別

単位: %		大いにある	ある程度ある	どちらともいえない	あまりない	全くない	無回答
今回調査 (n=725)		14.6	55.6	17.9	8.6	2.5	0.8
日常生活圏域別	第1圏域 (n=176)	10.8	58.5	17.6	9.7	2.8	0.6
	第2圏域 (n=172)	16.9	50.6	23.3	8.7	0.6	0.0
	第3圏域 (n=198)	19.7	56.6	11.6	7.6	3.0	1.5
	第4圏域 (n=157)	10.2	59.2	18.5	7.6	3.8	0.6

問 14 あなたは、今住んでいる地域には困っている人を助け合う気風があると思いますか。
(単数回答)

今住んでいる地域には困っている人を助け合う気風があると思うかについては、「あまりそう思わない」が 51.0%と最も多く、「思わない」の 7.7%と合わせると、58.7%が“思わない”と回答しています。一方、「そう思う」の 6.2%と「どちらかと言えばそう思う」の 33.4%を合わせた“そう思う”は 39.6%となっています。



日常生活圏域別にみると、全ての日常生活圏域で「あまりそう思わない」が最も多くなっています。

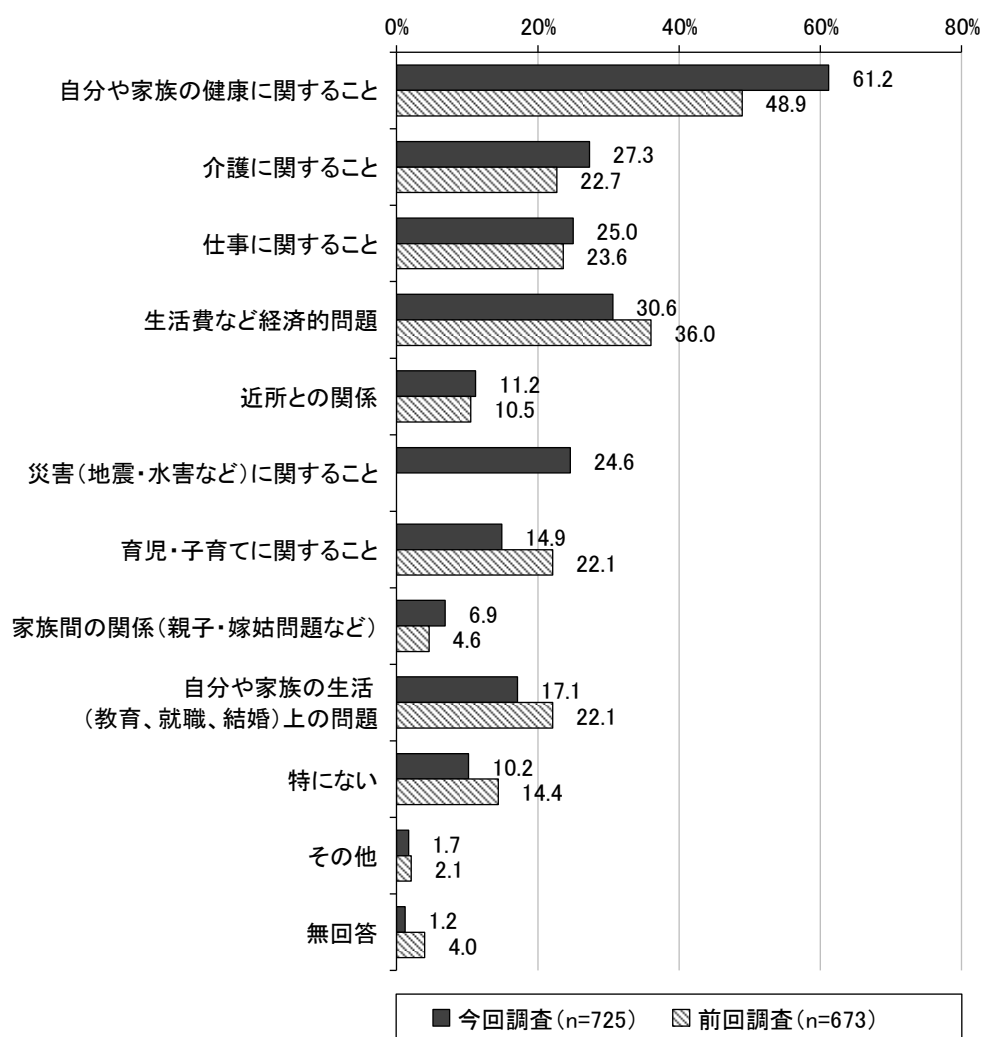
■ 日常生活圏域別

単位: %		そう思う	どちらかと言えばそう思う	あまりそう思わない	思わない	無回答
今回調査 (n=725)		6.2	33.4	51.0	7.7	1.7
日常生活圏域別	第1圏域 (n=176)	6.8	32.4	48.9	9.7	2.3
	第2圏域 (n=172)	4.7	39.0	50.0	6.4	0.0
	第3圏域 (n=198)	7.6	29.3	52.5	8.1	2.5
	第4圏域 (n=157)	5.1	33.8	52.9	7.0	1.3

問 15 あなたは、毎日の暮らしの中で、次のどのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(複数回答)

毎日の暮らしの中で悩みや不安を感じていることについては、「自分や家族の健康に関すること」が61.2%と最も多く、次いで「生活費など経済的問題」が30.6%、「介護に関すること」が27.3%となっています。

前回調査では、「自分や家族の健康に関すること」が48.9%と最も多く、次いで「生活費など経済的問題」が36.0%、「仕事に関すること」が23.6%となっています。



※「災害(地震・水害など)に関すること」は今回調査のみの選択肢。今回調査の「家族間の関係(親子・嫁姑問題など)」は、前回調査では「家族間の問題(嫁姑問題など)」。

年代別にみると、10 歳代では「自分や家族の生活（教育、就職、結婚）上の問題」、20 歳代では「自分や家族の健康に関すること」「仕事に関すること」、30 歳代では「育児・子育てに関すること」、その他の年代では「自分や家族の健康に関すること」が最も多くなっています。

職業別にみると、学生では「自分や家族の生活（教育、就職、結婚）上の問題」、その他の職業では「自分や家族の健康に関すること」が最も多くなっています。

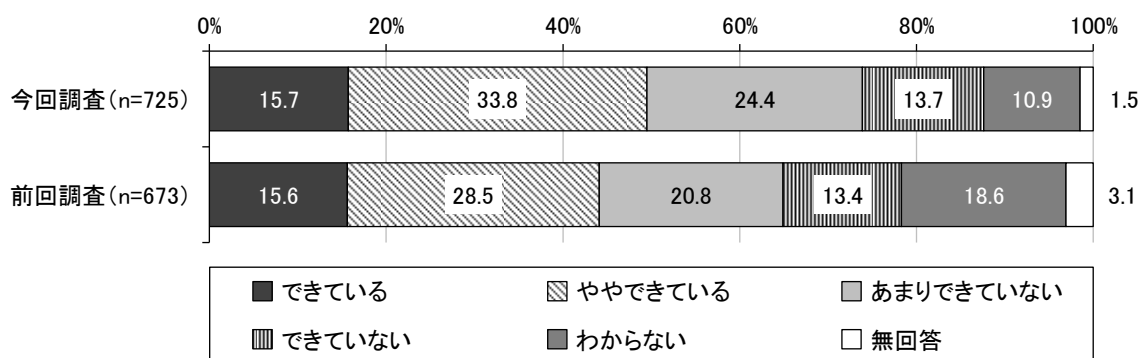
■年代別・職業別

単位：%		自分や家族の健康に関すること	介護に関すること	仕事に関すること	生活費など経済的問題	近所との関係	災害（地震・水害など）に関すること	育児・子育てに関すること	家族間の関係（親子・嫁姑問題など）	自分や家族の生活（教育、就職、結婚）上の問題	特にない	その他	無回答
今回調査 (n=725)		61.2	27.3	25.0	30.6	11.2	24.6	14.9	6.9	17.1	10.2	1.7	1.2
年代別	10歳代 (n=7)	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	71.4	28.6	0.0	0.0
	20歳代 (n=57)	40.4	14.0	40.4	36.8	3.5	24.6	14.0	1.8	24.6	10.5	1.8	0.0
	30歳代 (n=109)	47.7	7.3	39.4	35.8	13.8	25.7	53.2	9.2	22.0	9.2	1.8	0.9
	40歳代 (n=103)	66.0	27.2	38.8	30.1	16.5	30.1	33.0	11.7	25.2	8.7	1.9	0.0
	50歳代 (n=110)	61.8	37.3	33.6	32.7	7.3	26.4	2.7	10.9	24.5	4.5	2.7	0.0
	60歳代 (n=145)	71.7	37.2	20.0	37.2	10.3	27.6	1.4	5.5	11.0	9.7	1.4	2.1
	70歳代 (n=137)	67.2	31.4	5.1	19.0	12.4	18.2	2.2	4.4	5.8	16.1	0.0	1.5
	80歳以上 (n=46)	67.4	32.6	0.0	21.7	15.2	19.6	0.0	2.2	6.5	10.9	4.3	4.3
職業別	正規社員・職員 (n=209)	50.7	21.5	38.3	31.1	10.5	22.0	29.2	10.5	22.0	10.5	1.4	0.5
	自営業主・自営業手伝い (n=53)	64.2	34.0	39.6	39.6	13.2	24.5	9.4	3.8	15.1	11.3	0.0	0.0
	嘱託・派遣 (n=24)	62.5	45.8	25.0	37.5	20.8	41.7	29.2	16.7	12.5	4.2	4.2	0.0
	パート・アルバイト (n=121)	66.1	30.6	33.1	41.3	13.2	25.6	10.7	6.6	14.0	5.8	0.8	1.7
	学生 (n=23)	34.8	13.0	26.1	34.8	4.3	21.7	13.0	0.0	43.5	17.4	0.0	0.0
	会社役員など (n=17)	76.5	23.5	23.5	11.8	0.0	17.6	5.9	11.8	35.3	5.9	5.9	5.9
	再雇用・シルバー人材センターの就労 (n=15)	53.3	40.0	20.0	40.0	20.0	46.7	0.0	13.3	20.0	13.3	0.0	0.0
	その他 (n=23)	56.5	26.1	21.7	26.1	0.0	21.7	8.7	8.7	4.3	13.0	8.7	4.3
	仕事はしていない(年金生活者・専業主婦(主夫)を含む) (n=226)	70.4	29.2	6.6	22.1	11.5	24.8	7.1	3.5	12.8	11.9	1.8	1.3

問 16 あなたは、コミュニティ活動や地域の情報などについて、身近な地域で情報を伝達する取り組み(自治組織(町会・自治会・町内会)の会報・回覧板・口コミなど)ができていると思いますか。(単数回答)

コミュニティ活動や地域の情報などについて、身近な地域で情報を伝達する取り組みができていると思うかについては、「ややできている」が33.8%と最も多く、「できている」の15.7%と合わせると、49.5%が“できている”と回答しています。一方、「あまりできていない」の24.4%と「できていない」の13.7%を合わせた“できていない”は38.1%となっています。また、「わからない」は10.9%となっています。

前回調査では、“できている”が44.1%、“できていない”が34.2%となっています。



年代別にみると、20歳代、40歳代では“できている”が3割台、30歳代では4割台とその他の年代に比べて少なくなっています。

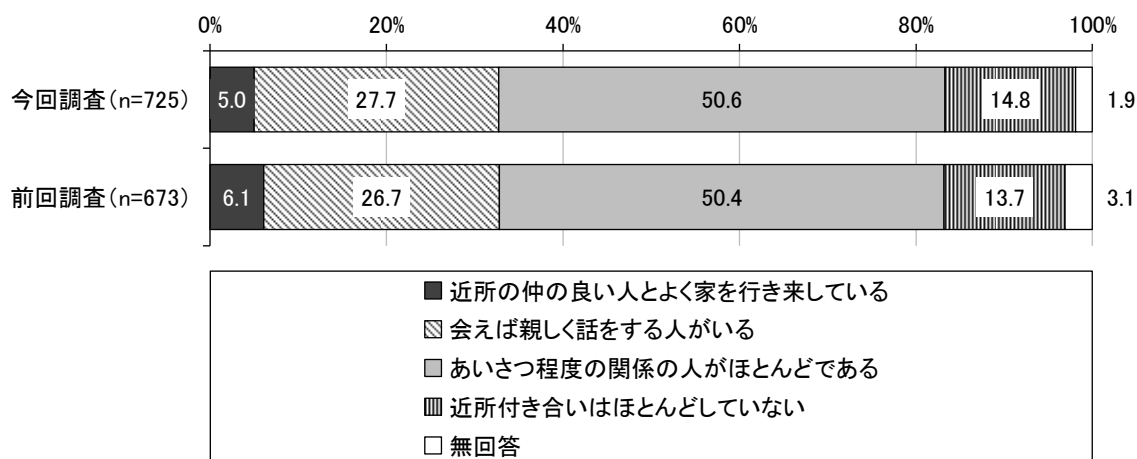
■年代別

単位: %		できている	ややできている	あまりできていない	できていない	わからない	無回答	できている(計)	できていない(計)
今回調査(n=725)		15.7	33.8	24.4	13.7	10.9	1.5	49.5	38.1
年代別	10歳代(n=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	57.2	28.6
	20歳代(n=57)	5.3	26.3	26.3	22.8	19.3	0.0	31.6	49.1
	30歳代(n=109)	4.6	37.6	23.9	18.3	15.6	0.0	42.2	42.2
	40歳代(n=103)	10.7	25.2	35.0	20.4	8.7	0.0	35.9	55.4
	50歳代(n=110)	18.2	32.7	26.4	14.5	7.3	0.9	50.9	40.9
	60歳代(n=145)	15.2	40.7	22.8	11.7	8.3	1.4	55.9	34.5
	70歳代(n=137)	27.0	38.7	16.8	6.6	8.0	2.9	65.7	23.4
	80歳以上(n=46)	28.3	21.7	26.1	4.3	13.0	6.5	50.0	30.4

問 17(ア) ふだん近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(単数回答)

ふだん近所の人とどの程度の付き合いをしているかについては、「あいさつ程度の関係の人がほとんどである」が50.6%と最も多く、次いで「会えば親しく話をする人がいる」が27.7%、「近所付き合いはほとんどしていない」が14.8%となっています。

前回調査では、「あいさつ程度関係の人がほとんどである」が50.4%と最も多く、次いで「会えば親しく話をする人がいる」が26.7%、「近所付き合いはほとんどしていない」が13.7%となっています。



年代別にみると、70歳代では「会えば親しく話をする人がいる」が4割台とその他の年代に比べて多くなっています。

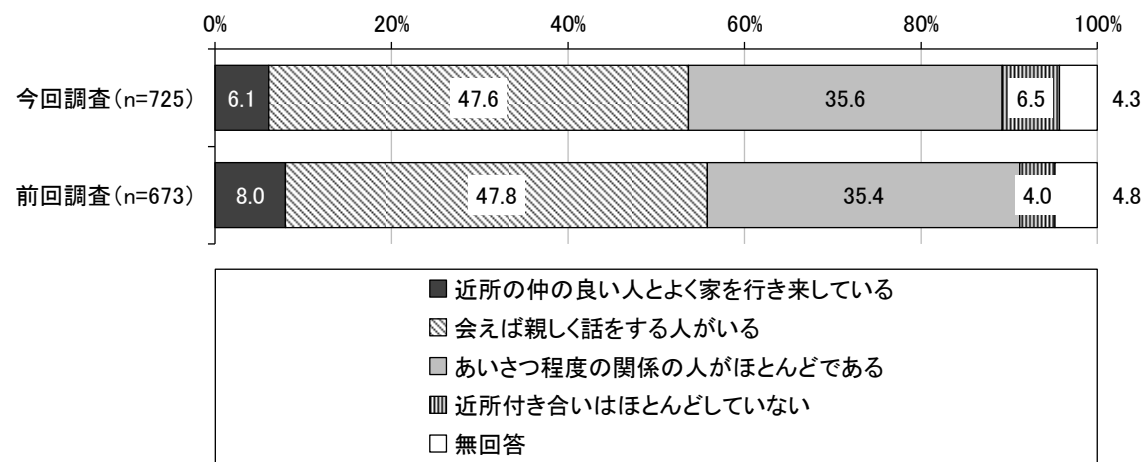
■年代別

単位: %		近所の仲の良い人とよく家を行	会えば親しく話をする人がいる	あいさつ程度関係の人がほと	近所付き合いはほとんどしてい	無回答
今回調査 (n=725)		5.0	27.7	50.6	14.8	1.9
年代別	10歳代 (n=7)	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
	20歳代 (n=57)	1.8	5.3	59.6	31.6	1.8
	30歳代 (n=109)	4.6	19.3	54.1	22.0	0.0
	40歳代 (n=103)	5.8	26.2	53.4	13.6	1.0
	50歳代 (n=110)	2.7	28.2	48.2	20.0	0.9
	60歳代 (n=145)	7.6	31.7	51.0	8.3	1.4
	70歳代 (n=137)	5.1	43.1	43.1	5.8	2.9
	80歳以上 (n=46)	6.5	19.6	50.0	15.2	8.7

問 17(イ) 今後はどの程度の付き合いをしていきたいですか。(単数回答)

今後はどの程度の付き合いをしていきたいかについては、「会えば親しく話をする人がいる」が47.6%と最も多く、次いで「あいさつ程度の関係の人がほとんどである」が35.6%、「近所付き合いはほとんどしていない」が6.5%となっています。

前回調査では、「会えば親しく話をする人がいる」が47.8%と最も多く、次いで「あいさつ程度の関係の人がほとんどである」が35.4%、「近所の仲の良い人とよく家を行き来している」が8.0%となっています。



年代別にみると、10歳代、20歳代、30歳代では「あいさつ程度の関係の人がほとんどである」、その他の年代では「会えば親しく話をする人がいる」が最も多くなっています。

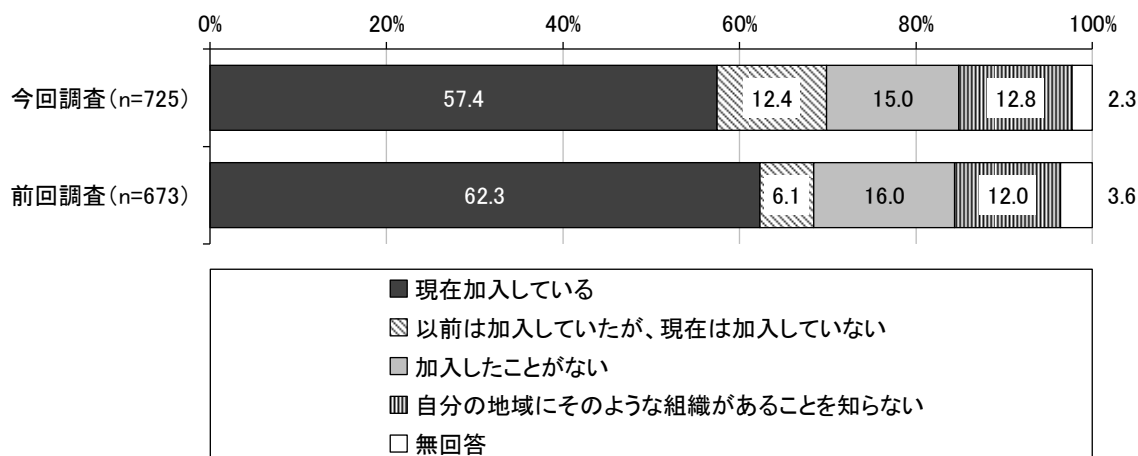
■年代別

単位: %		近所の仲の良い人とよく家を行き来している	会えば親しく話をする人がいる	あいさつ程度の関係の人がほとんどである	近所付き合いはほとんどしていない	無回答
今回調査 (n=725)		6.1	47.6	35.6	6.5	4.3
年代別	10歳代 (n=7)	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0
	20歳代 (n=57)	1.8	26.3	49.1	19.3	3.5
	30歳代 (n=109)	4.6	41.3	42.2	9.2	2.8
	40歳代 (n=103)	6.8	52.4	34.0	5.8	1.0
	50歳代 (n=110)	2.7	47.3	40.0	8.2	1.8
	60歳代 (n=145)	10.3	51.7	32.4	2.1	3.4
	70歳代 (n=137)	6.6	57.7	28.5	2.2	5.1
	80歳以上 (n=46)	6.5	43.5	19.6	10.9	19.6

問 18 あなたは、自治組織(町会・自治会・町内会)に加入していますか。(単数回答)

町会や自治会・町内会への加入状況については、「現在加入している」が57.4%と最も多くなっているものの、「加入したことがない」が15.0%、「自分の地域にそのような組織があることを知らない」が12.8%、「以前は加入していたが、現在は加入していない」が12.4%と、合わせて“加入していない”が40.2%となっています。

前回調査では、「現在加入している」が62.3%と最も多くなっているものの、「加入したことがない」が16.0%、「自分の地域にそのような組織があることを知らない」が12.0%、「以前は加入していたが、現在は加入していない」が6.1%と、合わせて“加入していない”が34.1%となっています。



年代別にみると、“加入していない”は20歳代で6割台、30歳代、40歳代で5割台となっています。

■年代別

単位: %		現在加入している	以前は加入していたが、現在は加入していない	加入したことがない	自分の地域にそのような組織があることを知らない	無回答	加入していない(計)
今回調査 (n=725)		57.4	12.4	15.0	12.8	2.3	40.2
年代別	10歳代 (n=7)	71.4	0.0	14.3	14.3	0.0	28.6
	20歳代 (n=57)	33.3	3.5	31.6	28.1	3.5	63.2
	30歳代 (n=109)	42.2	2.8	24.8	29.4	0.9	57.0
	40歳代 (n=103)	43.7	15.5	23.3	17.5	0.0	56.3
	50歳代 (n=110)	63.6	14.5	12.7	8.2	0.9	35.4
	60歳代 (n=145)	67.6	16.6	7.6	6.9	1.4	31.1
	70歳代 (n=137)	69.3	16.1	7.3	2.9	4.4	26.3
	80歳以上 (n=46)	63.0	13.0	8.7	6.5	8.7	28.2

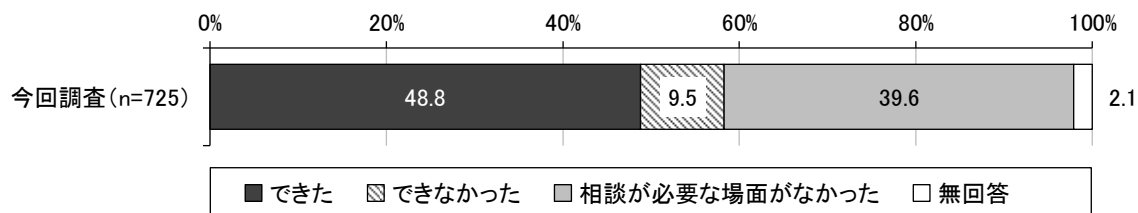
「以前は加入していたが、現在は加入していない」または「加入したことがない」理由について、記述回答として 148 件の回答がありました。内容から分類すると、以下のようになります。

■「以前は加入していたが、現在は加入していない」または「加入したことがない」理由（自由記述）

分類	件数
加入の必要性を感じないため	23 件
アパート・マンションのため	19 件
時間が合わないため・忙しいため	13 件
活動内容が見えないため	9 件
仕事のため	8 件
転入してきたばかり、または転出の可能性があるため	7 件
面倒だから	7 件
高齢のため	6 件
入り方がわからないため	4 件
役員・役職が大変だから	4 件
人付き合いがおっくうであるため	4 件
賃貸のため	3 件
自身の体調のため	3 件
加入しなくてもよくなった、組織がなくなった（ない）ため	3 件
人材が不足しているため	2 件
集金額と見合わないと感じたため	2 件
組織内での人間関係	2 件
誘われないため	1 件
何らかの理由があり、できない	1 件
機会がないため	1 件
その他	26 件
合計	148 件

問 19 あなたはこの1年間、相談や助けが必要なときに、誰かに相談することができましたか。
(単数回答)

この1年間、相談や助けが必要なときに、誰かに相談することができたかについては、「できた」が48.8%と最も多く、次いで「相談が必要な場面がなかった」が39.6%、「できなかった」が9.5%となっています。



年代別にみると、60歳代、70歳代、80歳以上では「相談が必要な場面がなかった」、その他の年代では「できた」が最も多くなっています。

■年代別

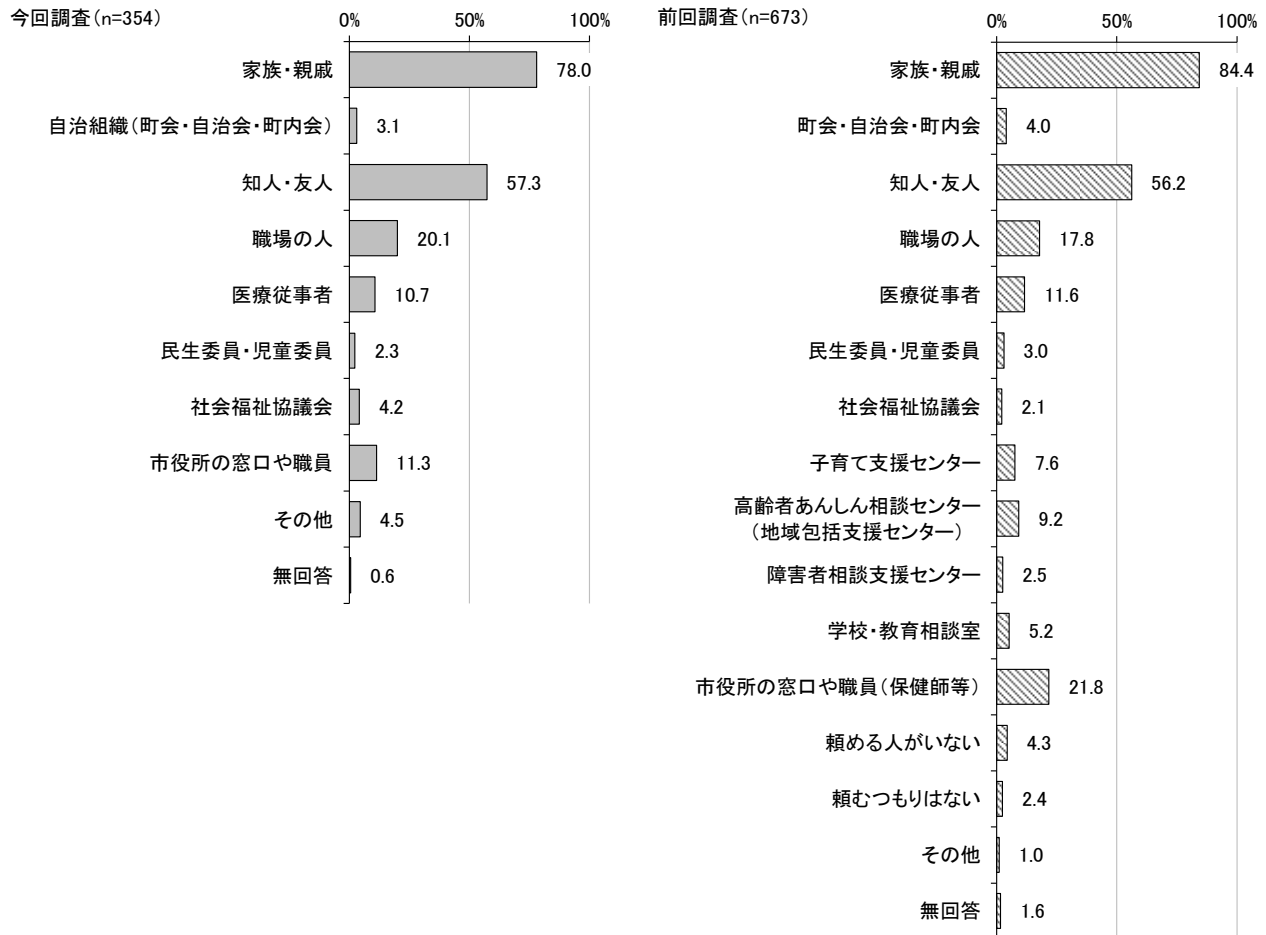
単位: %		できた	できなかった	相談が必要な場面がなかった	無回答
今回調査(n=725)		48.8	9.5	39.6	2.1
年代別	10歳代(n=7)	71.4	14.3	14.3	0.0
	20歳代(n=57)	42.1	19.3	38.6	0.0
	30歳代(n=109)	65.1	11.9	22.9	0.0
	40歳代(n=103)	55.3	9.7	35.0	0.0
	50歳代(n=110)	50.0	10.0	39.1	0.9
	60歳代(n=145)	42.8	6.2	49.0	2.1
	70歳代(n=137)	40.1	7.3	49.6	2.9
	80歳以上(n=46)	37.0	8.7	41.3	13.0

(問 19 で「できた」を選んだ人におたずねします。)

問 20 あなたは、誰(どこ)に相談しましたか。(複数回答)

相談先についてみると、「家族・親戚」が78.0%と最も多く、次いで「知人・友人」が57.3%、「職場の人」が20.1%となっています。

前回調査では、「家族・親戚」が84.4%と最も多く、次いで「知人・友人」が56.2%、「市役所の窓口や職員(保健師等)」が21.8%となっています。



※前回調査では全回答者が対象。設問文：暮らしの中で相談が必要なときに誰に頼みたいと思いますか。

年代別にみると、全ての年代で「家族・親戚」が多くなっていますが、年代が上がるにつれその割合が低くなっています。また、30歳代では「職場の人」が4割台とその他の年代に比べて多くなっています。

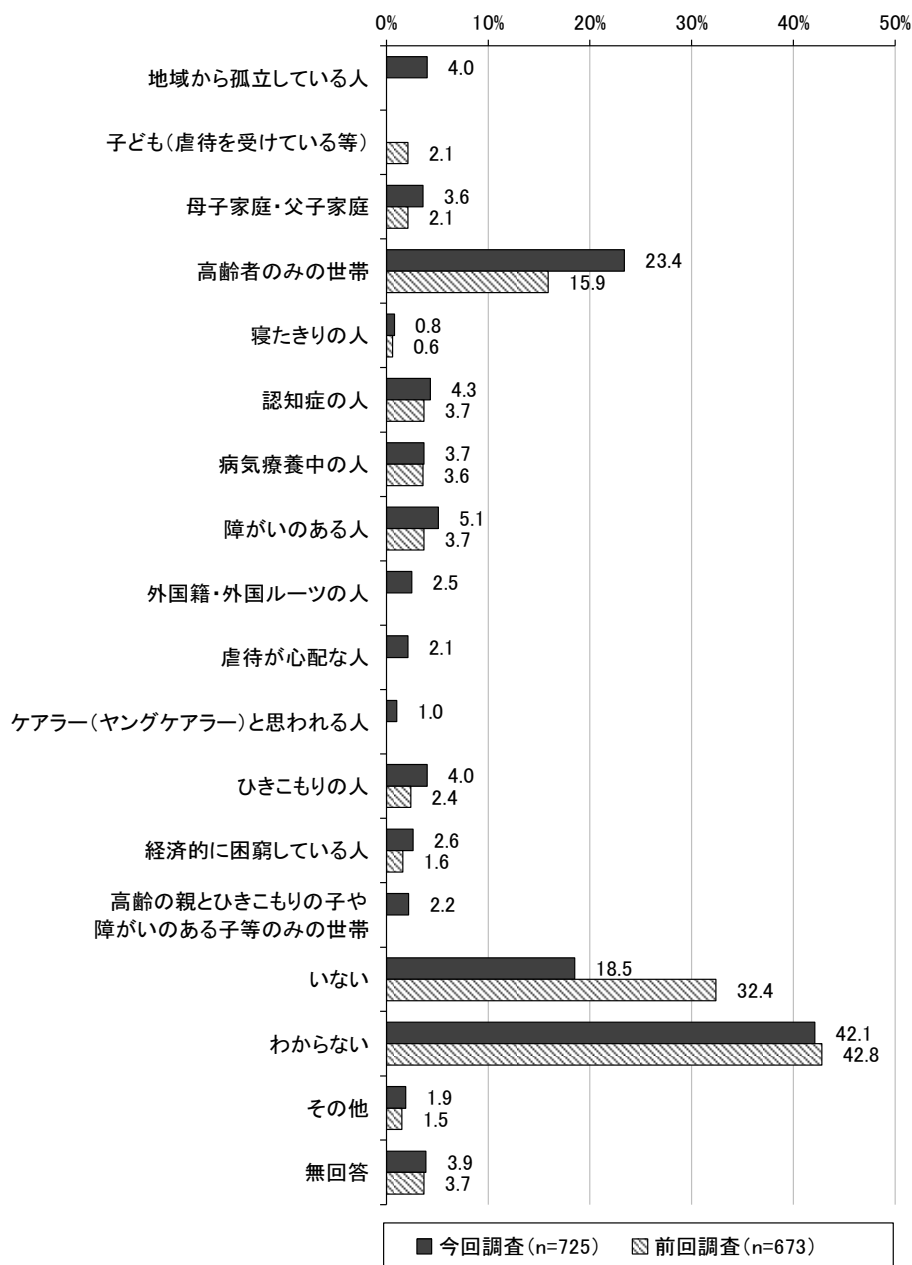
■年代別

単位：%		家族・親戚	自治組織 (町会・自治会・町内会)	知人・友人	職場の人	医療従事者	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	市役所の窓口や職員	その他	無回答
今回調査(n=354)		78.0	3.1	57.3	20.1	10.7	2.3	4.2	11.3	4.5	0.6
年代別	10歳代(n=5)	80.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	20歳代(n=24)	91.7	4.2	79.2	20.8	8.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0
	30歳代(n=71)	87.3	2.8	60.6	46.5	8.5	1.4	2.8	7.0	5.6	0.0
	40歳代(n=57)	80.7	0.0	59.6	26.3	5.3	0.0	0.0	8.8	3.5	0.0
	50歳代(n=55)	81.8	1.8	63.6	20.0	7.3	1.8	3.6	1.8	9.1	0.0
	60歳代(n=62)	69.4	4.8	54.8	8.1	17.7	3.2	6.5	25.8	4.8	0.0
	70歳代(n=55)	67.3	5.5	49.1	1.8	14.5	5.5	7.3	10.9	1.8	1.8
	80歳以上(n=17)	58.8	5.9	29.4	0.0	11.8	5.9	17.6	17.6	0.0	0.0

問 21 あなたの近所には、次のような、見守り等の支援が必要な人や、気にかかる人(何らかの問題を抱えている人)がいますか。(複数回答)

近所で、見守り等の支援が必要な人や、気にかかる人（何らかの問題を抱えている人）については、「わからない」が42.1%と最も多く、次いで「高齢者のみの世帯」が23.4%、「いない」が18.5%となっています。

前回調査では、「わからない」が42.8%と最も多く、次いで「いない」が32.4%、「高齢者のみの世帯」が15.9%となっています。



※「地域から孤立している人」「外国籍・外国ルーツの人」「虐待が心配な人」「ケアラー（ヤングケアラー）と思われる人」「高齢の親とひきこもりの子や障がいのある子等のみの世帯」は今回調査のみの選択肢。「子ども（虐待を受けている等）」は前回調査のみの選択肢。

日常生活圏域別にみると、全ての日常生活圏域で「わからない」が最も多くなっています。また、第1圏域で「いない」がその他の日常生活圏域に比べて多くなっています。

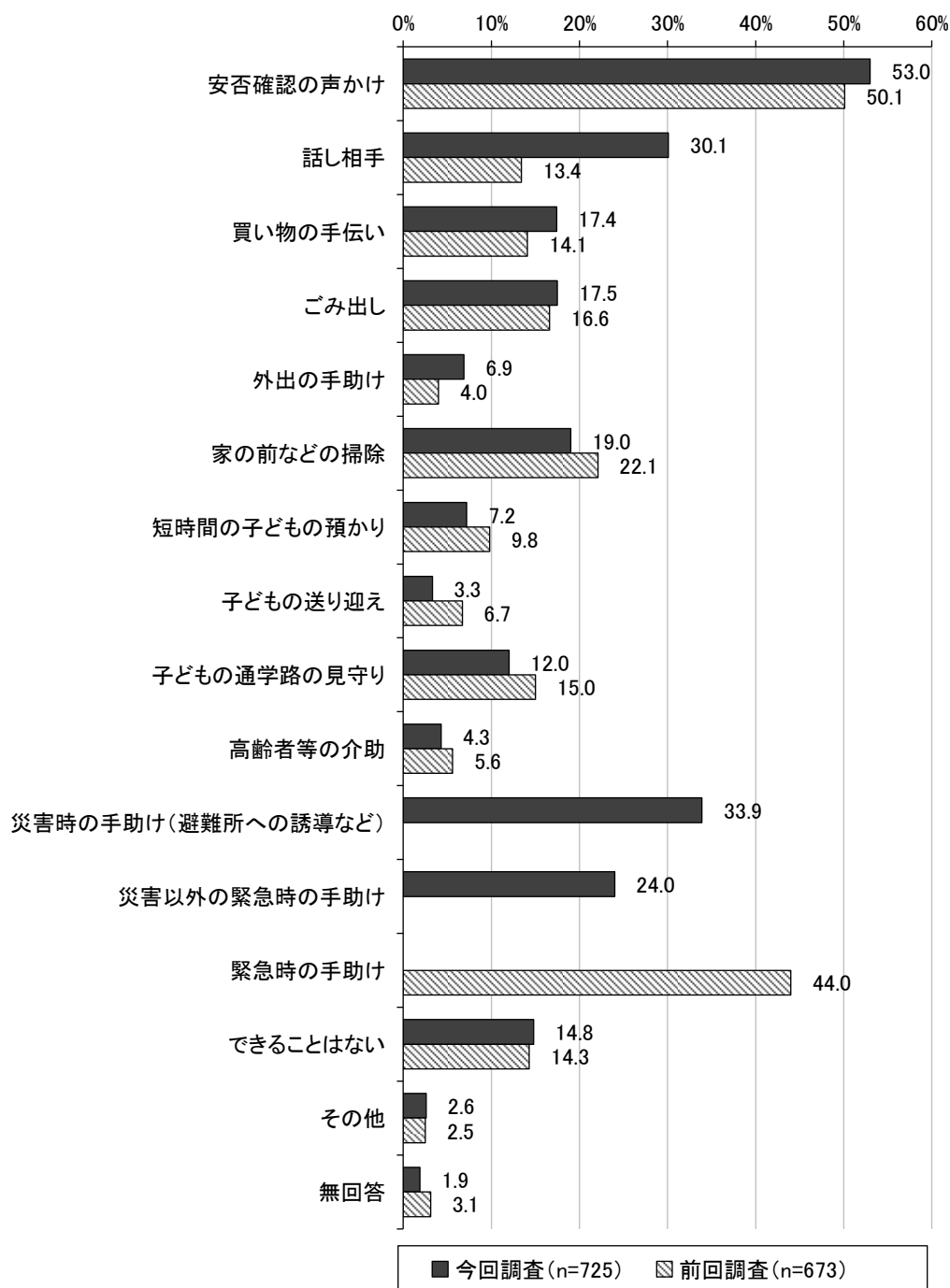
■日常生活圏域別

単位：％		地域から孤立している人	母子家庭・父子家庭	高齢者のみの世帯	寝たきりの人	認知症の人	病気療養中の人	障がいのある人	外国籍・外国ルーツの人	虐待が心配な人
今回調査(n=725)		4.0	3.6	23.4	0.8	4.3	3.7	5.1	2.5	2.1
日常生活圏域別	第1圏域(n=176)	2.3	4.0	23.3	1.1	2.8	3.4	4.0	2.3	0.6
	第2圏域(n=172)	4.1	2.9	22.7	0.6	2.3	3.5	7.0	3.5	1.2
	第3圏域(n=198)	5.1	3.0	24.7	0.5	6.1	4.5	4.0	1.0	4.0
	第4圏域(n=157)	4.5	4.5	21.0	1.3	4.5	3.2	4.5	3.2	1.3
単位：％		ケアラー（ヤングケアラー）と思われる人	ひきこもりの人	経済的に困窮している人	高齢の親とひきこもりの世帯や障がいのある子等のみの子や	いない	わからない	その他	無回答	
今回調査(n=725)		1.0	4.0	2.6	2.2	18.5	42.1	1.9	3.9	
日常生活圏域別	第1圏域(n=176)	1.1	2.3	2.3	0.6	25.0	39.8	1.7	1.1	
	第2圏域(n=172)	0.0	3.5	2.9	1.7	16.3	46.5	1.7	3.5	
	第3圏域(n=198)	1.5	5.6	3.0	4.0	16.2	38.4	2.5	5.1	
	第4圏域(n=157)	1.3	5.1	2.5	2.5	17.8	47.1	1.3	4.5	

問 22 隣近所で、高齢者や障がいのある人の介護・介助、子育て、外国籍であることなどで困っている家庭があった場合、あなたはどのような手助けができますか。（複数回答）

隣近所で困っている家庭があった場合、できる手助けについては、「安否確認の声かけ」が 53.0%と最も多く、次いで「災害時の手助け（避難所への誘導など）」が 33.9%、「話し相手」が 30.1%となっています。

前回調査では、「安否確認の声かけ」が 50.1%と最も多く、次いで「緊急時の手助け」が 44.0%、「家の前などの掃除」が 22.1%となっています。



※「災害時の手助け（避難所への誘導など）」「災害以外の緊急時の手助け」は今回調査のみの選択肢。「緊急時の手助け」は前回調査のみの選択肢。今回調査の「話し相手」「できることはない」は、前回調査では「趣味などの話し相手」「特にない」。

年代別にみると、10 歳代、20 歳代では「災害時の手助け（避難所への誘導など）」、30 歳代では「安否確認の声かけ」「災害時の手助け（避難所への誘導など）」、その他の年代では「安否確認の声かけ」が最も多くなっています。また、「災害時の手助け（避難所への誘導など）」は、年代が上がるにつれその割合が低くなっています。

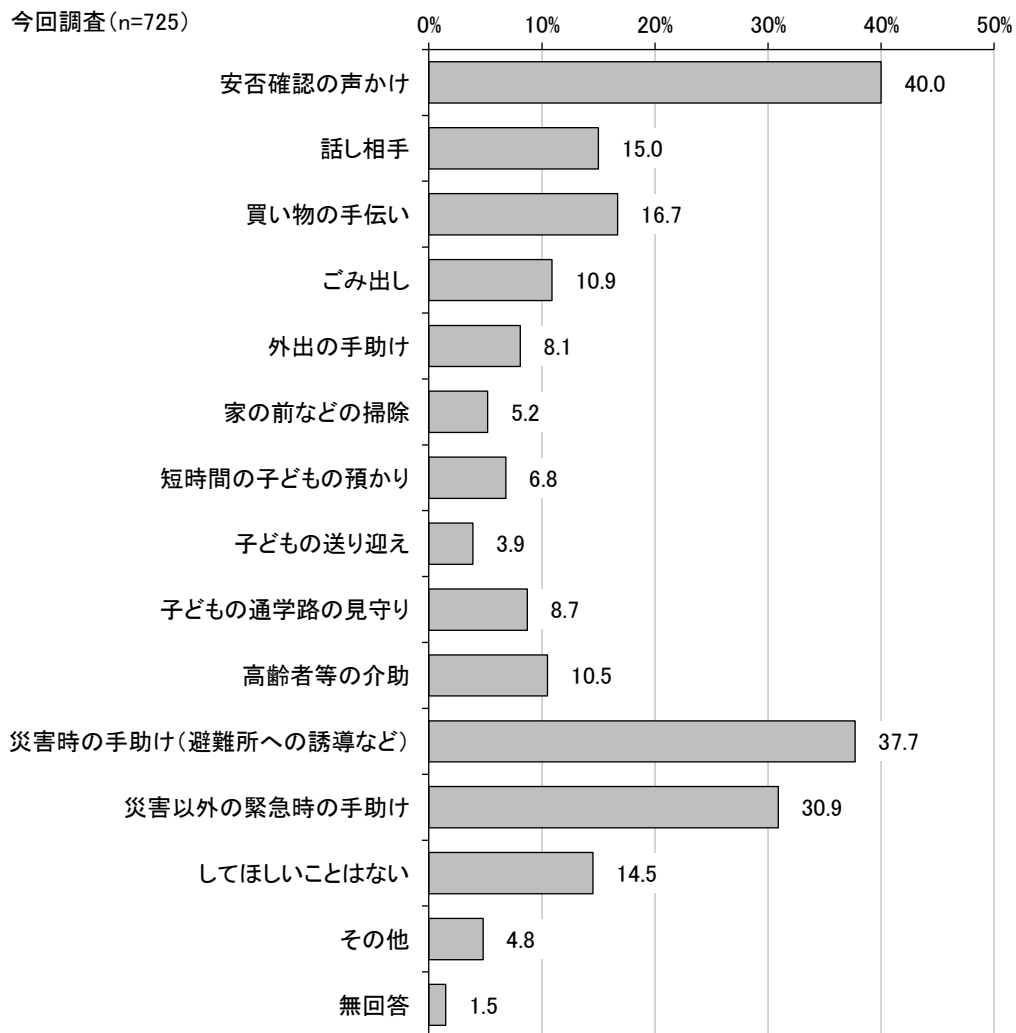
■年代別

単位：％		安否確認の声かけ	話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり	子どもの送り迎え
今回調査(n=725)		53.0	30.1	17.4	17.5	6.9	19.0	7.2	3.3
年代別	10歳代(n=7)	42.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	38.6	33.3	14.0	10.5	10.5	5.3	8.8	7.0
	30歳代(n=109)	44.0	40.4	18.3	11.9	3.7	11.9	11.9	9.2
	40歳代(n=103)	52.4	27.2	10.7	7.8	3.9	17.5	4.9	1.0
	50歳代(n=110)	55.5	22.7	19.1	15.5	6.4	18.2	9.1	0.0
	60歳代(n=145)	63.4	27.6	21.4	26.2	6.2	22.8	3.4	4.1
	70歳代(n=137)	61.3	32.1	19.0	25.5	11.7	29.9	7.3	1.5
	80歳以上(n=46)	34.8	26.1	6.5	17.4	6.5	17.4	4.3	0.0

単位：％		子どもの通学路の見守り	高齢者等の介助	（災害時の手助け （避難所への誘導など）	災害以外の緊急時の手助け	できることはない	その他	無回答
今回調査(n=725)		12.0	4.3	33.9	24.0	14.8	2.6	1.9
年代別	10歳代(n=7)	0.0	0.0	57.1	42.9	14.3	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	14.0	14.0	47.4	33.3	19.3	1.8	0.0
	30歳代(n=109)	18.3	2.8	44.0	29.4	16.5	1.8	0.0
	40歳代(n=103)	9.7	4.9	43.7	27.2	13.6	4.9	0.0
	50歳代(n=110)	8.2	1.8	41.8	27.3	12.7	2.7	0.9
	60歳代(n=145)	13.8	4.8	30.3	22.8	10.3	2.8	2.1
	70歳代(n=137)	12.4	2.9	21.9	16.1	13.1	0.7	2.2
	80歳以上(n=46)	2.2	2.2	0.0	8.7	32.6	4.3	10.9

問 23 あなたが困ったときに、地域でどのような手助けをしてほしいと思いますか。(複数回答)

あなたが困ったときに、地域でどのような手助けをしてほしいと思うかについては、「安否確認の声かけ」が40.0%と最も多く、次いで「災害時の手助け（避難所への誘導など）」が37.7%、「災害以外の緊急時の手助け」が30.9%となっています。



年代別にみると、10 歳代では「災害以外の緊急時の手助け」、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「災害時の手助け（避難所への誘導など）」、その他の年代では「安否確認の声かけ」が最も多くなっています。また、30 歳代では「子どもの通学路の見守り」、80 歳以上では「高齢者等の介助」がその他の年代に比べて多くなっています。

■年代別

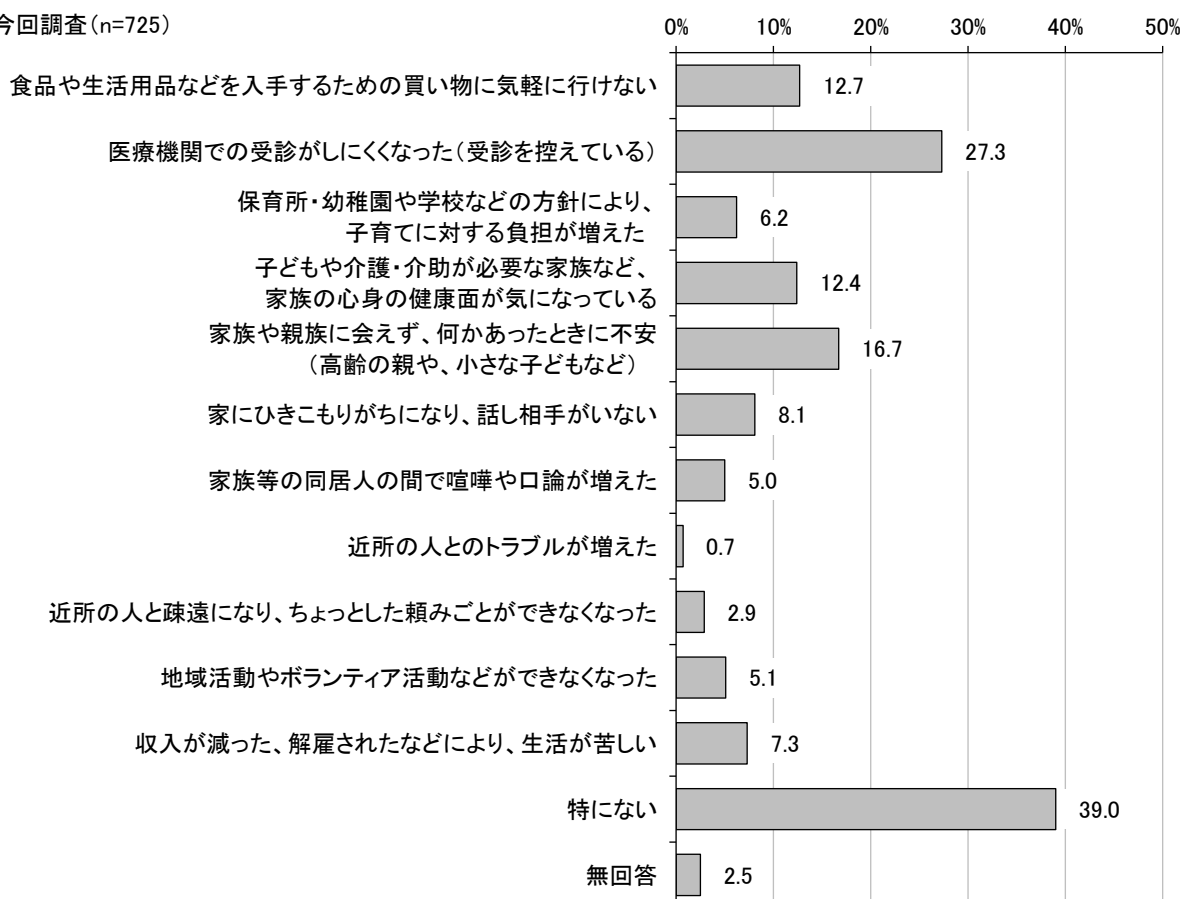
単位：％		安否確認の声かけ	話し相手	買い物の手伝い	ごみ出し	外出の手助け	家の前などの掃除	短時間の子どもの預かり	子どもの送り迎え
今回調査(n=725)		40.0	15.0	16.7	10.9	8.1	5.2	6.8	3.9
年代別	10歳代(n=7)	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	17.5	15.8	7.0	1.8	5.3	0.0	3.5	5.3
	30歳代(n=109)	28.4	21.1	13.8	5.5	8.3	6.4	21.1	10.1
	40歳代(n=103)	38.8	11.7	15.5	4.9	7.8	2.9	18.4	10.7
	50歳代(n=110)	46.4	7.3	15.5	10.9	8.2	5.5	1.8	0.0
	60歳代(n=145)	51.0	16.6	17.9	11.7	8.3	6.2	0.7	1.4
	70歳代(n=137)	44.5	14.6	24.1	21.9	9.5	8.0	1.5	0.7
	80歳以上(n=46)	37.0	23.9	17.4	15.2	8.7	4.3	0.0	0.0

単位：％		子どもの通学路の見守り	高齢者等の介助	（災害時の手助け （避難所への誘導など）	災害以外の緊急時の手助け	してほしいことはない	その他	無回答
今回調査(n=725)		8.7	10.5	37.7	30.9	14.5	4.8	1.5
年代別	10歳代(n=7)	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	0.0
	20歳代(n=57)	8.8	10.5	50.9	35.1	21.1	3.5	0.0
	30歳代(n=109)	32.1	3.7	41.3	32.1	19.3	2.8	0.0
	40歳代(n=103)	14.6	11.7	47.6	35.9	11.7	5.8	0.0
	50歳代(n=110)	1.8	11.8	33.6	29.1	20.0	5.5	0.9
	60歳代(n=145)	2.8	9.0	40.0	33.1	10.3	5.5	2.1
	70歳代(n=137)	1.5	11.7	28.5	28.5	13.1	3.6	2.9
	80歳以上(n=46)	0.0	23.9	28.3	17.4	6.5	6.5	2.2

問 24 新型コロナウイルス感染症の感染拡大や予防対策の影響を受けて、以下のことであなたに当てはまるものはありますか。（複数回答）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や予防対策の影響を受けて、当てはまるものについては、「特にない」が 39.0%と最も多く、次いで「医療機関での受診がしにくくなった（受診を控えている）」が 27.3%、「家族や親族に会えず、何かあったときに不安（高齢の親や、小さな子どもなど）」が 16.7%となっています。

今回調査(n=725)



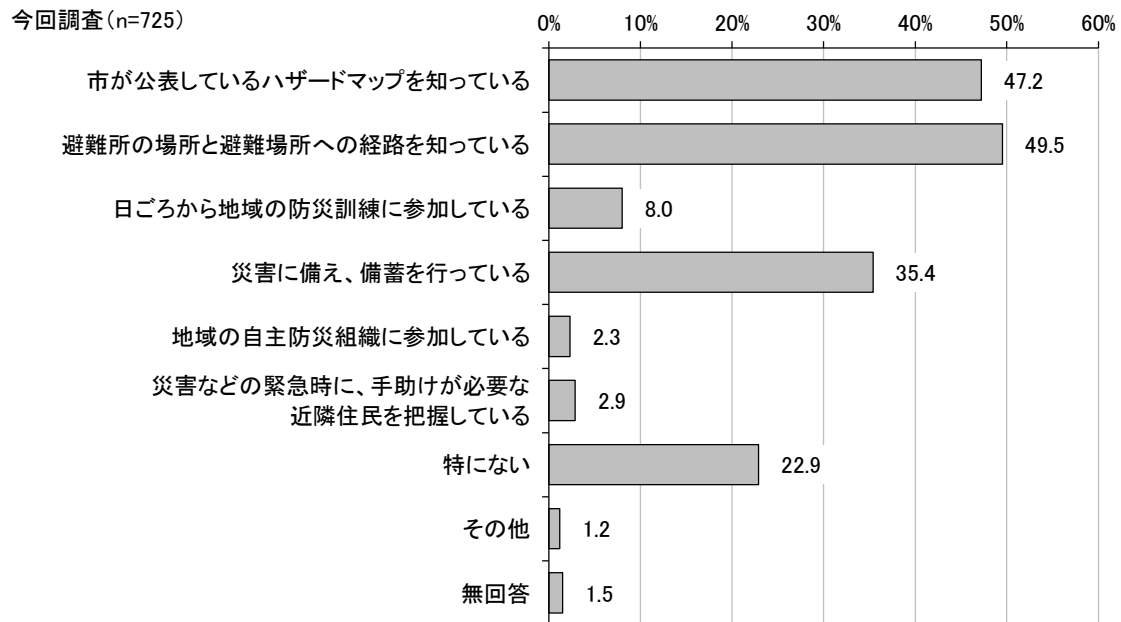
年代別にみると、30 歳代、50 歳代では「医療機関での受診がしにくくなった（受診を控えている）」、その他の年代では「特にない」が最も多くなっています。また、30 歳代、40 歳代では「保育所・幼稚園や学校などの方針により、子育てに対する負担が増えた」がその他の年代に比べて多くなっています。

■年代別

単位：％		物に気軽に 行けない	食品や生活用品などを 入手するための買い	医療機関での受診がしにく くなった（受診を控えてい る）	保育所・幼稚園や学校など の方針により、子育てに対 する負担が増えた	子どもの心身の健康・面が 気になってい	家族や親族に会えず、何か あったときに不安（高齢の 親や、小さな子どもなど）	家にひきこもりがちになり 、話し相手がない	家族等の同居人の間で喧嘩 や口論が増えた	近所の人とのトラブルが増 えた	近所の人と疎遠になり、ち よつとした頼みごとができ なくなった	地域活動やボランティア活 動などができな	収入が減った、解雇された などにより、生活が苦しい	特 に ない	無 回 答
今回調査(n=725)		12.7	27.3	6.2	12.4	16.7	8.1	5.0	0.7	2.9	5.1	7.3	39.0	2.5	
年代別	10歳代(n=7)	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0	
	20歳代(n=57)	7.0	21.1	1.8	15.8	12.3	10.5	7.0	0.0	0.0	1.8	5.3	49.1	1.8	
	30歳代(n=109)	11.0	36.7	22.0	21.1	14.7	9.2	8.3	1.8	3.7	6.4	7.3	31.2	0.9	
	40歳代(n=103)	10.7	30.1	15.5	16.5	20.4	10.7	7.8	0.0	3.9	2.9	10.7	32.0	0.0	
	50歳代(n=110)	10.0	38.2	1.8	12.7	23.6	7.3	5.5	0.0	0.0	3.6	8.2	33.6	1.8	
	60歳代(n=145)	14.5	22.8	0.7	11.7	13.1	4.1	0.7	0.7	2.8	4.8	6.2	44.1	3.4	
	70歳代(n=137)	17.5	21.9	0.7	6.6	19.7	7.3	3.6	0.0	5.1	8.0	8.0	43.8	2.2	
	80歳以上(n=46)	19.6	17.4	0.0	0.0	4.3	13.0	4.3	4.3	4.3	4.3	2.2	43.5	10.9	

問 25 あなたは、日ごろから防災や災害などの緊急時に向けて取り組んでいることはありますか。
(複数回答)

日ごろから防災や災害などの緊急時に向けて取り組んでいることについては、「避難所の場所と避難場所への経路を知っている」が49.5%と最も多く、次いで「市が公表しているハザードマップを知っている」が47.2%、「災害に備え、備蓄を行っている」が35.4%となっています。



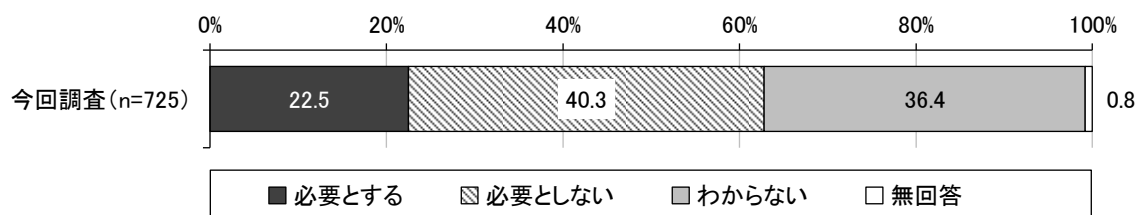
年代別にみると、20 歳代では「市が公表しているハザードマップを知っている」「避難所の場所と避難場所への経路を知っている」がその他の年代に比べて少なくなっています。

■年代別

単位：%		市が公表しているハザードマップを知っている	避難所の場所と避難場所への経路を知っている	日ごろから地域の防災訓練に参加している	災害に備え、備蓄を行っている	地域の自主防災組織に参加している	災害などの緊急時に、手助けが必要な近隣住民を把握している	特にない	その他	無回答
今回調査 (n=725)		47.2	49.5	8.0	35.4	2.3	2.9	22.9	1.2	1.5
年代別	10歳代 (n=7)	42.9	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0
	20歳代 (n=57)	26.3	31.6	3.5	28.1	0.0	3.5	36.8	0.0	0.0
	30歳代 (n=109)	50.5	47.7	3.7	43.1	2.8	0.0	19.3	0.0	0.9
	40歳代 (n=103)	49.5	51.5	7.8	36.9	0.0	1.0	24.3	0.0	0.0
	50歳代 (n=110)	43.6	48.2	2.7	35.5	0.9	2.7	27.3	0.9	0.0
	60歳代 (n=145)	51.0	47.6	10.3	37.2	2.8	2.8	22.1	2.8	0.7
	70歳代 (n=137)	51.1	59.1	13.9	34.3	5.8	5.8	16.1	2.2	3.6
	80歳以上 (n=46)	43.5	52.2	10.9	19.6	0.0	4.3	21.7	2.2	6.5

問 26－(1) あなたは現在、地震等の災害発生時に、誰かの助けを必要としますか。(単数回答)

地震等の災害発生時に、誰かの助けを必要とするかについては、「必要としない」が 40.3%と最も多く、次いで「わからない」が 36.4%、「必要とする」が 22.5%となっています。



年代別にみると、80 歳以上では「必要とする」が6割台とその他の年代に比べて多くなっています。

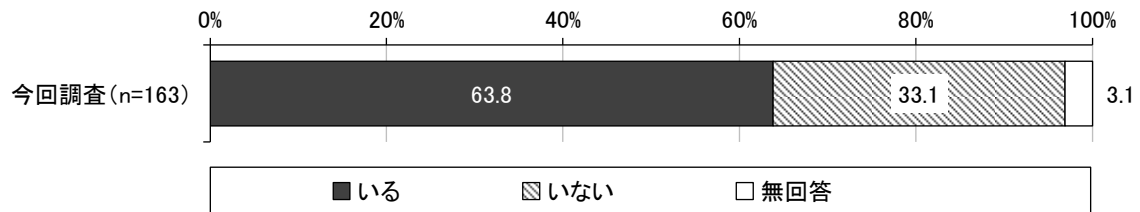
■年代別

単位: %		必要とする	必要としない	わからない	無回答
今回調査 (n=725)		22.5	40.3	36.4	0.8
年代別	10歳代 (n=7)	0.0	71.4	28.6	0.0
	20歳代 (n=57)	15.8	42.1	42.1	0.0
	30歳代 (n=109)	23.9	33.0	43.1	0.0
	40歳代 (n=103)	14.6	35.9	49.5	0.0
	50歳代 (n=110)	12.7	53.6	32.7	0.9
	60歳代 (n=145)	19.3	44.8	35.2	0.7
	70歳代 (n=137)	26.3	41.6	29.9	2.2
	80歳以上 (n=46)	65.2	15.2	19.6	0.0

(問 26-(1)で「必要とする」を選んだ人におたずねします。)

問 26-(2) あなたには、災害発生時に助けてくれる人がいますか。(単数回答)

災害発生時に助けてくれる人がいるかについてみると、「いる」が63.8%と、「いない」の33.1%を上回っています。



年代別にみると、全ての年代で「いる」が「いない」を上回っています。また、40 歳代では「いる」がその他の年代に比べて多くなっています。

■年代別

単位: %		い る	い な い	無 回 答
今回調査 (n=163)		63.8	33.1	3.1
年 代 別	20歳代 (n=9)	77.8	11.1	11.1
	30歳代 (n=26)	61.5	38.5	0.0
	40歳代 (n=15)	93.3	6.7	0.0
	50歳代 (n=14)	57.1	42.9	0.0
	60歳代 (n=28)	53.6	46.4	0.0
	70歳代 (n=36)	61.1	33.3	5.6
	80歳以上 (n=30)	60.0	33.3	6.7

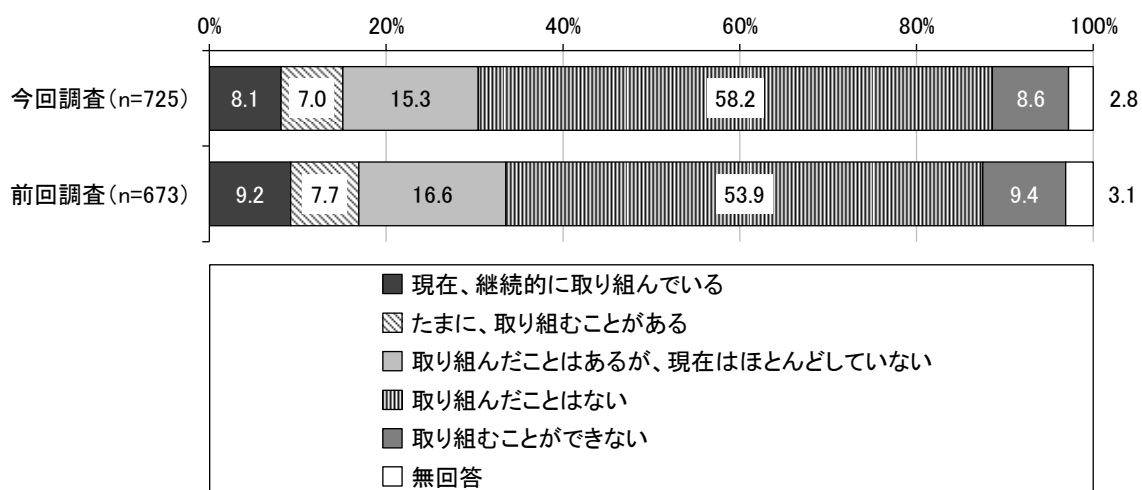
※10 歳代は n=0 のため記載していない。

4 地域活動やボランティア活動などについて

問 27-(1) あなたは、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に取り組んでいますか。(単数回答) ※新型コロナウイルス感染症の影響で休止中の場合は、休止以前の状況をご回答ください。

地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に取り組んでいるかについては、「取り組んだことはない」が58.2%と最も多く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が15.3%、「取り組むことができない」が8.6%となっています。

前回調査では、「取り組んだことはない」が53.9%と最も多く、次いで「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」が16.6%、「取り組むことができない」が9.4%となっています。



年代別にみると、全ての年代で「取り組んだことはない」が最も多くなっています。また、60歳代、70歳代で「現在、継続的に取り組んでいる」が1割台となっています。

■年代別

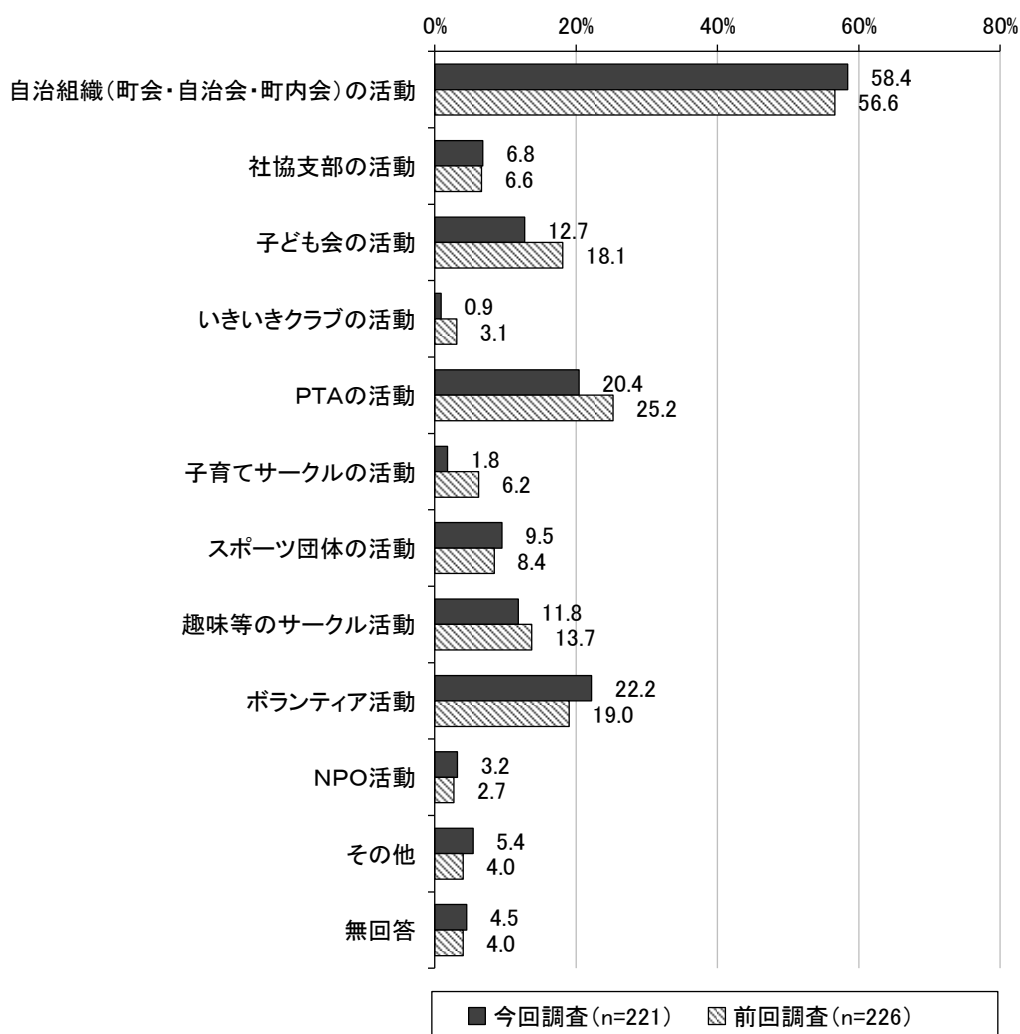
単位: %		現在、継続的に取り組んでいる	たまに、取り組むことがある	取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない	取り組んだことはない	取り組むことができない	無回答
今回調査(n=725)		8.1	7.0	15.3	58.2	8.6	2.8
年代別	10歳代(n=7)	0.0	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	0.0	3.5	22.8	61.4	12.3	0.0
	30歳代(n=109)	3.7	8.3	9.2	66.1	11.0	1.8
	40歳代(n=103)	3.9	8.7	15.5	66.0	3.9	1.9
	50歳代(n=110)	7.3	7.3	17.3	59.1	8.2	0.9
	60歳代(n=145)	13.8	8.3	13.8	54.5	6.9	2.8
	70歳代(n=137)	15.3	5.1	14.6	55.5	5.8	3.6
	80歳以上(n=46)	2.2	2.2	19.6	41.3	23.9	10.9

(問 27-(1)で「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(2) どのような活動をしていますか。(複数回答)

取り組んでいる活動については、「自治組織(町会・自治会・町内会)の活動」が58.4%と最も多く、次いで「ボランティア活動」が22.2%、「PTAの活動」が20.4%となっています。

前回調査では、「町会・自治会・町内会の活動」が56.6%と最も多く、次いで「PTAの活動」が25.2%、「ボランティア活動」が19.0%となっています。



※今回調査の「自治組織(町会・自治会・町内会)の活動」は、前回調査では「町会・自治会・町内会の活動」。

年代別にみると、20 歳代では「ボランティア活動」、10 歳代を除くその他の年代では「自治組織（町会・自治会・町内会）の活動」が最も多くなっています。また、30 歳代、40 歳代で「PTA の活動」が 4 割台とその他の年代に比べて多くなっています。

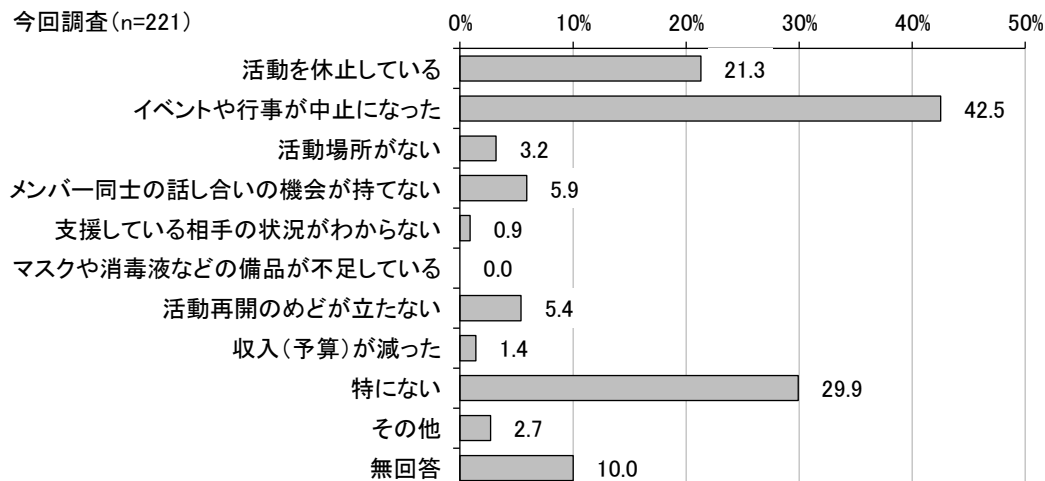
■年代別

単位：%		自治組織（町会・自治会・町内会）の活動	社協支部の活動	子ども会の活動	いきいきクラブの活動	PTA の活動	子育てサークルの活動	スポーツ団体の活動	趣味等のサークル活動	ボランティア活動	NPO 活動	その他	無回答
今回調査(n=221)		58.4	6.8	12.7	0.9	20.4	1.8	9.5	11.8	22.2	3.2	5.4	4.5
年代別	10歳代(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=15)	26.7	0.0	26.7	0.0	6.7	0.0	20.0	6.7	46.7	13.3	0.0	13.3
	30歳代(n=23)	69.6	0.0	17.4	0.0	47.8	8.7	8.7	4.3	17.4	4.3	0.0	0.0
	40歳代(n=29)	65.5	0.0	20.7	0.0	48.3	0.0	3.4	3.4	24.1	0.0	0.0	0.0
	50歳代(n=35)	51.4	2.9	17.1	0.0	31.4	2.9	8.6	2.9	20.0	2.9	5.7	5.7
	60歳代(n=52)	55.8	9.6	7.7	0.0	11.5	0.0	7.7	15.4	23.1	3.8	5.8	5.8
	70歳代(n=48)	64.6	10.4	6.3	0.0	4.2	2.1	14.6	25.0	16.7	2.1	10.4	4.2
	80歳以上(n=11)	72.7	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1	9.1

(問 27-(1)で「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(3) 活動をする上で、新型コロナウイルス感染症の影響はありますか。(複数回答)

活動をする上での新型コロナウイルス感染症の影響については、「イベントや行事が中止になった」が42.5%と最も多く、次いで「特にない」が29.9%、「活動を休止している」が21.3%となっています。



取り組んでいる活動別にみると、社協支部の活動、趣味等のサークル活動では「イベントや行事が中止になった」が6割台となっています。

■取り組んでいる活動別

単位: %		活動を休止している	イベントや行事が中止になった	活動場所がない	メンバー同士の話し合いの機会が持てない	支援している相手の状況がわからない	マスクや消毒液などの備品が不足している	活動再開のめどが立たない	収入(予算)が減った	特にない	その他	不明・無回答
今回調査(n=221)		21.3	42.5	3.2	5.9	0.9	0.0	5.4	1.4	29.9	2.7	10.0
取り組んでいる活動別	自治組織(町会・自治会・町内会)の活動(n=129)	25.6	56.6	2.3	8.5	0.0	0.0	7.8	1.6	23.3	0.8	7.0
	社協支部の活動(n=15)	33.3	60.0	13.3	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0
	子ども会の活動(n=28)	21.4	28.6	7.1	3.6	0.0	0.0	7.1	0.0	42.9	0.0	14.3
	いきいきクラブの活動(n=2)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	PTAの活動(n=45)	22.2	44.4	6.7	6.7	0.0	0.0	8.9	2.2	31.1	4.4	8.9
	子育てサークルの活動(n=4)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
	スポーツ団体の活動(n=21)	14.3	38.1	0.0	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	23.8	4.8	19.0
	趣味等のサークル活動(n=26)	23.1	61.5	3.8	11.5	0.0	0.0	3.8	3.8	15.4	7.7	3.8
	ボランティア活動(n=49)	18.4	34.7	0.0	4.1	4.1	0.0	2.0	0.0	34.7	6.1	6.1
	NPO活動(n=7)	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0	14.3
	その他(n=12)	16.7	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0

(問 27-(1)で「現在、継続的に取り組んでいる」「たまに、取り組むことがある」「取り組んだことはあるが、現在はほとんどしていない」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(4) 新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、活動にあたって工夫していることはありますか。(自由記述)

66 件の回答がありました。取り組んでいる活動ごとの主な内容は以下のとおりです。

■取り組んでいる活動：自治組織（町会・自治会・町内会）の活動

- 集合住宅の理事として、町内会を担当しているが、いろいろな行事はコロナにより中止となっている。
- 防犯パトロールに参加していますが、ワクチン接種、健康状態の確認とマスク着用で行われています。
- 会費等の集金は、年間先払いにして、各家庭との接触回数を減らしています。
- ソーシャルディスタンスを取り、マスク、手洗い、うがい等、基本的なことを守る。
- イベントでマスクをはずさない、食事を一緒に取らない。
- クリーン清掃活動、ジャガイモ掘りなど野外で実施可能なものを選んでいる。
- 工夫で対応できることではないことが分かった。
- 短時間で最低限の活動内容。少人数で参加する。
- 情報収集。
- 自治会で行われていた地域清掃がなくなりました。また再開したようなので、組の順番が回ってきたら参加したいと思っています。

■取り組んでいる活動：社協支部の活動

- マスク装着・除菌等を心掛けている。
- 広い部屋、そして仲間と間を置き、私語を少なく使用します。
- 個々に皆さん気を付けています。工夫というような事は別にしていません。
- 密になることだけは避けています。
- 集会は少人数で開催し二部制などの工夫をしているが、感染状況で中止の判断をする場合が多い。

■取り組んでいる活動：子ども会の活動

- 可能な限り最小限でも活動をする。
- 中止になっても、企画は立てて会員さんの関心を薄れさせないようにしている。

■取り組んでいる活動：PTAの活動

- 一般的な感染対策。
- 会合などの対面での話し合いを減らす。オンラインで話し合いをするなど。

■取り組んでいる活動：スポーツ団体の活動

- 健康観察をし、無理をせず、人数が少ない時は中止にしている。
- 職業上顧客への迷惑、またはその逆の迷惑が生じることから行動範囲を狭めている。
- 体調不良の際は参加しない。
- 活動時は、マスクを外さない。(水分補給時は少し離れて、持って行った水を飲む)。
- マスク着用、アルコール使用、時間制限などの対応。

■取り組んでいる活動：趣味等のサークル活動

- 感染対策に気を付けている。マスク・アルコール消毒・換気。
- 広い部屋、私語を少なく使用します。

- 周りの高齢者と接する際は特に気を付けている。
- 体調が悪い時は、活動を自粛している。

■取り組んでいる活動：ボランティア活動

- 傾聴ボランティアを始めたがコロナで活動中止となり、団体が解散のため今は活動していません。
- 感染予防のために、活動開始時に検温と手指消毒、終了後に使用した机等を拭き取り消毒する。
- 感染者発生時に対応可能なように、参加者名簿(連絡先含む)を活動日毎に記入し、参加者を把握する。
- マスク、手洗い、うがい等自分でできる事に取り組んでいる。
- 集会は少人数で開催し二部制などの工夫をしているが、感染状況で中止の判断をする場合が多い。
- 短時間で行うようにしている。
- 規則正しい生活。食事をしっかり取る。
- 主催者側が開催すれば、できるだけ参加している。
- 感染しない、させないために、基本行動。

■取り組んでいる活動：NPO活動

- 体調管理を徹底する、手洗い、うがい、消毒などできる予防を行う。
- 主催者側が開催すれば、できるだけ参加している。
- 感染しない、させないために、基本行動。

■取り組んでいる活動：その他

- 友人の娘さんが働いているため、ショートに行かない時やデイからの帰り、マッサージを受ける時の迎え等、行っています。
- マスク、ソーシャルディスタンス。
- 3年ほどは新型コロナウイルス感染症のため、直接訪問せず、手紙や電話を活用していました。

■取り組んでいる活動：無回答

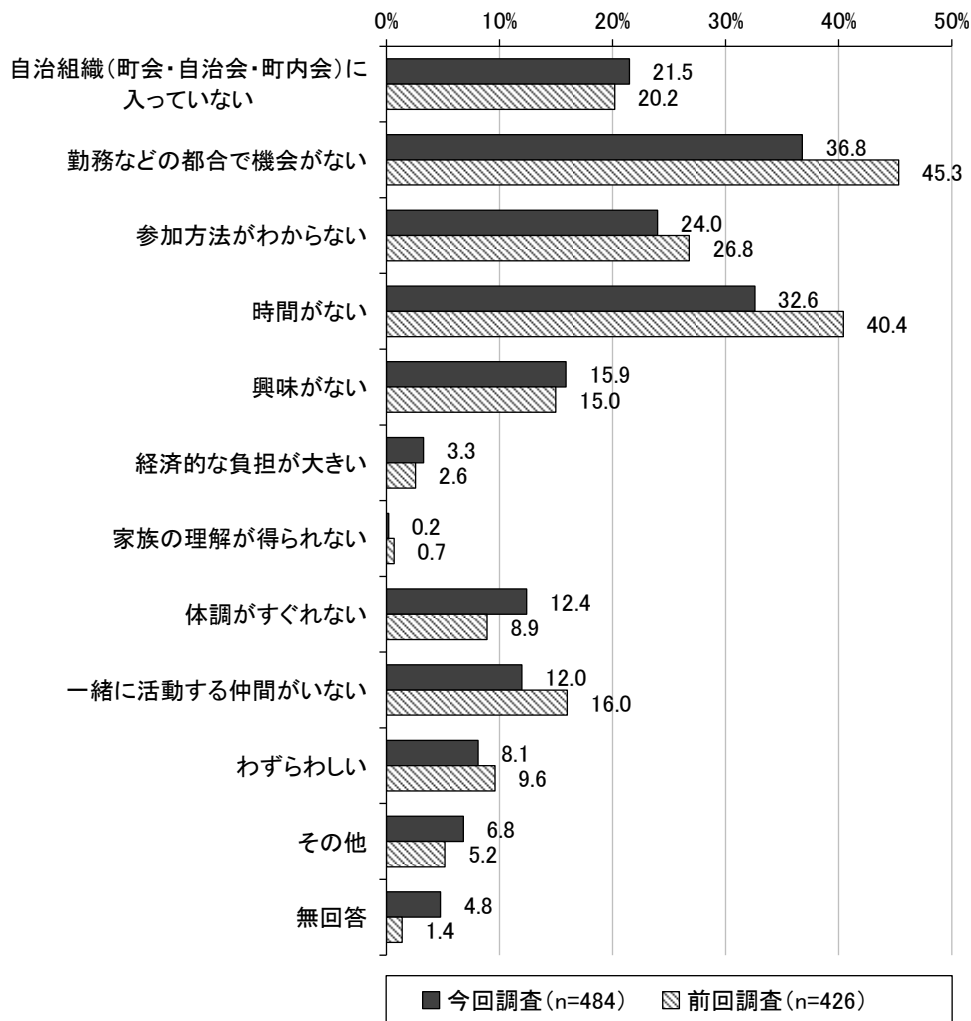
- できることが少なくなっていることに淋しい思いをしている。
- 近所の人と仲良くしている。トラブルを起こさないよう努めている。

(問 27-(1)で「取り組んだことはない」「取り組むことができない」を選んだ人におたずねします。)

問 27-(5) 現在活動していない理由を教えてください。(複数回答)

現在活動していない理由については、「勤務などの都合で機会がない」が 36.8%と最も多く、次いで「時間がない」が 32.6%、「参加方法がわからない」が 24.0%となっています。

前回調査では、「勤務などの都合で機会がない」が 45.3%と最も多く、次いで「時間がない」が 40.4%、「参加方法がわからない」が 26.8%となっています。



※今回調査の「自治組織（町会・自治会・町内会）に入っていない」は、前回調査では「町会・自治会・町内会等の組織に入っていない」。

年代別にみると、10 歳代では「時間がない」、20 歳代では「時間がない」「興味がない」、30 歳代では「時間がない」、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「勤務などの都合で機会がない」、70 歳代、80 歳以上では「体調がすぐれない」が最も多くなっています。

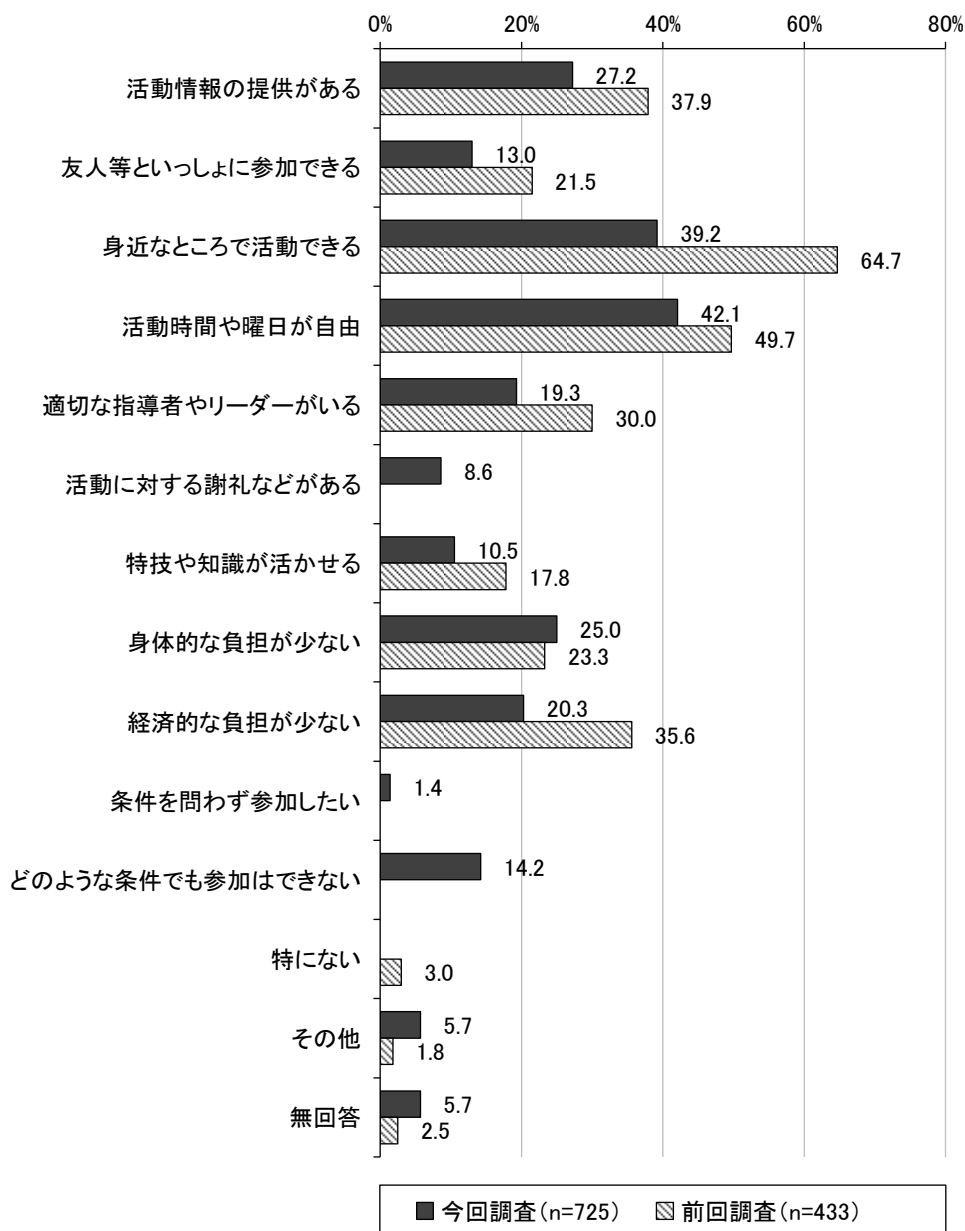
■年代別

単位：%		自治組織（町会・自治会・町内会）に入っていない	勤務などの都合で機会がない	参加方法がわからない	時間がない	興味がない	経済的な負担が大きい	家族の理解が得られない	体調がすぐれない	一緒に活動する仲間がいない	わずらわしい	その他	無回答
今回調査(n=484)		21.5	36.8	24.0	32.6	15.9	3.3	0.2	12.4	12.0	8.1	6.8	4.8
年代別	10歳代(n=6)	16.7	16.7	33.3	100.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=42)	26.2	28.6	26.2	35.7	35.7	2.4	0.0	2.4	7.1	4.8	4.8	0.0
	30歳代(n=84)	27.4	46.4	34.5	57.1	15.5	6.0	0.0	2.4	17.9	8.3	8.3	0.0
	40歳代(n=72)	27.8	48.6	25.0	47.2	16.7	5.6	0.0	8.3	8.3	9.7	1.4	0.0
	50歳代(n=74)	18.9	45.9	20.3	39.2	23.0	4.1	0.0	10.8	9.5	12.2	4.1	2.7
	60歳代(n=89)	19.1	44.9	28.1	21.3	9.0	1.1	1.1	12.4	19.1	6.7	5.6	3.4
	70歳代(n=84)	14.3	19.0	17.9	8.3	9.5	1.2	0.0	25.0	9.5	8.3	9.5	14.3
	80歳以上(n=30)	20.0	3.3	0.0	0.0	10.0	3.3	0.0	33.3	3.3	3.3	23.3	20.0

問 28 あなたはどのような条件であれば、地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等に参加したいと思いますか。(複数回答)

活動・参加したいと思う条件については、「活動時間や曜日が自由」が42.1%と最も多く、次いで「身近なところで活動できる」が39.2%、「活動情報の提供がある」が27.2%となっています。

前回調査では、「身近なところで活動できる」が64.7%と最も多く、次いで「活動時間や曜日が自由」が49.7%、「活動情報の提供がある」が37.9%となっています。

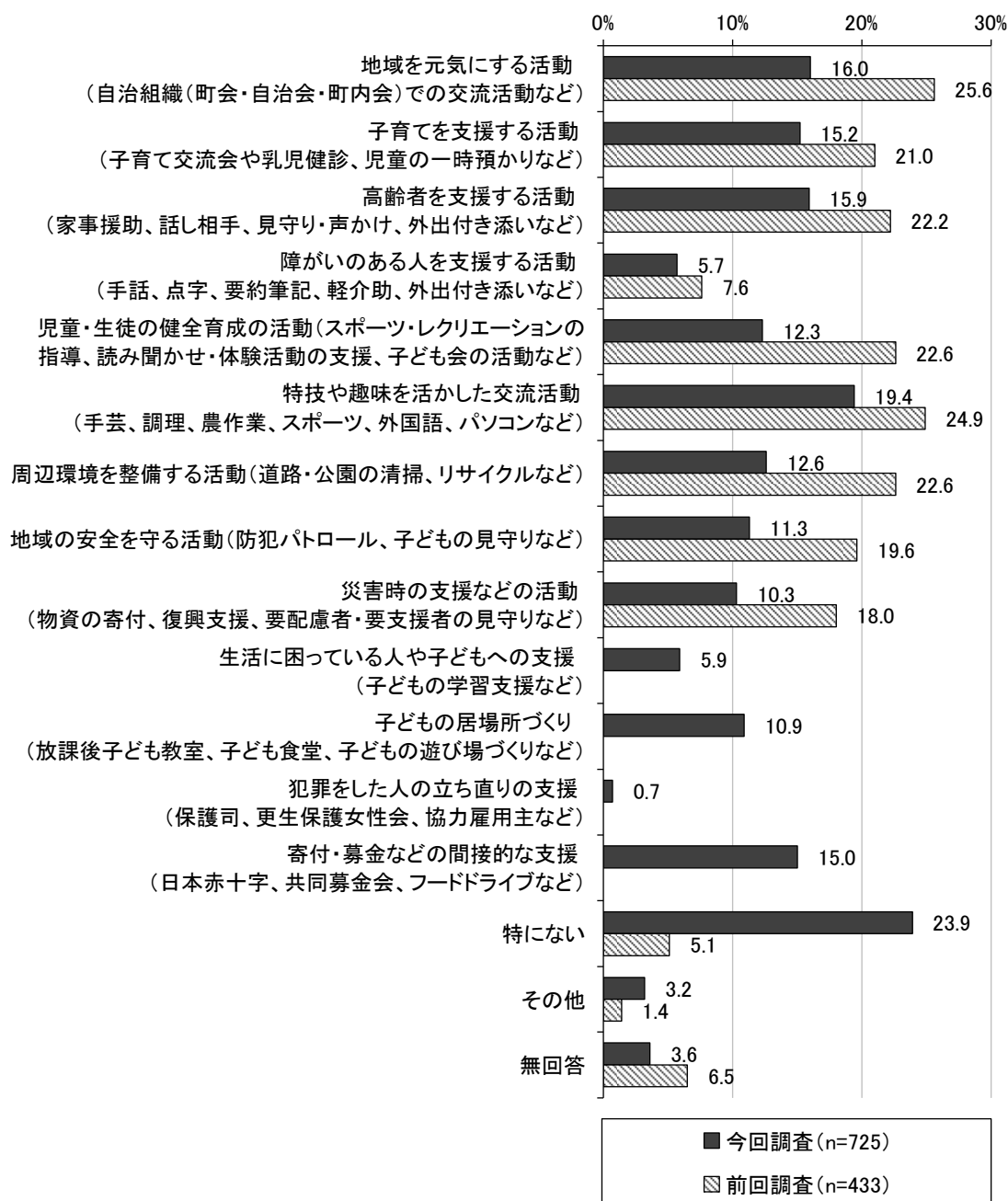


※「活動に対する謝礼などがある」「条件を問わず参加したい」「どのような条件でも参加はできない」は今回調査のみの選択肢。「特にない」は前回調査のみの選択肢。

問 29 あなたが今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等を教えてください。(3つまで複数回答)

今後してみたい地域活動やボランティア活動、地域や住民に対する各種の支援活動等については、「特にない」が23.9%と最も多く、次いで「特技や趣味を活かした交流活動」が19.4%、「地域を元気にする活動」が16.0%となっています。

前回調査では、「地域を元気にする活動」が25.6%と最も多く、次いで「特技や趣味を活かした交流活動」が24.9%、「児童・生徒の健全育成の活動」と「周辺環境を整備する活動」が22.6%となっています。



※「生活に困っている人や子どもへの支援」「子どもの居場所づくり」「犯罪をした人の立ち直りの支援」「寄付・募金などの間接的な支援」は今回調査のみの選択肢。「児童・生徒の健全育成の活動」を除き、今回調査の各選択肢の()内の記述は前回調査にはない。

年代別にみると、10 歳代では「児童・生徒の健全育成の活動」「生活に困っている人や子どもへの支援」、30 歳代では「子育てを支援する活動」、40 歳代では「特技や趣味を活かした交流活動」、60 歳代では「高齢者を支援する活動」、その他の年代では「特にない」が最も多くなっています。

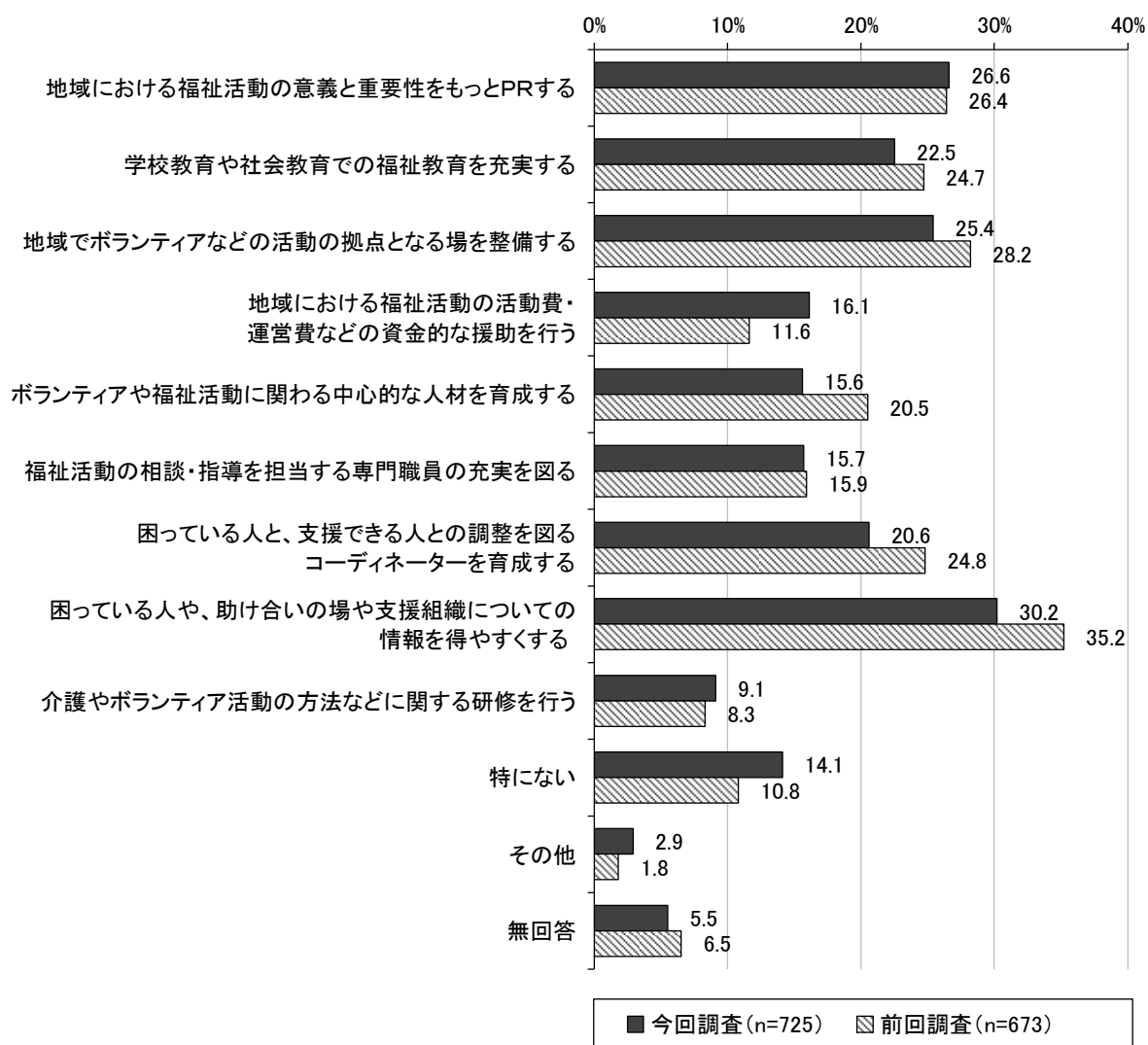
■年代別

単位：%		地域を元気にする活動	子育てを支援する活動	高齢者を支援する活動	障がいのある人を支援する活動	児童・生徒の健全育成の活動	特技や趣味を活かした交流活動	周辺環境を整備する活動	地域の安全を守る活動	災害時の支援などの活動	生活に困っている人や子どもへの支援	子どもの居場所づくり	犯罪をした人の立ち直りの支援	寄付・募金などの間接的な支援	特にない	その他	無回答
今回調査(n=725)		16.0	15.2	15.9	5.7	12.3	19.4	12.6	11.3	10.3	5.9	10.9	0.7	15.0	23.9	3.2	3.6
年代別	10歳代(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6	28.6	0.0	14.3	42.9	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	5.3	26.3	8.8	7.0	17.5	21.1	12.3	8.8	12.3	7.0	10.5	0.0	7.0	28.1	3.5	1.8
	30歳代(n=109)	22.9	36.7	8.3	5.5	35.8	22.9	8.3	5.5	5.5	6.4	22.9	0.9	12.8	19.3	0.0	0.0
	40歳代(n=103)	10.7	23.3	7.8	6.8	11.7	27.2	6.8	7.8	17.5	10.7	14.6	1.9	13.6	24.3	3.9	1.0
	50歳代(n=110)	10.9	8.2	16.4	5.5	4.5	16.4	19.1	11.8	11.8	4.5	15.5	0.9	20.0	24.5	5.5	2.7
	60歳代(n=145)	22.8	9.7	25.5	6.2	8.3	20.0	16.6	14.5	11.7	4.1	6.9	0.0	15.9	17.9	2.1	2.1
	70歳代(n=137)	16.8	3.6	20.4	3.6	5.1	16.1	12.4	19.7	9.5	2.9	2.2	0.0	16.8	28.5	1.5	6.6
	80歳以上(n=46)	13.0	2.2	17.4	4.3	2.2	8.7	4.3	2.2	0.0	2.2	0.0	2.2	10.9	37.0	10.9	17.4

問 30 地域における助け合い、支え合い活動を活発にするためには、どのようなことが重要だと思いますか。(3つまで複数回答)

地域における助け合い、支え合い活動を活発にするために重要なことについては、「困っている人や、助け合いの場や支援組織についての情報を得やすくする」が30.2%と最も多く、次いで「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が26.6%、「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が25.4%となっています。

前回調査では、「困っている人や、助け合いの場や支援組織についての情報を得やすくする」が35.2%と最も多く、次いで「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」が28.2%、「地域における福祉活動の意義と重要性をもっとPRする」が26.4%となっています。



年代別にみると、10 歳代では「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」「困っている人や、助け合いの場や支援組織についての情報を得やすくする」、20 歳代では「学校教育や社会教育での福祉教育を充実する」、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「困っている人や、助け合いの場や支援組織についての情報を得やすくする」、60 歳代では「地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する」、70 歳代、80 歳以上では「地域における福祉活動の意義と重要性をもっと P R する」が最も多くなっています。

■年代別

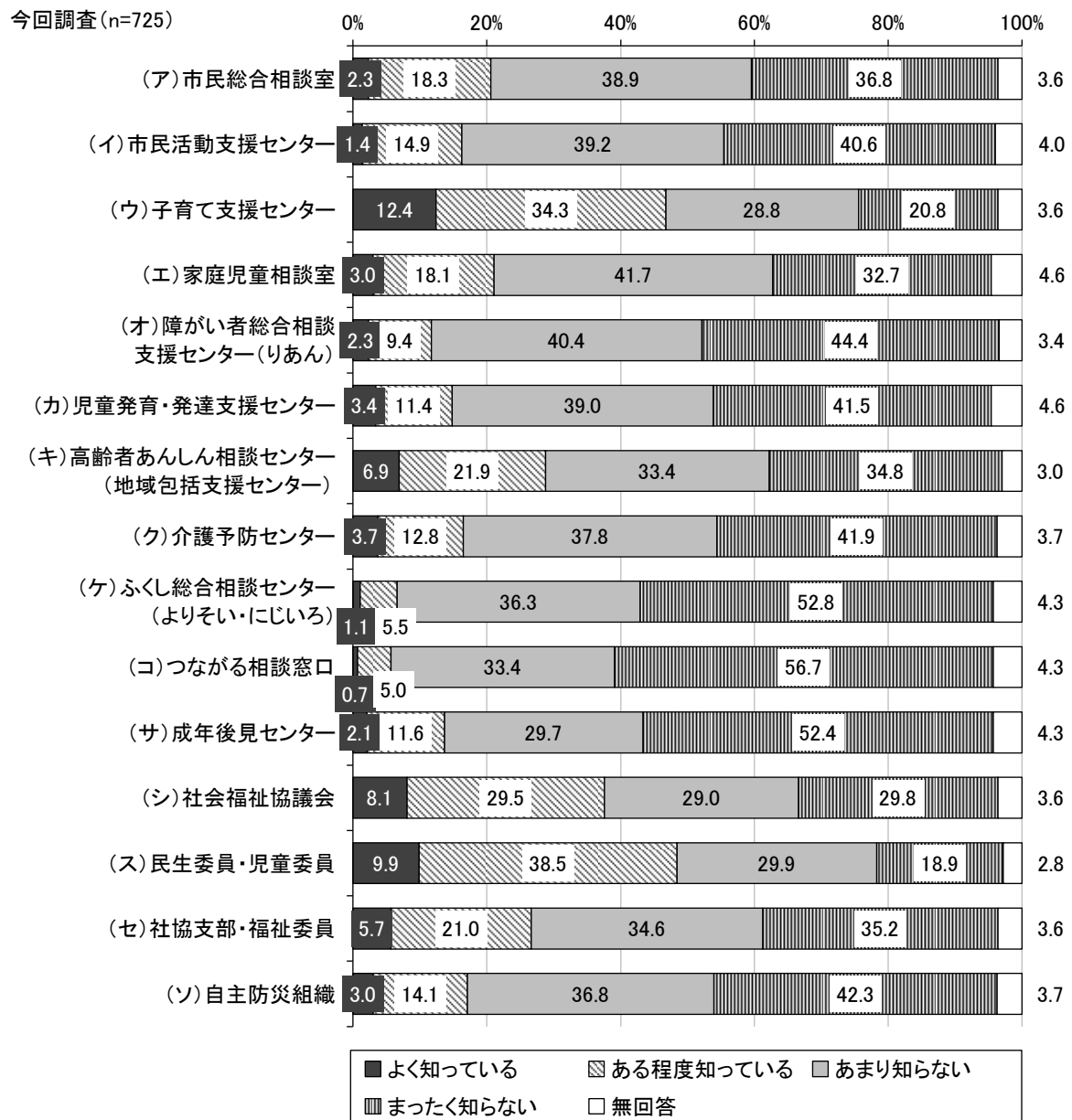
単位：%		を地域における福祉活動の意義と重要性をもっと P R する	学校教育や社会教育での福祉教育を充実する	地域でボランティアなどの活動の拠点となる場を整備する	地域における福祉活動の活動費・運営費などの資金的な援助を行う	ボランティアを育成する	ボランティアや福祉活動に関わる中心的人材を育成する	福祉活動の充実を図る	職員の充実を図る	困っている人と、支援できる人との関係を図る	困っている人や、助け合いの場や支援組織についての情報を得やすくする	介護やボランティア活動の方法などに関する研修を行う	特にな	その他	無回答
今回調査(n=725)		26.6	22.5	25.4	16.1	15.6	15.7	20.6	30.2	9.1	14.1	2.9	5.5		
年代別	10歳代(n=7)	28.6	28.6	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9	28.6	14.3	0.0	0.0		
	20歳代(n=57)	28.1	42.1	15.8	19.3	7.0	12.3	12.3	26.3	3.5	17.5	1.8	1.8		
	30歳代(n=109)	22.9	29.4	25.7	20.2	12.8	15.6	22.9	34.9	8.3	11.9	4.6	1.8		
	40歳代(n=103)	29.1	30.1	25.2	19.4	18.4	17.5	32.0	42.7	9.7	7.8	1.9	1.0		
	50歳代(n=110)	27.3	12.7	22.7	15.5	10.0	15.5	24.5	35.5	11.8	15.5	3.6	1.8		
	60歳代(n=145)	26.9	19.3	33.1	20.0	15.9	15.9	22.1	27.6	8.3	12.4	2.1	4.1		
	70歳代(n=137)	28.5	16.8	24.8	10.2	23.4	15.3	10.9	19.7	9.5	18.2	2.2	12.4		
	80歳以上(n=46)	26.1	17.4	17.4	2.2	19.6	17.4	10.9	19.6	8.7	19.6	4.3	17.4		

5 福祉サービスなどについて

問 31 あなたは、次の団体や機関を知っていますか。(単数回答)

団体や機関、制度等の認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた“知っている”は、〔(ス) 民生委員・児童委員〕で 48.4%、〔(ウ) 子育て支援センター〕が 46.7%、〔(シ) 社会福祉協議会〕が 37.6%となっています。

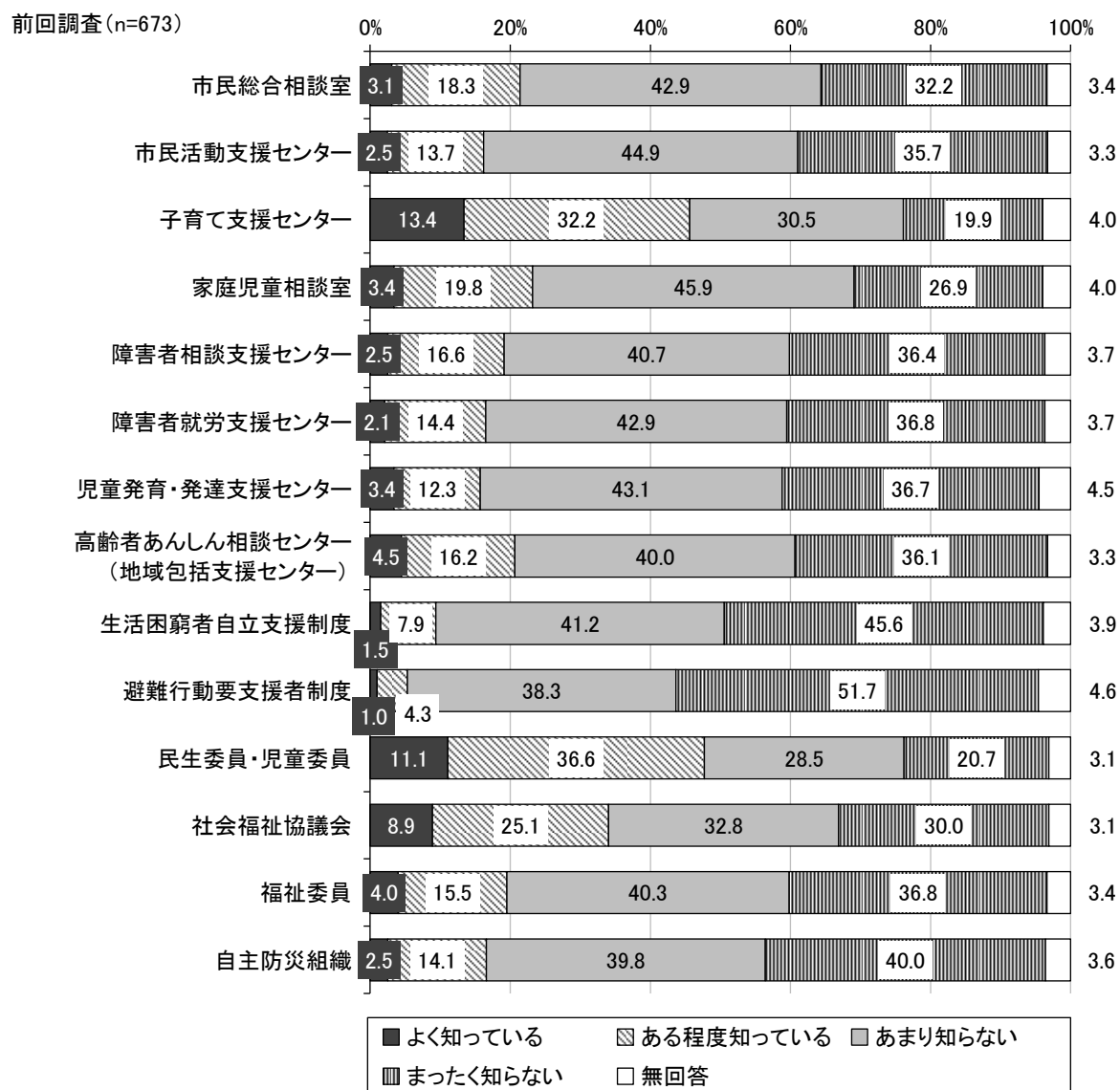
一方、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた“知らない”は、それ以外の項目全てで 6 割を超えています。



■ 前回調査

団体や機関、制度等の認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた“知っている”は、[民生委員・児童委員]で47.7%、[子育て支援センター]が45.6%、[社会福祉協議会]が34.0%となっています。

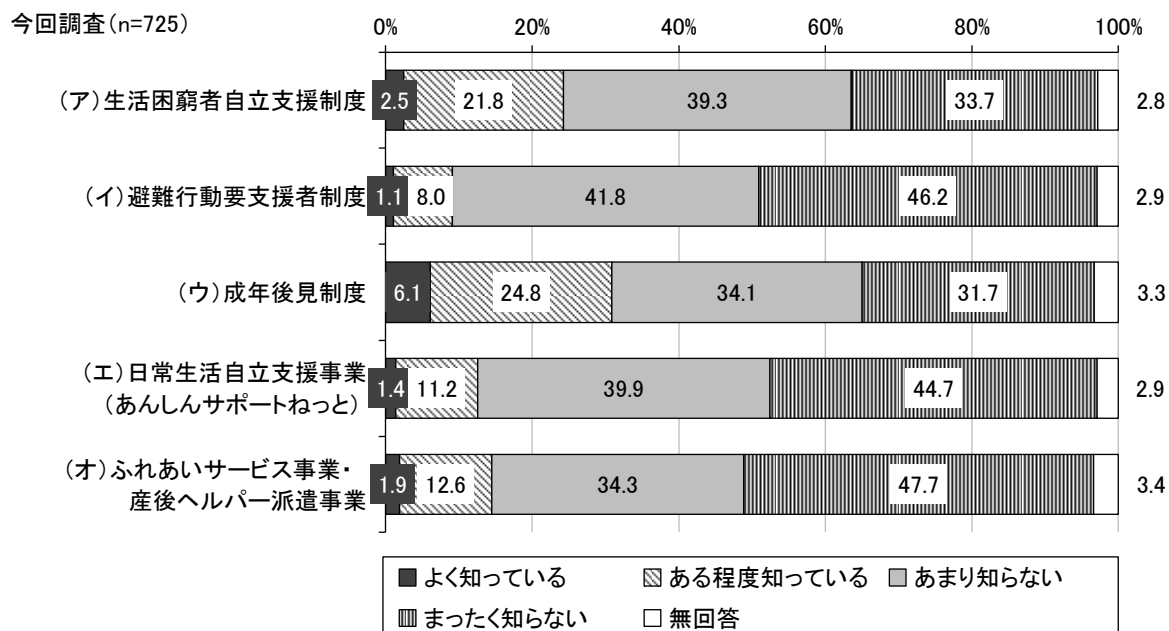
一方、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた“知らない”は、それ以外の項目全てで7割を超えています。



問 32 あなたは、次の制度を知っていますか。(単数回答)

制度の認知度については、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた“知っている”は、[(ウ) 成年後見制度]で 30.9%、[(ア) 生活困窮者自立支援制度]が 24.3%となっています。

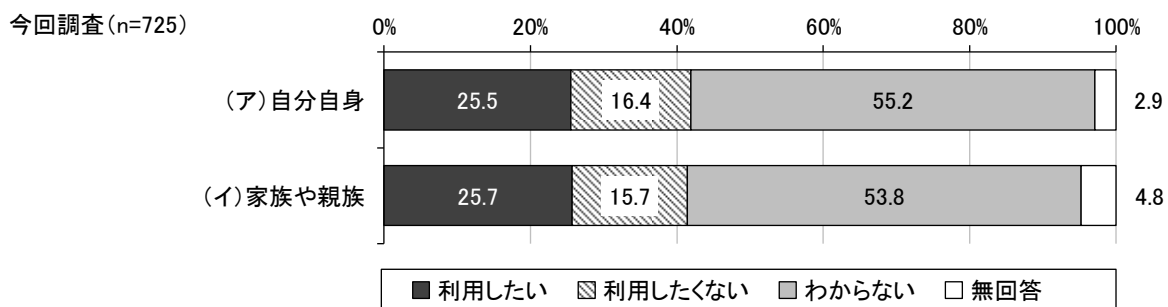
一方、「あまり知らない」と「まったく知らない」を合わせた“知らない”は、それ以外の項目全てで 8 割を超えています。



問 33-(1) あなたは、将来的にあなた自身または家族や親族の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(ア)自分自身、(イ)家族や親族、それぞれについてお答えください。(単数回答)

将来的に回答者自身または家族や親族の判断能力が不十分になった場合の成年後見制度の利用意向をみると、自分自身については、「わからない」が 55.2%と最も多く、次いで「利用したい」が 25.5%、「利用したくない」が 16.4%となっています。

家族や親族については「わからない」が 53.8%と最も多く、次いで「利用したい」が 25.7%、「利用したくない」が 15.7%となっています。

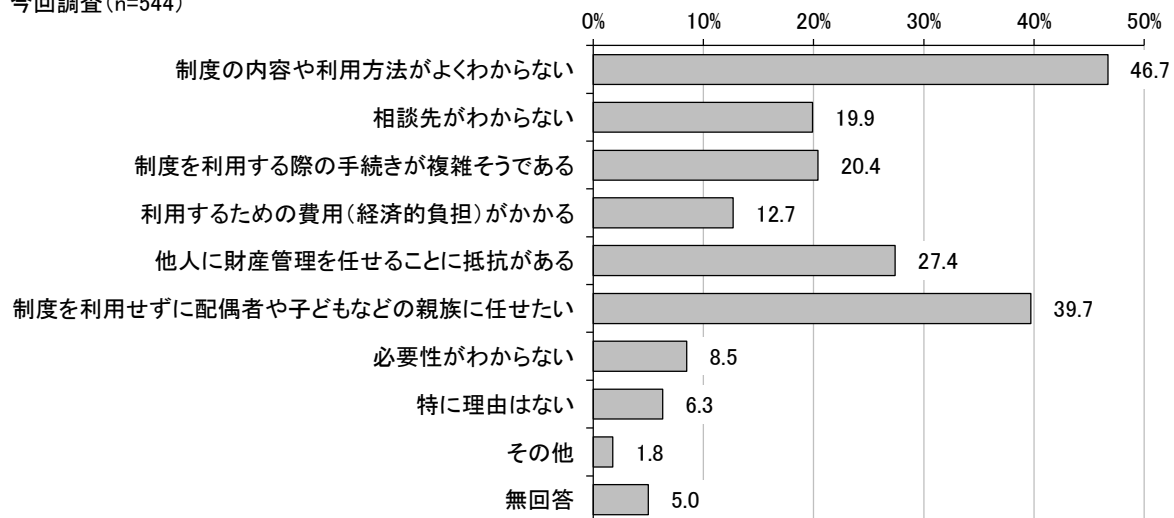


(問 33-(1)のア・イのいずれかで「利用したくない」「わからない」を選んだ人におたずねします。)

問 33-(2) 「利用したくない」、または「わからない」を選んだ理由を教えてください。(複数回答)

「利用したくない」、または「わからない」を選んだ理由については、「制度の内容や利用方法がよくわからない」が 46.7%と最も多く、次いで「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が 39.7%、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」が 27.4%となっています。

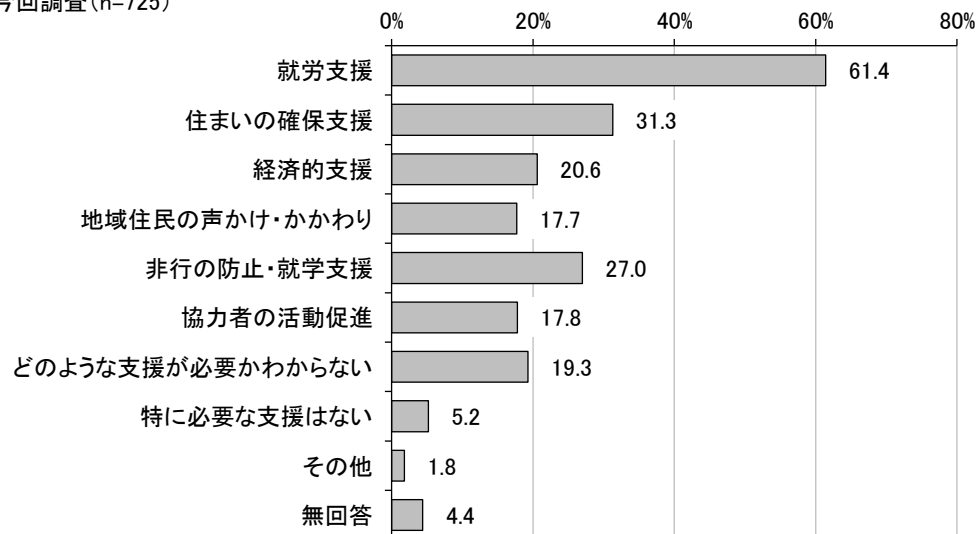
今回調査(n=544)



問 34 あなたは、罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援は何だと思いますか。(複数回答)

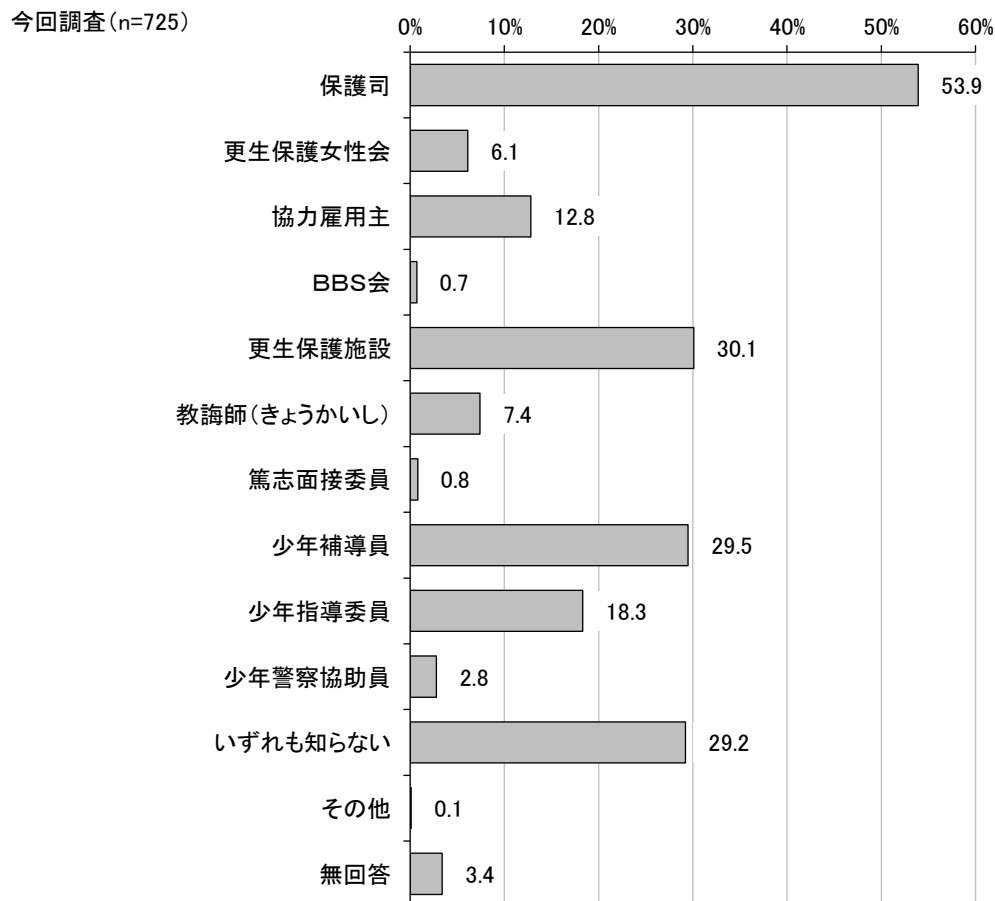
罪を犯した人が更生して地域で生活する場合に必要な支援については、「就労支援」が 61.4%と最も多く、次いで「住まいの確保支援」が 31.3%、「非行の防止・就学支援」が 27.0%となっています。

今回調査(n=725)



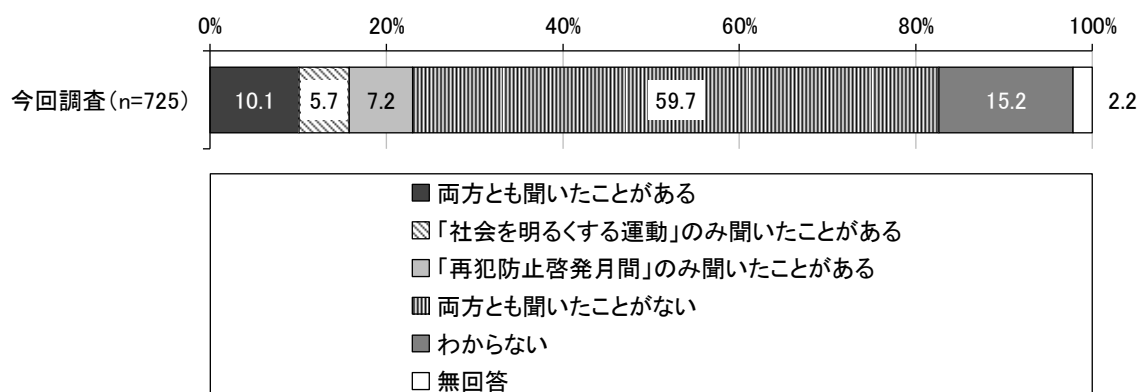
**問 35 あなたは、再犯防止に協力する民間協力者として、次の方々がいることを知っていますか。
(複数回答)**

再犯防止に協力する民間協力者の認知度についてみると、「保護司」が53.9%と最も多く、次いで「更生保護施設」が30.1%、「少年補導員」が29.5%となっています。



問 36 あなたは、再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」を聞いたことがありますか。(単数回答)

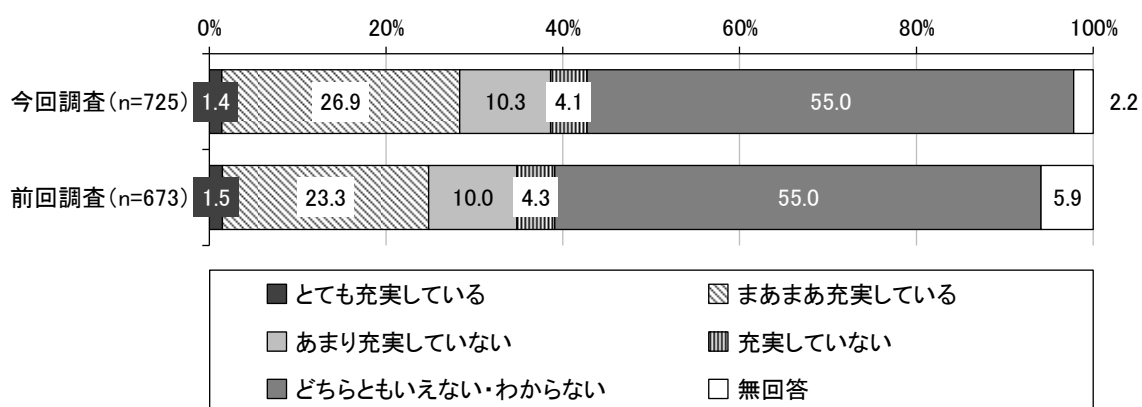
再犯防止に関する広報・啓発活動の取り組みである「社会を明るくする運動」または「再犯防止啓発月間」を聞いたことがあるかについては、「両方とも聞いたことがない」が59.7%と最も多く、次いで「わからない」が15.2%、「両方とも聞いたことがある」が10.1%となっています。



問 37 あなたは、ふじみ野市の福祉サービスについて、どのように感じていますか。(単数回答)

ふじみ野市の福祉サービスについては、「どちらともいえない・わからない」が 55.0%と最も多くなっています。また、「とても充実している」の 1.4%と「まあまあ充実している」の 26.9%を合わせた“充実している”は 28.3%となっており、「あまり充実していない」の 10.3%と「充実していない」の 4.1%を合わせた“充実していない”（14.4%）に比べて多くなっています。

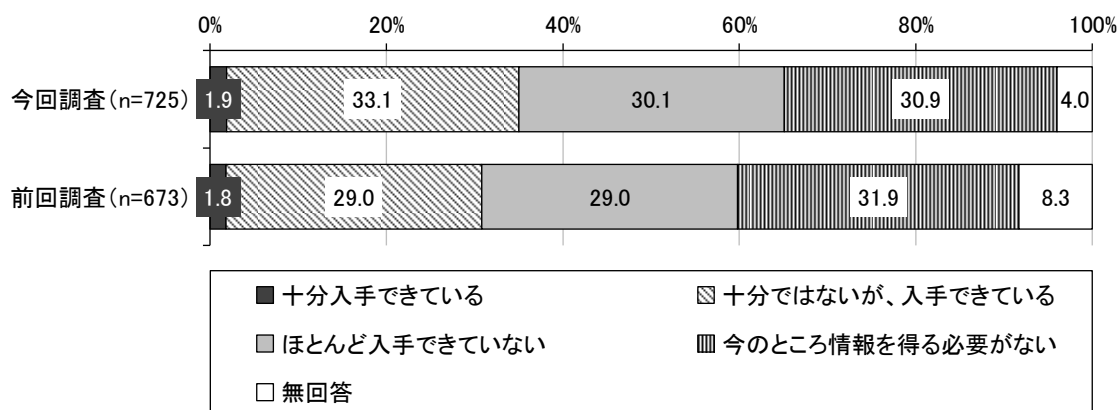
前回調査では、「どちらともいえない・わからない」が 55.0%と最も多くなっています。また、「とても充実している」の 1.5%と「まあまあ充実している」の 23.3%を合わせた“充実している”は 24.8%となっており、「あまり充実していない」の 10.0%と「充実していない」の 4.3%を合わせた“充実していない”（14.3%）に比べて多くなっています。



問 38-（1）あなたは、自分に必要な「福祉サービス」の情報をどの程度入手できているとお考えですか。(単数回答)

「福祉サービス」の情報の入手度については、「十分ではないが、入手できている」が 33.1%と最も多く、次いで「今のところ情報を得る必要がない」が 30.9%、「ほとんど入手できていない」が 30.1%となっています。

前回調査では、「今のところ情報を得る必要がない」が 31.9%と最も多く、次いで「十分ではないが、入手できている」と「ほとんど入手できていない」が 29.0%となっています。

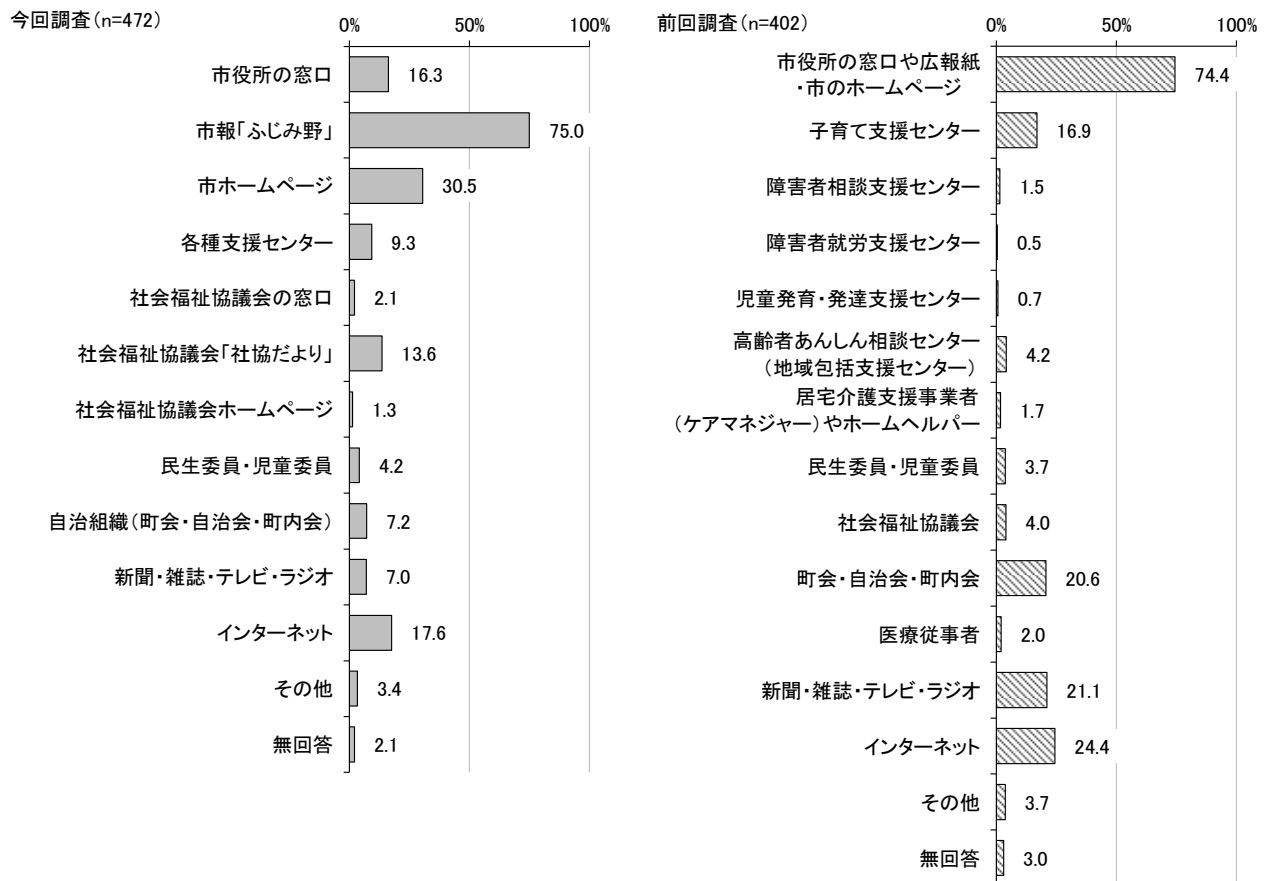


(問 38-(1)で「十分入手できている」「十分ではないが、入手できている」「ほとんど入手できていない」を選んだ人におたずねします。)

問 38-(2) あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。(複数回答)

「福祉サービス」に関する情報の入手先については、「市報「ふじみ野」」が75.0%と最も多く、次いで「市ホームページ」が30.5%、「インターネット」が17.6%となっています。

前回調査では、「市役所の窓口や広報紙・市のホームページ」が74.4%と最も多く、次いで「インターネット」が24.4%、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が21.1%となっています。

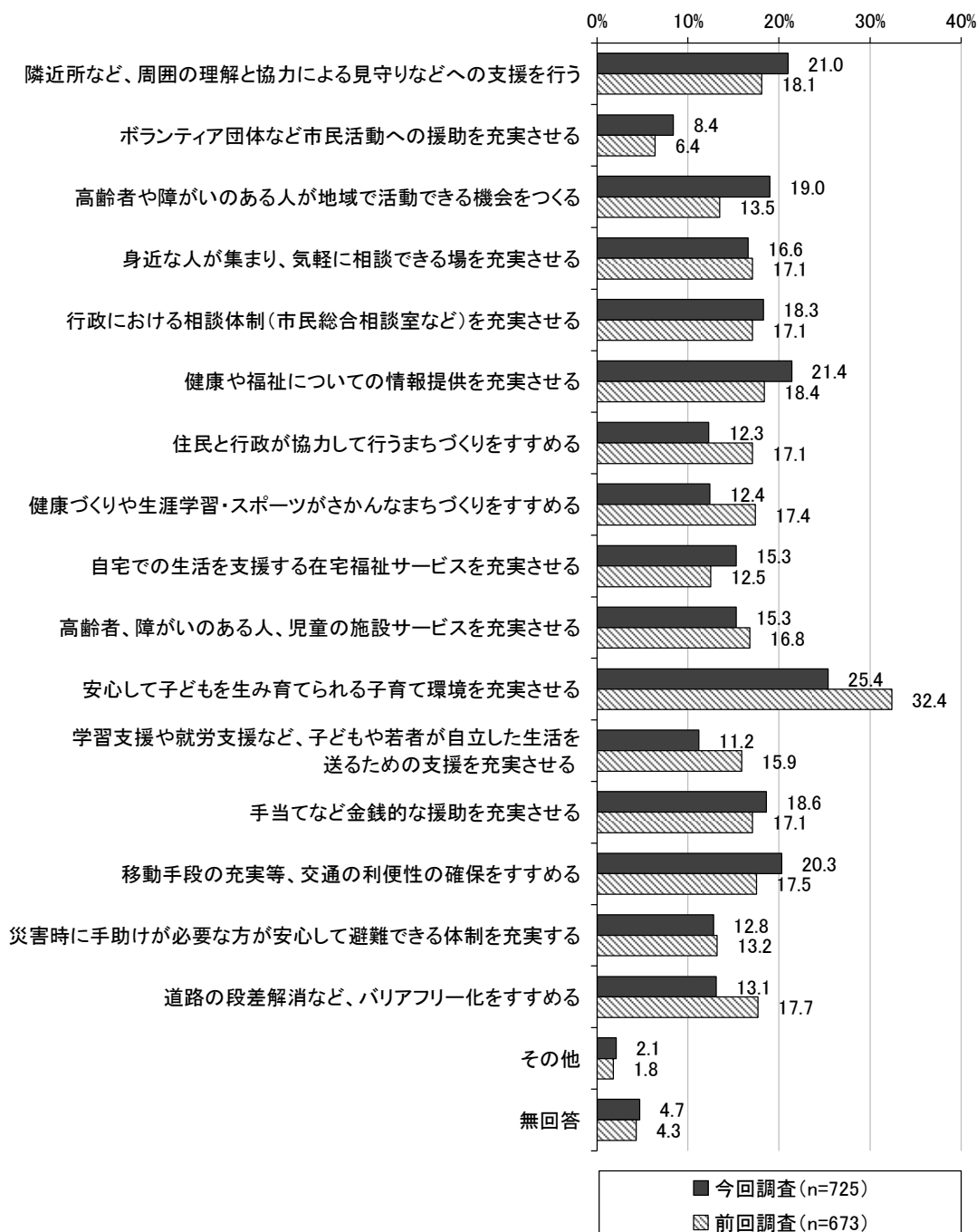


6 福祉施策などについて

問 39 ふじみ野市の福祉施策をより充実していくために、あなたが重要と考える取り組みはどれですか。(3つまで複数回答)

ふじみ野市の福祉施策をより充実していくために重要な取り組みについては、「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」が25.4%と最も多く、次いで「健康や福祉についての情報提供を充実させる」が21.4%、「隣近所など、周囲の理解と協力による見守りなどへの支援を行う」が21.0%となっています。

前回調査では、「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」が32.4%と最も多く、次いで「健康や福祉についての情報提供を充実させる」が18.4%、「隣近所など、周囲の理解と協力による見守りなどの支援を行う」が18.1%となっています。



年代別にみると、20 歳代、30 歳代では「手当など金銭的な援助を充実させる」が3割台、30 歳代では「安心して子どもを生み育てられる子育て環境を充実させる」が5割台とそれぞれその他の年代に比べて多くなっています。

■年代別

単位：％		へとの協近 の支所 援力に を行など う見、 守周 り困 り理 ど解	せ民ボ る活動 への 援ア 助団 を体 充実 さ市	をが高 つく地 くる域 で活 動が でい きる ある 人	せるに 相近 談な で人 き る 場 を 充 実 さ る	を（行政 充市民 実民 さ総 合 相 談 室 な ど 制 ）	報健康 提や 供福 を祉 充に 実つ さい て の 情	う住 ま民 ちと づ行 く政 り が を 協 力 す し て る 行	づス健康 くりポ をツ が す す め る さ か ん な ま ち ・	さ在宅 せる宅 の福 祉サ ー 生 活 を 支 援 充 実 す る
今回調査(n=725)		21.0	8.4	19.0	16.6	18.3	21.4	12.3	12.4	15.3
年代別	10歳代(n=7)	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0
	20歳代(n=57)	12.3	12.3	21.1	14.0	15.8	31.6	8.8	15.8	10.5
	30歳代(n=109)	17.4	6.4	9.2	21.1	15.6	17.4	9.2	9.2	2.8
	40歳代(n=103)	22.3	10.7	21.4	15.5	16.5	19.4	13.6	14.6	18.4
	50歳代(n=110)	17.3	12.7	24.5	13.6	20.9	24.5	10.9	10.0	17.3
	60歳代(n=145)	20.7	8.3	21.4	17.9	23.4	21.4	16.6	16.6	17.9
	70歳代(n=137)	29.2	6.6	18.2	13.9	19.0	19.7	12.4	12.4	21.2
	80歳以上(n=46)	26.1	2.2	15.2	21.7	10.9	21.7	13.0	6.5	10.9
単位：％		の高 施設 サ ー ビ ス を 充 実 さ せ る	る安 子 育 て 環 境 を 充 実 さ せ る	たも学 めの習 支若 援者 が 自 立 し た 生 活 を 送 る ど	さ手 当 て な ど 金 銭 的 な 援 助 を 充 実 さ せ る	性移 の動 確手 保段 をの す充 す実 め等 、 交 通 の 利 便	る心災 害 時 に 手 助 け が 必 要 な 方 が 安 心 し て 避 難 で き る 体 制 を 充 実 す る	り道 路 の 段 差 解 消 な ど 、 バ リ ア フ	そ の 他	無 回 答
今回調査(n=725)		15.3	25.4	11.2	18.6	20.3	12.8	13.1	2.1	4.7
年代別	10歳代(n=7)	14.3	28.6	42.9	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3
	20歳代(n=57)	12.3	33.3	8.8	33.3	3.5	10.5	21.1	3.5	1.8
	30歳代(n=109)	15.6	56.0	26.6	34.9	11.0	11.0	12.8	1.8	0.9
	40歳代(n=103)	20.4	34.0	18.4	20.4	14.6	10.7	11.7	3.9	0.0
	50歳代(n=110)	16.4	16.4	9.1	14.5	30.0	15.5	7.3	0.9	2.7
	60歳代(n=145)	12.4	16.6	4.1	11.0	23.4	15.2	13.1	3.4	3.4
	70歳代(n=137)	14.6	13.1	5.8	7.3	24.1	12.4	13.1	0.7	10.2
	80歳以上(n=46)	15.2	10.9	0.0	21.7	30.4	17.4	17.4	0.0	17.4

7 自由記述

今回のアンケート調査の中で、ふじみ野市の地域福祉に関するまちづくりについて 166 件のご意見をいただきました。いただいたご意見を分野ごとに分類すると、以下のようになります。

分類	件数
情報提供について	34 件
まちの活性化、都市・生活環境について	21 件
地域の交流について	20 件
福祉全般について	16 件
行政について	14 件
道路・交通について	14 件
子育て支援・教育について	10 件
治安・防犯・防災について	7 件
人材育成について	4 件
高齢者支援について	4 件
健康づくり・医療体制について	3 件
経済的支援について	2 件
アンケートについて	1 件
その他	16 件

主なご意見は、以下のとおりです。

■情報提供について（34 件）

- 地域の集まり、祭事、そして催物に関心を引くこと、ピーアール声掛けをし、七夕、盆踊り、文化祭等、参加の呼びかけが必要です。このままですと地域の活動、そして協力が無くなります。
- 福祉サービスを利用する必要が最もない年代の住民かと思いますが、あまりにも地域の福祉について知らずおどろき反省しました。しかし、興味を持たずとも、勝手に情報が得られるようになればいいと思いました。
- 情報がいろんな場所に分散されていたとしても、窓口に行けば解決できると安心して生活できます。
- ふじみんの LINE チャットボットで、福祉に関する内容の情報の提供。
- 駅やスーパー、病院などのよく行く所に公的な支援や窓口の情報提供をして欲しい。
- サービス提供を行う人と受ける人とが、簡単に安全にマッチングできるシステムを整備していくと良いと思う。
- 日程、大体の場所、必要とする支援の内容などの情報がスマホ、広報などで知ることができたりすれば、内容によっては参加する機会ができるのではと思ったりします。
- 市のホームページからの情報が、探すのが大変です。
- ふじみ野の福祉関連を一括で知って、予約までできたり、サイト内で情報交換できるアプリがあるといい。
- ボランティアなどを気軽に検討できるための情報を入手しやすくなること、また、学校でボランティア活動の申し込みから活動までの一連の流れを教えてもらえると若者にとって社会福祉が身近になると考えます。
- SNS で活動の様子を発信したり HP でトピックスを載せるなどして、若い人でも興味をもってもらえるよう工夫していただけたらと思います。
- 困った時にはどこに相談すればいいのかすぐにわかるようにする。
- 市報「ふじみ野」でしか市の情報が入ってこず、時間のある人も、中高齢者にはいっぱいいると思うので情報が大事だと思う。
- 外国人のためもっと英語のサインやウェブページやパンフレットをつくって下さい。

■まちの活性化、都市・生活環境について（21件）

- 広い休耕地があり、作物はほぼ何もつくっておらず、風の強い日など、砂塵が舞い上がり、家の中が砂だらけになって、隣近所みんな困っている。市役所などで、地主と相談し善処していただければ有難い。
- 自宅にひきこもることなく、誰もがお出かけしたい、外出したいと思える街づくり、交通の利便性の向上。
- ふじみん号は市中を網羅していないので使えない。歩いて買い物ができる魅力的な商店街がない。企業を誘致するとかまちづくりに力を入れてほしい。市民の健康増進のために安心して歩ける道路と環境を整備して欲しい。歩道がないので歩行に危ない。
- ランニングコースを整備する。テニスコートのある運動公園に売店などがあると嬉しいです。運動公園までの地下道が怖いので何とかして欲しい。明るく、清潔に。特に夜は助けを求める先がない。
- 元気な高齢者が張り合いがあり、楽しく暮らせるようになると、支えが必要な高齢者も元気になる、暮らしやすく活気のある町になると思います。元気で持てる能力を活かせる場がもっとあれば良いと思います。
- 携帯電話の使い方を教えてあげる場をつくる。ネットスーパー、チケットの買い方など… 携帯が上手く使えれば、詐欺防止や安否確認、もっと若者と気軽にコミュニケーションがとれるのでは？
- 地域協働学校・学校運営協議会を形だけでなく、実際に意味のあるものにする。各学校のPTAを解体し、地域協働学校の組織内などで、一本化していく。
- 最近募金等の間接的な支援ができるような場面（各店舗等での設置）が減っていると感じていて時間の無い身ではそのような間接的なものでしか協力することができないため設置数を増やしていただけないか、と思います。

■地域の交流について（20件）

- 自治会や町会のイベント、行事などに参加することで、近所の人達の顔と名前を覚えたり、話したりできるので、コロナで中止にするのは困る。
- 外国の方や、高齢の方、子育て世代の方の交流で地域活動に参加してもらおう。
- 場所と中心になる方が必要であると常に思っています。気を使わず集まれる場所を望みます。
- 自治会ごとに、集える軽喫茶のような場所があればいいと思う。
- 地域の集まりを定期的開催し、参加によって、各々の理解を高めるとともに、相互扶助の精神を涵養していくことが大切だと思います。自分が他の人や地域にできることは何かを考え、行動しています。
- 昔から住んでる方と新しく引っ越してきた方のイベントなどの熱量の差を感じます。自治会は昔からの方が中心で有難い反面、内容も昔からの方が良いようなものが多い（自治会の退会なども相次いでます。）その差を埋められればもっと良くなると思うのですが。
- コロナのせいで、閉塞感が高まっていると感じます。人と人との関係がどんどん希薄になっているように思われます。
- 自治会を中心した活動を活発化していくことだと思います。

■福祉全般について（16件）

- 私は一人暮らしなので、身体が動くうちに、近所の高齢者のお宅の買い物や、ゴミ出しなどのお手伝いをしておくと、自分が支援が必要な状況になった時に、同じサービスを受けられるような制度があればいいと思っています。
- コロナ禍になり、以前より他人との関りが減り、孤独感を持っている人が多いように感じます。
- うつ病で悩んでいる人への支援をお願いしたいです。
- ギブアンドテイクの考え方が必要だと思う。無償のボランティアではなく有償のシステムを構築する方がいいと思う。
- 空調のあるスペース（フリースペース）で図書館的な場所があればいいと思います。キッズコーナーを分離して、静かに友人と話をしたり手芸をしたりできるスペース。室内では障がい者を雇用して軽食を提供（食べ物の持ち込み禁止）。
- 親として子どもにいろいろ体験（ボランティア）させてあげられるような行事があると参加しやすいのかなと思います。子育て世代は、子を置いて一人で参加するのが難しいので。
- 小学校や中学校といった早い段階で、さまざまな地域活動、福祉活動に実際に参加することで、他人事ではないという意識が芽生えろと考えています。

■行政について（14 件）

- どこかの市町村であったような「何でもやる課」のような、市民が困ったとき、まずどこへ連絡すればいいかわからない。なので、困ったときは「何でもやる課」のようにアナウンスしてもらえればありがたい。そこには予算もつけていただき、少々の道のへこみなどはすぐ直してもらえるなど、小さな困りごとの声を聴いてもらえる窓口が欲しいです。
- 役所では個人情報保護に配慮しつつ福祉施策の必要な人を把握し、コーディネーターが必要な施策と結ぶ手助けをする。
- リノベーションスクール(川越は実施していました。)をふじみ野市でも実施したい。あさかプレーパークのようなものをふじみ野市でも。ボランティアだけでなく、若手の小規模で事業を動かす市民を応援する風土が欲しいです。高齢者や大規模事業者への支援ばかり充実している印象があります。若者は生活しづらい町だという印象です。
- どんなに困っていても自発的に助けを求められる人ばかりではありません。そんな人々を見つけ出せるよう市や市の職員が本気で行動をすべきだと思います。
- 一人暮らしの高齢者に班長(自治会費の集金、回覧板の管理等)などの役割は負担となる。免除できるよう公的に決めて欲しい。
- 福祉サービスを受ける際の手続きが煩雑なので、このアンケートのようにインターネットにより手続きできるようにしていただきたいです。

■道路・交通について（14 件）

- 高齢者の車の事故が増えていて、家族は心配していても、交通の不便等を理由に、免許を返納しないお年寄りが多い。市内のバスも、乗り継ぎごとに料金がかかる等、お年寄りでなくても利用しにくい。返納するとパスポートみたいなものがあり、無料で利用できるものが沢山あると、返納した方が得と考える人も増えるのではないかと思います。
- 踏切を本当に本当に何とかしてほしい。
- 歩道の段差や傾斜は車いすやベビーカーを利用している人には本当に不便である。
- 高齢者は交通の(バスなど)利用が非常に不便で、料金やコースなどももう少し増やしてもらえたら街も活発になるのでは。高齢者の間ではバスの料金が安いのではとの話もしている。
- 高齢者や障がい者に対するタクシーやバスの無料パス発行や銭湯の入湯費用の免除や補助。
- 現在のふじみん号の利便性をあまり感じない。市が運営する交通機関として存在をして良いのではと感じる。利用時間の拡大(深夜も含む)、路線の見直し、商業施設への乗り入れ、乗降が楽な車両への変更など、高齢者や必要とする人の自転車や車両の運転をせず市内の行動ができるようにする。通勤する人の利便性を高める。

■子育て支援・教育について（10 件）

- 不登校や、それに近い状態の子ども達の、学校ではない別の居場所をつくって欲しい。興味のある勉強を教えてくれたりして、出席日数にカウントされると助かる。
- 両親ともに安心して十分な仕事のできる、子どもとの環境を充実させれば転入者も増え、税収もUPしより良い市政が行えると思われます。「小学 1 年生のカベ」はかなり、共働き世帯には負担になっているので、乳幼児以外のケアも必要かと思います。
- ボランティア活動の重要性は、子どもの頃からの教育、意識付けが大切と思う。
- 市報を読みますが、子ども食堂や子どもの相談する場所が少ない。また、独身のひとと子どもがつながれる環境があると良いと思う。勉強会、読書会等。
- 0 歳児がいるので、もっと気軽に一時預かりなどしていただける所があれば安心です。
- ここにはレベルの高い高校がない。電車に乗らないと高いところへ行けない。子にも親にも金銭(定期的、身体的、時間的)負担がかかる。せめて金銭的負担だけでも軽くするため、市独自の私立高校の助成金制度つくってほしい。世帯の収入にかかわらず！
- 他県であるように子どもが小学校入学の際、無料でランドセル配布(最近は金額も上がり、デザイン等も多様化してて大きな負担)。
- 母親もゆっくりできる時間・場所が必要だと思います。地域でももう少し子育て世代を助けるシステムがあれば、いいと思う。もう少し現実的な支援を希望します。
- 子どもの一時預かり制度があることは知っているが料金が高すぎて気軽に頼めない。

■治安・防犯・防災について（7件）

- かまどベンチや、マンホールトイレの設置等、災害時の備えの充実を希望致します。
- 防犯カメラ等の設置とその認知(閑散エリア)。パトカー他、警察関係車両の巡回数の増加(特に夜間)。
- 地域の防災訓練をいつしているかわからない。自治会でしているなら、参加してみたい。
- 高齢者、障がいのある方、一人暮らしの方への安否確認を電話なり、訪問する。詐欺ではない事を明らかに示す。身なり、言動、行動を工夫する。
- 福祉に直接関係はしませんが、市内に住宅が急速に増えている割に、街灯は少ないままだなと感じます。

■人材育成について（4件）

- 仕事や学業で忙しいと思いますが、若い人の力が必要だと感じます。
- ボランティアといっても本当に心から寄り添える人材を育成することが大切なのではと思います(知識と人柄)。
- 役職を持った方々(町会役員、民生委員、ボランティア)の方々が同じ考え方で市民を引っ張って行く方法を考えてほしい。あまりにも差があり、むしろ足を引っ張る方向に持っていき、自分のためだけに活かされ、住民のためになっていないのではないかとされる人も多い。そもそも役員になり手がいないことが、こうした結果に結びつく。
- 良心的リーダーの育成に力をいれてほしい。

■高齢者支援について（4件）

- 高齢者が医者いらずで過ごせるような場を。つまり、高齢者の健康支援を。
- 一人暮らし老人の食事支援など。
- 今コロナで、病院、老人ホームなどで寂しくしている方々が元気になるような取り組みはどうでしょうか？

■健康づくり・医療体制について（3件）

- 健康マイレージで万歩計を下げて歩いている人が多かったですが、今はあまり見かけません。「健康」をキーワードに、何か目的、ゴミ拾いなどを企画してつながれば…、見守り花壇などできる時に、負担なく参加できることが良いと思います。リタイアして元気な高齢者へ、上記の企画参加・立案する所から参加してもらうことも、良いのではないのでしょうか。
- 病気や怪我等で、車いすや松葉杖が必要な時、希望するすべての人が借りられるような制度(知り合いの人が、松葉杖を借りたいと相談したら借りることができなかったそうです)。
- とにかく病院の質が悪いです。医者の温かみを感じません。病院が少なく、患者が殺到しているせいもあるかもしれませんが、安心して人生を終えるような体制を望みます。

■経済的支援について（2件）

- 生活困窮者を少しでも減らす、経済政策。
- 時間、金銭的余裕を持った状態でなければ、意識は持てないので、その方面からアプローチをかけると良いと思う。

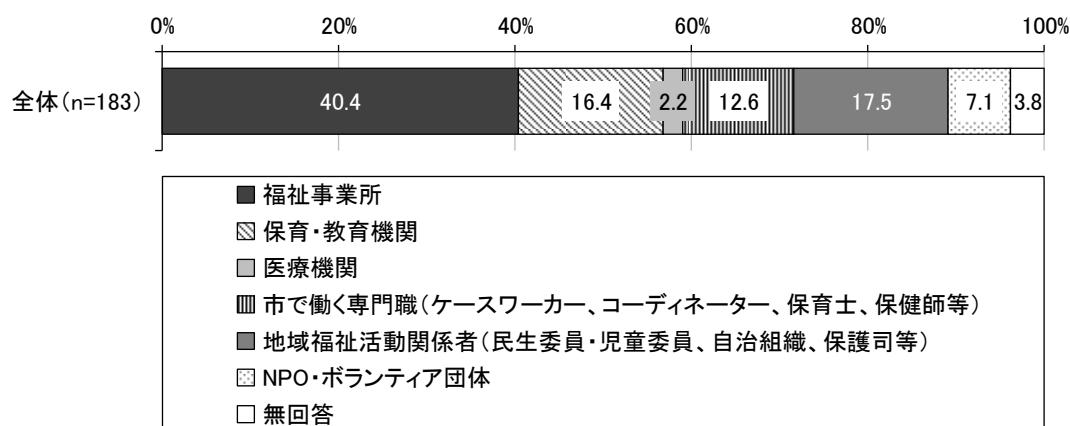
■アンケートについて（1件）

- 今回のアンケートで福祉について、改めて考えられ、別紙の言葉の解説で勉強になりました。今後も定期的にアンケートを実施して、市民の方々の理解を深めるのもいいと思いました。

Ⅲ 専門職・地域福祉活動関係者調査の結果

問1 貴団体・事業所等についてうかがいます。(単数回答)

団体区分については、「福祉事業所」が40.4%と最も多く、次いで「地域福祉活動関係者（民生委員・児童委員、自治組織、保護司等）」が17.5%、「保育・教育機関」が16.4%となっています。



団体区分が「地域福祉活動関係者」、「NPO・ボランティア団体」の方にうかがいます。
 (「福祉事業所」、「保育・教育機関」、「医療機関」、「市で働く専門職」の方は、問5へ)

問2 貴団体は、どのくらいの頻度で活動を行っていますか。(単数回答)

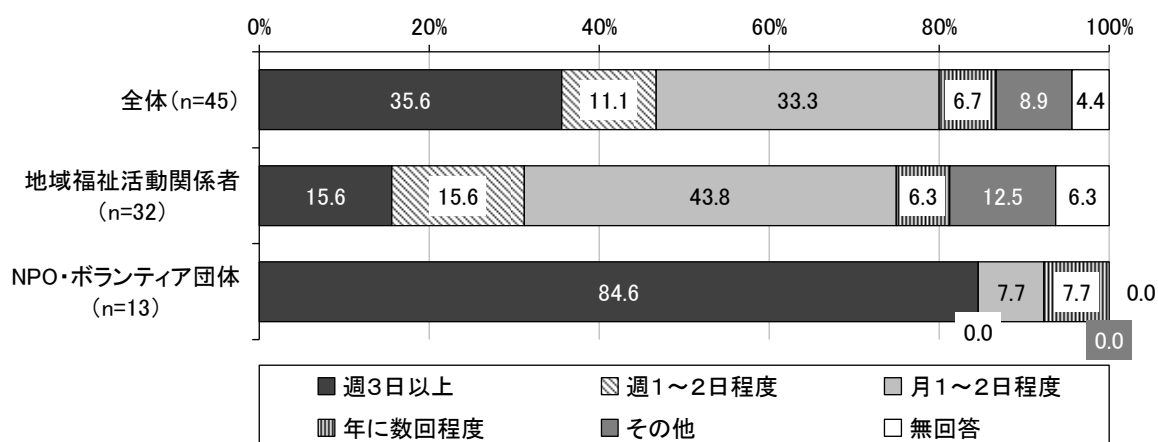
※新型コロナウイルス感染症の影響で増減がある場合、流行前の状況でお答えください。

なお、新型コロナウイルス感染症の活動への影響については、後ほどお聞きします。

活動の頻度については、全体では「週3日以上」が35.6%と最も多く、次いで「月1～2日程度」が33.3%、「週1～2日程度」が11.1%となっています。

〔地域福祉活動関係者〕では「月1～2日程度」が43.8%と最も多く、次いで「週3日以上」「週1～2日程度」が15.6%となっています。

〔NPO・ボランティア団体〕では「週3日以上」が84.6%と最も多く、次いで「月1～2日程度」「年に数回程度」が7.7%となっています。



問3 貴団体が活動を行ううえで困っていることはどのようなことですか。(複数回答)

※新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前から課題だった点をお答えください。

活動を行ううえで困っていることについては、全体では「メンバーの人材確保・育成（高齢化・性別の偏り・リーダーの育成など）」が71.1%と最も多く、次いで「地域との協力・連携・協働について（支援を必要とする人へのアプローチなど）」が28.9%、「他団体等との協力・連携・協働について」が24.4%となっています。

〔地域福祉活動関係者〕では「メンバーの人材確保・育成」が78.1%と最も多く、次いで「地域との協力・連携・協働について」が28.1%、「活動の内容について」が25.0%となっています。

〔NPO・ボランティア団体〕では「メンバーの人材確保・育成」が53.8%と最も多く、次いで「地域との協力・連携・協働について」「他団体等との協力・連携・協働について」が30.8%となっています。

単位：%		メンバーの リーダーの 人材確保・ 育成など （高齢化・ 性別）	活動の 内容について もたらえる 活動の 実化・参加 者	活動の 場所（拠点） の確保が 難しい	活動 資金が 足りない	活動に 必要な 情報や 専門知識 が不足して いる （適当な 相談者が いない）	情報 発信の 仕組み づくり について （市民へ の）	地域 との 協力・ 連携・ 協働に ついて （支援 を必要 とする 人への アプロ ーチな ど）	他 団体 等と の 協力・ 連携・ 協働に ついて	特 に 困 った こ とは な い	そ の 他
全体(n=45)		71.1	22.2	11.1	8.9	13.3	15.6	28.9	24.4	6.7	6.7
団体 区分	地域福祉活動関係者 (n=32)	78.1	25.0	9.4	3.1	15.6	15.6	28.1	21.9	6.3	6.3
	NPO・ボランティア団体 (n=13)	53.8	15.4	15.4	23.1	7.7	15.4	30.8	30.8	7.7	7.7

問4 新規メンバーの募集に向け、貴団体に心がけていることを教えてください。(複数回答)

新規メンバーの募集に向け、団体に心がけていることについては、全体では「活動情報の提供」が51.1%と最も多く、次いで「気軽に参加できる雰囲気」が46.7%、「活動時間や曜日への配慮」が40.0%となっています。

〔地域福祉活動関係者〕では「活動情報の提供」が50.0%と最も多く、次いで「気軽に参加できる雰囲気」が43.8%、「活動にあたっての身体的な負担の軽減」が37.5%となっています。

〔NPO・ボランティア団体〕では「活動時間や曜日への配慮」が69.2%と最も多く、次いで「活動情報の提供」「気軽に参加できる雰囲気」が53.8%となっています。

単位：%		活動情報の提供	友人等と一緒に参加できる雰囲気	活動場所への配慮	活動時間や曜日への配慮	気軽に参加できる雰囲気	指導者やリーダーの育成	特技や知識が活かせる取り組み内容の充実	軽減活動にあたっての身体的な負担の軽減	活動にあたっての経済的な負担の軽減	特になし	その他	無回答
全体(n=45)		51.1	24.4	20.0	40.0	46.7	20.0	8.9	28.9	2.2	6.7	13.3	2.2
団体区分	地域福祉活動関係者(n=32)	50.0	21.9	12.5	28.1	43.8	18.8	6.3	37.5	0.0	9.4	15.6	3.1
	NPO・ボランティア団体(n=13)	53.8	30.8	38.5	69.2	53.8	23.1	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0

全ての団体・事業所等にうかがいます。

問5 貴団体・事業所等が活動する上で、新型コロナウイルス感染症の影響は出ていますか。活動の維持継続、支援者・利用者の視点での困りごとをお答えください。(複数回答)

新型コロナウイルス感染症の影響については、全体では「イベントや行事が中止になった」が60.1%と最も多く、次いで「その他」が37.7%、「特に影響は出ていない」が12.0%となっています。

団体区分別にみると、すべての団体区分で「イベントや行事が中止になった」が最も高くなっています。また、[市で働く専門職][地域福祉活動関係者]では「メンバー同士の話し合いの機会が持てない」が、その他の団体区分に比べて多くなっています。

単位: %		活動を休止している	イベントや行事が中止になった	活動場所がない	メンバー同士の話し合いの機会が持てない	活動再開のめどが立たない	メンバーが辞めてしまった	支援者の状況がわからない	特に影響は出ていない	その他	不明・無回答
全体(n=183)		7.1	60.1	4.9	10.9	4.9	3.3	4.4	12.0	37.7	1.6
団体区分	福祉事業所(n=74)	5.4	52.7	2.7	2.7	4.1	5.4	4.1	14.9	47.3	1.4
	保育・教育機関(n=30)	3.3	63.3	10.0	10.0	3.3	0.0	3.3	13.3	30.0	0.0
	医療機関(n=4)	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	25.0
	市で働く専門職(n=23)	17.4	47.8	8.7	21.7	4.3	8.7	4.3	17.4	30.4	4.3
	地域福祉活動関係者(n=32)	12.5	84.4	6.3	31.3	12.5	0.0	9.4	0.0	25.0	0.0
	NPO・ボランティア団体(n=13)	0.0	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	30.8	0.0

問6 新型コロナウイルス感染症による影響を受けつつも、新たに取り組んでいることや工夫されていることがあれば教えてください。(自由記述)

129 件の回答がありました。団体区分ごとの主な内容は以下のとおりです。

■団体区分：福祉事業所

働き方改革	－ 時間差や曜日別の勤務、在宅勤務等を行っている。 － リモートを使った会議及びイベントの開催。 － オペレーションを努めてシンプルに構成する。 － 職員体制の見直し・確保。 － 業務内容に即したソフトを入れ替え効率が良くなった。 － オンラインでの担当者会議、退院カンファレンス等にスムーズに対応できている。 － 新型コロナウイルス感染症に対してのさまざまなプログラムを作成し組み込んで取り組んでいる。 － 外部での活動が行えない分、事業所内にて疑似体験ができるようにしている。
利用方法等の工夫	－ オンライン支援・介入の導入。オンライン面会。 － 昼食の時間を避けた利用時間の調整、送迎のご協力をいただく。 － 感染対策を継続しつつサービスの受入れは通常通り行っています。 － 来所することが難しい方や自宅療養中の方などに Zoom を利用した在宅支援を提供している。 － 訪問しての面談は一定期間経過してからとしている。電話連絡の回数を多くし、状態を事業所に報告している。利用を再開した時にスムーズに利用できるように連携している。 － 待たなしの産後ヘルパー派遣事業は継続している(利用回数を減らすなどして派遣)。 － できる限り利用者、児童の経験の場や保護者との共有の機会が減らないように方法、内容を工夫しています。 － オンラインで一人ひとりの児童の体調や勉強の相談、グループワークなどへの参加を勧めている。 － 利用者の工賃確保するために、販路の拡大や、受注販売の工夫が必要となり、営業活動を増やした。 － 子ども達が一人でも楽しめる環境づくり。
イベント開催・交流機会	－ 他者との直接的な接触を避けた自宅でできるボランティア体験(メッセージカードの作成、文房具などの収集活動、折り紙作成など)。 － 行事は感染対策を万全にしながらできるだけ入居者様に楽しんでいただけるようにしています。 － Zoom の使い方講座(高齢者向け)。 － 感染対策を講じた上で、イベント等を開催するように工夫した。 － コロナで閉じこもる高齢者になるべく外出させ活動力を失わせないように、サロン活動の継続、介護予防事業(体操教室・オレンジカフェ)の実施。新たな通いの場を作るため模索している。 － 9年継続しているはんどめいどイベントを再開して地域の方の楽しみの1つになっている。感染対策もしっかりしながら社会交流の場として喜ばれています。
利用者家族や保護者への対応	－ ブログなどによって、利用者様のご様子を伝えている。 － 対面での面談を拒否する世帯への電話での生活状況の聴取を通して、生活状況を確認し、支援に活かしている。 － ご家族との交流がなくなってしまうので行事の写真を渡したりお土産を持ち帰ってもらう。

■団体区分：保育・教育機関

子どもの感染対策	－ 普段は工作や身体を動かす事が主体ですが、コロナ禍により視聴覚を使うレクリエーション・イベントを多く取り入れるようになりました。 － 外遊びの際、マスクを外さずに遊べる遊具や道具を使っている。やむを得ず外す時は(水分補給時等)おしゃべりせず、人との距離を十分にあけている。玩具の消毒など日常化。
行事等の対応	－ 運動会や保育参観などの行事を年齢別や参観者の人数を制限するなどして行うようにしている。行事を撮影し保護者に YouTube で配信したりしている。 － 参加者の検温や体調の聞き取りなどをしてイベント参加を承認している。 － 子育て相談等、園に直接来てもらう場合は常につくっていました。こんな時だからこそ、人とのつな

	がりを大切にしました。 - 在園保護者向けに感染状況の配信など。 - 休止していた地域交流事業の再開。 - 異年齢交流が制限され、心の育ちにも影響が出ている。
事業活動の継続	- コロナをきっかけに、行事や活動の本来の意味を考えることにつながり、行事を中止にするのではなく「できる方法」を職員と話し合いながらやれることをやっています。 - 今までの事をどう無くさずに同様のスタイルで継続して行けるかの難題と常に戦っている。園と保護者との協同作業です。
連携体制	夏風邪・他の感染症で発熱が多くコロナでの懸念もあり PCR 検査をしなければ受診できない事に保護者が困惑しており、それに寄り添う作業はとてもきつく、直接小児科への問合せ等をさせていただきました。とにかく連携を取ることが大事かと思います。
職員体制	- 職員会議のリモート参加。 - 感染予防するためには、工夫しても、人手不足になる日や時間帯が多い。

■団体区分：医療機関

- 高齢者施設でのワクチン接種。 - 感染防止対策。

■団体区分：市で働く専門職（ケースワーカー、コーディネーター、保育士、保健師等）

交流機会・情報共有	- 介護家族交流会、オレンジカフェ、自主グループ（ぴんしゃん体操）の立ち上げ。感染対策をとりながら市民向け料理教室の再開を目指している。 - 交流会は2年間中止となったが、団体紹介を目的に展示会を開催。今年度は各団体を紹介する動画作成に取り組んでいる。動画作成は団体のスキルにあった方法で作成できるよう講座で支援。 - 新たに動画等のオンラインツールによる情報提供に取り組んでいる。
研修・会議	- 個別対応や人数制限をして実施。市民向けの講演をオンラインで動画配信。 - 予め1時間以内と決める。対面とWEBを併用実施してより多くの方に参加していただけるように工夫。
相談・面談	- オンライン相談、電話対応。対面の時間短縮などを実施。今までのところ、継続した相談支援体制を維持することが可能となっている。 - コロナの影響で個別、少人数による対応にしたことで、より参加しやすい状況（日程の配慮、場所の確保 etc.）ができ、参加実績を増やすことができた。

■団体区分：地域福祉活動関係者（民生委員・児童委員、自治組織、保護司等）

研修・会議 情報共有	- 会議を囲み型でなく教室式にする。2グループに分け、時間差を設けて実施。 - リモート開催、DVD視聴研修や書籍研修への変更。人数を制限しての開催。 - ポスティングによる会報の配付。可能な限り情報の収集に努め、自治会員への共有化を図る。 - お互いの体調や周囲の人々の状況をまめに連絡を取り合う。 - コロナ禍での取り組みとして事例集や実態調査のまとめを作成。
交流機会	- イベントは外での企画はコロナ禍でも実施。お茶やお菓子の配布。 - 参加者全員を把握するため、申込書の変更。 - マスク着用・消毒等、最善の予防の上開催。
見守り活動	- 安否確認は対面から電話に変えた。電話による安否確認は「オレオレ詐欺」を警戒して出てもらえない方が多いのが難点。 - 行事、敬老の日のお祝いに小学生の子どもたちにお手紙を書いてもらい、お祝いの品にそえて、見守り活動を行いながら配布してもらった。 - 見守りをしてほしいとの声が増え、地域住民と見守りチームのコミュニケーションも増え、ほぼ毎日のようにチームが動いている（戸締り、服薬の確認、体温・血圧の様子等々）。

事業活動 の継続	- 事業を中止するのではなく、どのようにすれば実施できるのかを考えている。 - 事業計画している内容が多いため、いかに実施していくかが先で新しい事業は考えていない。
-------------	---

■団体区分：NPO・ボランティア団体

- コロナ禍だからこそ一人ひとりに寄り添った対応。 - リモート会議やブログなどを利用しての情報発信など。 - オンラインでの教室開催や人数制限、時間短縮。 - ひとり親世帯・子ども食堂でのお弁当提供。開催時に予約制でワークショップを開催。 - 飲食等を制限しつつ、イベント等はあるべく積極的に企画しています。 - お祭りができなくなった代わりに全クラブでの作品を作り公共施設での展示。
--

■団体区分：無回答

- 面会時間の短縮と Zoom 等を利用しての会議。 - 屋外での活動。 - 令和 2～3 年頃は、手紙・電話・インターホン越し等で連絡を行っていた。現在はマスク同士であれば、前より長い時間話し合うことができるようになった。 - 児童センター内での預かりをファミリー・サポート・センターの事業として定期的に開催。利用の仕方を体験する事で不安感がなくなり次への依頼にもつながっている。
--

問7ー(1) 最近、地域で活動する中で気になる課題はありますか。該当する項目番号を記入(複数回答可)し、それについて内容を具体的に記入してください。

問7ー(2) 問7ー(1)で記入した事例・問題に対し、これからの取り組みや活動等、主体的にできる解決に向けたご提案がありましたら、ご記入ください。

最近、地域で活動する中で気になる課題については、全体では「高齢者・介護(認知症、見守り)」が28.4%と最も多く、次いで「子ども・子育て(居場所、ヤングケアラー含む)」「障がい児・者(医療的ケア児、発達障がいを含む)」が26.8%となっています。

団体区別にみると、[保育・教育機関][市で働く専門職]では「子ども・子育て(居場所、ヤングケアラー含む)」、[福祉事業所][地域福祉活動関係者]では「高齢者・介護(認知症、見守り)」、[医療機関]では「健康・医療」、[NPO・ボランティア団体]では「障がい児・者(医療的ケア児、発達障がいを含む)」がそれぞれ最も高くなっています。

単位: %		子ども・子育て (居場所、ヤングケアラー含む)	障がい児・者 (医療的ケア児、発達障がいを含む)	高齢者・介護 (認知症、見守り)	外国籍・外国ルーツの市民	人権・家庭内暴力	地域活動・ボランティア活動	健康・医療	就労・経済的な事項	防災・防犯・交通安全	ニート・ひきこもり	住居・住環境	福祉に関する情報提供	その他	無回答
全体(n=183)		26.8	26.8	28.4	7.1	4.9	15.3	8.7	11.5	9.8	10.9	7.1	6.6	4.4	14.2
団体区分	福祉事業所(n=74)	12.2	29.7	39.2	4.1	4.1	18.9	9.5	16.2	8.1	10.8	2.7	10.8	4.1	16.2
	保育・教育機関(n=30)	60.0	46.7	3.3	13.3	6.7	10.0	3.3	10.0	6.7	0.0	10.0	0.0	3.3	10.0
	医療機関(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0
	市で働く専門職(n=23)	52.2	26.1	34.8	17.4	8.7	13.0	4.3	13.0	4.3	30.4	4.3	8.7	4.3	0.0
	地域福祉活動関係者(n=32)	9.4	3.1	28.1	3.1	0.0	15.6	6.3	3.1	21.9	9.4	15.6	3.1	6.3	28.1
	NPO・ボランティア団体(n=13)	30.8	38.5	7.7	7.7	15.4	23.1	15.4	0.0	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7

項目番号

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 子ども・子育て(居場所、ヤングケアラー含む) | 2 障がい児・者(医療的ケア児、発達障がいを含む) |
| 3 高齢者・介護(認知症、見守り) | 4 外国籍・外国ルーツの市民 |
| 5 人権・家庭内暴力 | 6 地域活動・ボランティア活動 |
| 7 健康・医療 | 8 就労・経済的な事項 |
| 9 防災・防犯・交通安全 | 10 ニート・ひきこもり |
| 11 住居・住環境 | 12 福祉に関する情報提供 |
| 13 その他 | |

■団体区分：福祉事業所

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
1	発達障がい診断に至る迄では無いが養育環境や偏りのある特性により社会集団適応が難しい、いわゆるグレーな子どもに関する相談が増えている。アドボカシーの考え方を取り入れた柔軟な研修対応が必要と感じる。	福祉と集団の間(例えば相談員と学校等)の相互理解を深め情報共有し易くする。
1	保育所、学校での子どものコロナ感染を多く感じています。これに伴い親が仕事を長期間休まなければならないことも。	無回答
1	重度心身障がい児を受け入れているので、兄弟のヤングケアラー問題は気にしています。	事業所のイベントなどに兄弟を招待したり、保護者のケアなど行っています。
1	ひとり親家庭の交流支援事業として、芋掘りや日帰りバスツアーを企画しているが、毎回定員を超えることから、ひとり親家庭が気軽に親子で参加できる低額・無料のイベントなどが少ないと感じる。	子ども食堂やフードパントリーなど、子育て支援を目的とするボランティア・NPO団体の育成・支援。(例:子育て支援関連講座の実施、団体運営費等の助成、活動の場の提供等)。多世代交流事業の実施。
1	虐待案件の相談、ヤングケアラー。なかなか相談につながらない。	縦割りではなく横のつながり連携した支援体制。
2	依然として理解がある方、無い方がいるために障がいのある方が過ごしやすい環境整備が難しい。	学校で障がいのある方の視点を感じられる映像学習の時間を取り入れたらどうか。
2	重度障がい者が仕事に就くための介助者制度が無いために仕方がなく作業所やデイサービスに通っている方がいる。	さいたま市では国に先立ち、仕事上の介助者制度をつくり実績を上げている。
2	障がいのある方の希望に近い就労の場が足りない。あってもとても遠い。	自治会行事への参加を事業所が行ったと考えたが行事日程が事業所の休日と重なることが殆どでなかなか難しい。一事業所ができることには限りがあり提案できるものが無い。
2	幼稚園の先生に指摘された、健診で引っ掛かった等未就学児の相談が増えているように感じる。	無回答
2	8050問題、相談事業所が増えない、障がい者の高齢化による障がいと介護の切り替え等、累犯障がい者への福祉の関わり方。	地域生活支援拠点整備へ向けて既存の事業所だけが負担感を覚えるような形にはしないようにしてもらいたい。株式会社等の利益優先の考えだけになると福祉とは何かとなってしまう。
2	療育支援が必要な子どもは増加傾向にありますが入所希望者の全てを受け入れることが現状難しく、ニーズに応えられず、定員枠を広げることが難しい。	できる限り話を聞いて相談に応じたり、他機関等に社会資源を紹介してつなげていく。
2	定期通院している利用者の通院同行など支援者や事業者不足。	在宅者を含め、通院同行・支援が必要などのニーズの統計、データを集めることがスタートになると思います。
2	障がいのある方の住まいの相談が多い。障がいのある子の進路の相談。	利用事業所や通っている学校との連携をする。住まいに関する情報収集。
2	精神障がいのある人の居場所、交流の場がない。ひきこもりになっている。	日中、気軽に参加できる交流場所(カフェのような場所)があれば、ひきこもり状態から脱出できるのでは。
2	併設の保育園の職員からお困り感のある子についての相談が増えている。家庭内でお子さんと対峙することを不安に感じる母親が増えている。	専門機関につなげるよう声掛けをする。日々の保育の中でできることを提案していく。親の気持ちに寄り添い、声に耳を傾ける。
2	特性を集団活動の場で初めて気付くことが多く、受け止めが難しい。働く両親が増え“療育”を土日に求める方が増えてきている。保護者のニーズと	無回答

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
	事業所の空き状況のニーズが異なり、支援が届きにくい。	
2	親の高齢化に伴い、親亡き後の生活の場(入所施設、グループホーム etc)が不足している。特に重度障がいの方は選択肢も乏しい。医療的ケア児・者が利用できる資源が少ない。	地域共生社会の中で、地域の人の見守りやつながりができると、福祉サービスだけでは支えられない(足りない)部分が助けてもらえる。
2	親が高齢もしくは病気になった時に重度障がい者が使える資源(短期入所・グループホーム等)が少ない。	重度知的障がい者が利用できるグループホームの設置。
2	知的障がいや自閉症の軽いグレーゾーンの児童が多くなり、重度知的障がい児や自閉症児との共存が難しいと感じる時がある。	非常勤職員を手厚く配置して個別対応しながら可能な限り共存の方向で取り組んでいる。活動のための部屋が2箇所あるため分けて活動することもある。今後は曜日別に分けて活動するなど検討中。
2	障がいのある方と地域の方との交流が行事以外ではあまりない。	無回答
2	発達特性により育児困難な未成年を受け入れる児童発達支援や放課後デイサービスが多く開設され保護者支援として役立っている。ただ、成人後の個々の特性に合った事業所は未だ整っていないのではないかと思います。	事業所の設立と支援者の確保。
2	医療的ケア児の受け入れ場所が少ない。	医療的ケア児を受け入れています。看護師が必要など人件費もかかるそうです。運営基準の緩和など、施設増加につながってほしい。
2	障がい者の当事者団体や家族会の活動を支援するために、障がい者関係団体支援事業を実施し、交流会や研修会、日帰り旅行などのイベントに助成しているが、コロナ禍もあり、イベントの開催を見合わせる団体が増えた。またコロナ禍による通常の活動停滞や高齢化による担い手不足も重なり解散する団体もある。	障がい全般に関することについて、住民理解を促すための講座の実施。障がい者団体が実施する事業費の助成、活動を支えるボランティア育成・支援。
2	地域移行支援(長期入院や入所施設から地域の生活へ)の促進のための取り組みが求められている。	保健所や病院、施設などとの連携をさらに強化する。
2	特別支援学校の卒業生が選べるほど、空きがある事業所がない。(特に生活介護)	新規事業所立ち上げは難しいと思うので、今ある資源をどう活用できるか各事業所の意見を交換できる場があると良いと思う。
2	一人ひとり異なる配慮と対応。保護者と学校との連携。	研修の開催、専門家の巡回とフォロー。
3	感染を恐れ、デイサービス利用や外出を控える事で認知症や持病が進行したり、新たな病気を発症するケースが増えている。	オンラインでのびんしゃん体操ができれば人員が少なくても地域の多くの方が参加できるのではないのでしょうか。
3	高齢者夫婦と家族がコロナにより疎遠気味になっている。認知症の悪化に伴い認知症夫婦が増加していると感じるも経済力の無い認知症夫婦の対応には限界があり、サービス利用も必要最低限しか受けられずに困るケースがある。	サービスのみならず地域で認知症を支える社会資源があっても良いと感じます。認知症の方を低価格で預かれる施設の設置等、また認知症の支援に問題があった場合に支援者が相談できる機関があると良いと思います。
3	独居の高齢者、後見人となる親族がいない。	介護保険の新規申請の際に聞き取りがあると思いますが、その時に後見人制度等必要と思われる方には説明紹介を行う。
3	感染対策、ご利用者様やご家族のコロナ感染、働いている職員の感染や家族の感染。	感染対策はしているが…。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
3	福祉従事者として考える大変なケースとは、認知症の独居の方と8050で子どもが精神障がいのある方という認識があります。徘徊される方が交通事故にあった場合はご本人も大変ですが、交通事故を起こしてしまった方も災難だと思います。近隣の方、民生委員と一緒に見守っていきたいです。	無回答
3	コロナ禍での外出控え、フレイル、居場所。	インフォーマルなサービスをつくり出していく取り組み。
3	独居あるいは日中独居の認知症高齢者の見守りの体制が不足している。	行政でも徘徊探知機等の利用ができるが、利用者から「もっと簡単に利用できたらいいのに」という声がある。
3	コロナウイルス感染した利用者様に接してしまい、感染してしまった職員がいました。	感染対策の強化。
3	認知症の独居が増加している。別に居住している家族が非協力的。	無回答
3	慢性的な人手不足。	無回答
3	高齢者や認知症の方々を対象に事業を実施していて、1日の夜を通して面倒をみなければと感じています。なかなか実態が伴っていないのですが。	デイサービスは現在泊まりまで対応しているところが少ない。新しく泊まれる住宅の確保、夜中を通じた健康管理ができる施設の確保。
3	在宅で介護をされているご家族の認知症に対する知識と理解度が不足しており、在宅で介護をする限界を迎えている中でのケアマネジャーとの連携。	法人内の居宅事業所におきましては、連携を密に取り、困難ケースにいかに対応できるかを会議しております。また市の高齢福祉課にもご協力いただき感謝しております。更なる連携と情報共有をお願い致します。
3	ご利用者の中で認知症を持つ高齢者が独居で暮らしている方やご家族がネグレクトのような方もいらっしゃいます。そのような方の支援がとても難しく感じています。ケアマネジャーさんへの負担も増えてしまっている事もあります。	無回答
3	通所リハビリを休む方が増える。	無回答
3	認知症独居。	無回答
3	ご自宅で生活、介護サービスを利用してもご家族(同居の有無にかかわらず)の協力が得にくい家庭も増えているように感じます。ご利用者自身でも同じことを感じる方もいますが、親(要介護者)の状態の変化に反応が薄い、最期のときへ向かっているという意識は薄いように感じることがあります。とくに男性介護者に多いように思います。	新規の利用時より「最期のとき」に向けた意向の確認は少しずつでも始めていくつもりです。一時期「終活」という言葉も流行りましたが、ご利用者のことだけではなくご家族も含めて具体的な考え方や行動を示すような学習会などの企画が自治体でもあるかもしれませんが、事業所内でも検討したいと思います。
3	支援員の高齢化。世代による価値観の違い。	研修の開催、適正の判断。
3	コロナ前と比べて当事者等の活動自粛が気になります。	認知症当事者等が参加しやすくするためのボランティア育成(例:家族が当事者も一緒にイベントやオレンジカフェ等に参加させるには、それなりの労力がかかるため、外出の機会を手助けできるボランティアさんがいると心強い。)
3	高齢者の参加の場の現象(コロナで地域サロン中止、ぴんしゃん体操の場(密を避けるため人数制限実施)、コミセンが有料となったこと)。	自治会等に感染対策の方法や閉じこもることでの悪影響について説明して、新たな活動の場を広げるよう努力している。
3	家族の問題。	多職種の連携。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
3	就労等で家族が受診の付き添いができない時等、医師による診療結果が理解できない。そもそも一人で受診できない。	現在の介護保険では、病院の送り迎えはできるが、病院内までは入れないため、医師からの留意点等を聞き取る時は実費負担になってしまう。
3	新型コロナウイルスに感染した職員が出てしまうと隔離となり、10 日ほど出勤できなくなり、人がまわらなくなった。	無回答
3	認知症と疑われる高齢者の家族がそれに気づいていない。	無回答
3	身寄りのない方の身上監護。特に判断能力はあり、生活保護受けるほどではないがお金に余裕のない方。	無回答
3	独居の高齢者の薬の飲み忘れ問題。	薬剤師をもっと活用できるように知名度があがると良い。
3	高齢者の生活を支えるために必要な支え合いや見守り活動などを地域活動として実践するためのしくみや担い手が不足している。	新たな地域活動の担い手を確保、育成、支援するための講座・研修会等の実施。
3	8050 問題。高齢者を支援する中で、高齢者が障がいのあるお子さんを抱えていたり、就労していない子どもと同居している方が少なからずいる。	無回答
4	当施設には外国籍の方はいませんが母体の法人には勤めていらっしゃる方がいます。多い時には 5 名程いましたが現在は 1 名です。一番問題になったのは言葉の壁です。介護は専門用語が多くそれを理解してもらうのが大変でした。でもお国柄か、年配者には優しく接してくれていました。施設等で高齢者への虐待は日本人ばかりで外国籍の方が虐待したというニュースは余り聞いた事が無いのが証明していると思います。	無回答
4	お子さんの日々の様子や、家庭の様子など、お互いにきちんと伝わっているかと感じることがある。行政とのやりとりで不安を感じる等の相談がある。	何度でも丁寧に優しい言葉を使って対応。
4	コミュニケーション問題。書類や手続きなどのフォロー。文化及び宗教の違いへの配慮。	支援員のグローバル化。
5	親が精神疾患を持ちネグレクトに近い状況になってしまっているケース。	要保護児童対策地域協議会や保健所、児童相談所への通告の徹底。
5	高齢者虐待（認知症含む）等の事例共有や情報交換。	当市でどれだけの事例や通報があったのか、サービス事業所等も知ることにより、通報しやすい体制へと構築できるとともに、抑止力になります。
6	コロナの影響で地域ボランティアの方々の活動が中止となり、入所者の方々が日々マンネリ化している。	ワクチン 4 回目を積極的に接種する。感染防止策を徹底しつつ、何か参加していただけることを模索する。事業所としていろいろと取り組んでいきたいと思うが、会社の方針もあるのでなかなか難しい。
6	コロナ禍以降、毎年希望があった学生ボランティアの参加が皆無になった。	社会福祉協議会との連携をさらに密にして情報の入手を心がけている。
6	高齢者や障がい者の孤立化が、新型コロナの影響に併せ、より一層進んでいる。	1. 住民への役割分担（元気な高齢者の簡単な役割分担を策定しふじみ野市から依頼）2. 民生委員と連動して活動できるような、ふじみ野市独自の組織化（町会長＋民生委員＋福祉事業者）

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
6	新型コロナの影響でボランティア活動も休止となったりと本来必要な支援が受けられないという事態も起きている。	無回答
6	新型コロナの影響でイベントがほぼ中止になったり、内容が小さくなったりして参加希望が減っている。	感染対策品の給付等で感染対策を実施してイベントを行う団体を支援する。
6	コロナ禍により活動ができていないのではないのでしょうか。当施設でも受入れを中止しています。	無回答
6	地域の方との交流できない。	無回答
6	新型コロナの影響で介護施設にてのボランティア活動の受け入れができない。	無回答
7	新型コロナウイルスの感染者の入院先が見つからないことがあった。	特にありません。
8	元気な高齢者が増加している中で高齢者になっても就労したいという人が増えている。しかし実際は難しく経済的貧困に陥る人が増加している。	就労支援、高齢者が活躍できる場所づくり。
8	生活保護受給者の就労意識と、就労状況、働くことのできない理由。就労移行支援の存在を知っているのか。	課題 A、B、C とともに、福祉や就労移行支援の概要説明や、出張相談の実施。行政、関連機関との連携。
8	自身の体調不良や企業倒産などで失業し、親の年金で生活する子ども達が増えているのではないかと思う。	就労相談の場を増やしていただけると良いのでは。
8	3を実現するために、8を解決しなければと思っています。	無回答
8	若い方で障がいがあり、デイサービスに通われていることも増えてきているように思います。そういった方々が活躍できる場や役割を持って活動できる場所があると良いかと思っています。	就労支援の流れや、具体的にどういった方が就労できているのか知る機会があれば知りたい。
8	経済的に困窮。	無回答
8	人伝に聞く、職種ごとの収入の格差。	基本給与の増加。
9	地域の人達と防災訓練等一緒に行う機会が無くて、いざと言う時に顔見知りが少ないのは不安です。以前は総合防災訓練で町内会の人達と避難訓練を行いました。	福祉避難所への避難訓練等の実施、町内会が実施する訓練への参加。
9	異常気象による災害が各地で発生しているため、特に障がいのある方の対応には課題が多く、事前の備えの必要性を強く感じている。	事業所の利用者について、担当課と協力し実効性のある個別の避難計画等を作成する。
9	無回答	ホーム単独以外で防災訓練などができると良いなと思う。
9	防災訓練にも地域の方々の参加ができず、いざという時の不安が増している。特に夜間の有事など。	無回答
9	災害時の避難困窮者情報共有について。以前、地区で増水した時に床上まで浸水してしまい、寝たきりの奥様を2階までひきずって避難させたとの話を当事者から伺いました。(高齢者世帯)当事者よりどこに電話すれば良かったのか尋ねられた経験があります。	既に行われていると思いますので割愛します。
10	認知症高齢者とひきこもりの子どもというケースが増加し複合的な課題があるケースがある。その場合に関係機関にて対応を行う必要があるが、ど	横との連携をスムーズにできるように月、火より情報交換を行う。オンラインやデータを活用して能率よく問題解決を行う。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
	の機関がどの部分まで対応できるか意見の擦り合わせが充分にできない場合がある。	
10	障がい者に関してのアウトリーチ、居場所づくり。	保健センター等と連携したアウトリーチの機会をつくっていく。
10	支援者の家族にニートの人があり、親は不憫に思ってお金を渡すために経済的に大変。	ニートの方の親はどうして良いか分からないのが現状。具体的な支援。専門職による自宅訪問、面接等。
10	家庭環境、家族構成、当事者の疾患状況。ひきこもり、ニートに対する行政のアプローチ方法。就労移行支援の活用を検討しているのか	課題 A、B、C とともに、福祉や就労移行支援の概要説明や、出張相談の実施。行政、関連機関との連携。
10	子どものひきこもり。	無回答
11	高齢者世帯も増えており、買い物など外出したいにもなかなか足が無く閉じこもり傾向になってしまっているように感じます。出かける手段という部分で何か対策やサービスを考えられると良いなと感じています。	通所サービスをやっていますが、送迎以外の時間で送迎車や運転手の空き時間があったりします。おそらく多くの事業所で同じような状況だと思います。そのような資源を活用できるしくみがあっても良いのかなと感じています。市から一定の補助が出る等。
12	障がい児の計画相談を行っている事業所が少ない。関係機関との横のつながりが乏しい気がする。	無回答
12	介護福祉関係の仕事をしており、役所からの案内を得ているが、高齢者の方に理解ができていないこともあるため難しさを感じる。	困難かとは思いますが、噛み砕いた説明や親族へ理解していただく必要性があると感じる。
12	無回答	傍聴できることになっているのに開催日を知ることができないケースがあり、開催予定日を事前に周知して欲しい。
12	新しい情報を盛り込まなければ、飽きられてしまう。	情報を提供してコストダウンを図っていく。
12	福祉の種類や役割の告知。その方法や頻度。	課題 A、B、C とともに、福祉や就労移行支援の概要説明や、出張相談の実施。行政、関連機関との連携。
12	市民向けの介護教室の中止。	無回答
12	地域の関わりが新型コロナで少なくなった。	無回答
13	親亡き後、緊急時。	自立支援協議会で検討していく。保護者会で困りごとの課題を出していただき把握する。
13	他圏域の地域包括支援センターからの依頼が増えている。	介護、支援に関わらず、受け入れるようにしている。
13	高齢化に伴い、町会・自治会脱退問題。加入率。社協会費、募金活動に関すること。	高齢化が進むなか、自分たちの役割やできることなど一緒に考えていくこと。若い人たちをどう取り込んでいくか。安心して暮らせる、支えあえるまちづくりにもっと力を入れていきたい。SC や CSW の活躍。
1,2,10	不登校の児童が当事業所を利用を希望した際に、受給者証の発行が困難となっている。	不登校児用が支援を受けられるように、受給者証がなくても利用できるか、それに代わる証明書の発行。
1,6	ご利用者様の中には福祉サービスについてあまり知識のない方もいらっしゃいます。相談支援事業所がなにか分からない、存在自体知らない等、そんな中でセルフプランで事業所を利用したり探したりと不安を抱えながら右往左往している方もいる中、当施設としてどこへどのようにアプローチすればより多くの方の手助けができるでしょうか。	気になる事例に挙げた方などは、主に地域小学校の普通級または支援級に通われる方が多いように思います。そのため、地域小学校や教育委員会などと地域福祉サービス事業所等がより密に連携を取れる体制を作れると良いと思います。

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
2,11	障がい(特に精神疾患)の方の引っ越しや入居先が見つからない。難しい。相談窓口が複数あり、受け入れ体制が悪い。どこで相談を受けるのかわかりにくい。	Aと同じ連携。障がい者への理解。相談内容の重さで分けたり、手帳などの有無などで相談を受け付けないなどしないでほしい。
2,8	障がい児を持つ親の就労。病院や療育でお金がかかるのに、子どもとの時間が必要なため共働きは現実的ではない点。	無回答
3,6,10	認知症高齢者の増加による対応困難(受診拒否など)ケースの増加。ヘルパーや民生委員や支え愛ボランティアの高齢化と人材不足。8050問題での子に対する支援。	団塊の世代が地域社会で活躍できる仕掛けづくり。お出かけサポートタクシー送迎範囲の拡充。認知症の方をサポートするチームづくり。
3,6,8	経済的な理由で介護サービスを使えない高齢者がいることが気がかり、年金が少ない。	地域交流や生きがいづくりのイベントのポスターやチラシの掲示に協力してほしい。
3,7	単身高齢者世帯や高齢者夫婦が医療・福祉につながるまでの支援が難しい。そもそも介護保険を利用していなかったり、体調不良により通院が難しくなることもある。	支部社協、見守りチームと連携し、日ごろから地域住民に情報をもらい、早い段階での介入ができるようにする。
3,7	保険負担費用の増加、コロナ禍における医療機関への過度な負担。	各事業でも努力をしていると感じている。
3,8	認知症の親の介護、受診対応で仕事を休んでいる。精神的ストレスもあり、職場で働きにくくなり、退職せざるを得なくなる。親の年金をあてにしている。	無回答
7,8	コロナ禍により病院が混んでおり、当事業所を利用するのに必要な受給者証の発行に半年以上かかってしまい、早急なケアが行えず、事業所の経営も不安定になっている。	報酬単価のアップ及び、事業の継続に向けた補助金等があれば助かります。
8,10	自宅2階にひきこもりの息子がいる(40代くらい)。将来のことを考え、サービス利用を控え、あまりお金を使わないようにしている。	無回答
無回答	低学年の生徒については教室に入れなかったり、たびたび体調が良くないために学校を休んだり、まったく登校をしていない生徒が数人いる。一時的に学校に通ったりすることもあるが、長続きしていない。高校生になると、1度入学した学校を辞めてしまい、何とか通信制の学校へ通っているものの、新型コロナで休んだりすると、またバランスを崩し、週3日程度の通学も休みがちになってしまう。夕方になると来所し、他の子ども達と遊んだり、話し合ったり勉強もしているが、昼の間は一人で家で過ごしている。	まったく学校に通えていない生徒や、教室に入れなかったり休みがちな生徒などがいるが、現在はみな通所して来ているので、現在行っている楽しいイベントや、1対1での学習指導などあたたかい居場所づくりを1日1日積み重ねて行く事が大切だと思っています。

■団体区分：保育・教育機関

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
1	不登校の子ども達の相談(卒園児、職員の子ども他)はとて増えていると感じます。なぜ子ども達が楽しく学校へ行けなくなってきたのか、どちらかと言うと親御さんの悩みを伺う立場ですが考え方を変えていくのも大きな作業です。そして子ども	子ども達の居場所づくり。保育園には小さな子ども達が居て、ゆっくりした時間が流れ保育士も沢山います。社会活動的に学校に行かなくても保育園での活動参加ができるシステムがあるといいですね。一人で家に居るのでなく、見守りとして職員が声を掛けられるので。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
	が犯罪者になるニュース、もしかしたらうちの子も とよぎるようです。	
1	友達づくりが上手い出来ない保護者が多くなって きた。	保護者参加の行事を戻していく。
1	保育者が以前よりも子育てに対してきちんと子ど もに手を掛けていなかったり、逆に細かい事でも 園にいろいろと言ってくる人が増えた。	無回答
1	0～3歳の親子の多くが新型コロナのため、あまり 外出ができなかった等、人との関わりを持つ機会 が制限されている。	HP など利用して相談受付フォームを開設した。 各種 SNS を利用し、イベント等の周知に努め、少 しでも多くの親子に交流の場があることを知って もらう。
1	近くに安心して遊べる公園等もっと多いと良い。 居場所も必要(行きたくなるような自由な空間)。 校庭は少年野球が使っていることが多い。	子ども達が自由にのびのび遊べる(プレイパーク) ような場所をつくる。スタッフも常駐。
1	保護者自身が子育てについて知る場がない。	子育てについて自由に悩みを相談したり、話せる 場を作る。こちらから積極的に保護者に関わって いく。
1	「この子ちゃんと育っていますか」と分からない中 で子育てしている母親の一言。	母親学級等において、子どもの成長に関する講 座。ネットで調べて子育てをする母親が多くいると 感じます。例えば保育所からも事例をあげ、安心 して子育てをできる資料づくり。
1	当児童クラブは定員の約1.5倍の子どもを受け入 れており、とても手狭である。安心して働けるとい うことでは、受け入れは仕方ないが、もっとゆった りと子どもを保育できる環境がほしい。	現場のみでは改善は難しいと思います。
1	就学前教育・保育に関する捉え方の保護者との 温度差。	教育とは何を教え、育んでいくことなのかという問 いに対し、学校等と連携をし、子どもの生きる力の 形成が社会にとって重要なスキルであることを知 っていただく場と教育の在り方を検討できる場が あるとよい。
1	発達が気になる子どもの増加。	小学校との連携において、支援員が小学校でもき ちんとつけられる体制づくり。
1	児童の学力の差。	学習支援の場を増やす。各児童クラブの施設を利用 するのも良いと思う。(クラブが小学校毎にあり、 通いやすくなるため)
1	産後間もなく外出がままならない方向けにオンラ インにてイベントを計画実行しているが、参加者が 集まらない状況。	産院などでも連携して支援したい。
1	子育て不安を抱えるご家庭の入園。	行政との連携を引き継ぎ行う。
1	散歩の縮小や地域交流事業の休止により地域の子 育て状況の把握が難しい。	感染状況にあわせた事業の再開・周知。
1	園行事の縮小もあり、保護者同士のつながりの希 薄化にならないか不安。	園行事やサークル活動等を小集団にしたり、短時 間活動にしたりして、できるところから取り組む。
1	コロナ感染で、家族でずっと家にいる場合など、 子どもの世話がストレスになっている保護者もい るのではないかと心配。	積極的に声掛けを行い、お困りのことがあれば相 談に乗ったり、必要な機関を紹介したりする。
1	医師の診察を受ける上での病状や状況を医師に きちんと伝えられない保護者が多い。	受診する上で、医師に伝えることをアドバイスしたり、 伝わり難い人には要点をまとめたメモを渡し、 医師に見てもらおうよう伝えているが保健センター での健診時にも受診する上でのアドバイスや療養 期間、どれ位養生すれば良いかなど伝えてもらえ ると良い。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
2	障がい児の相談が増えている。	障がい児の保育に対する人件費の補助金があるとありがたい。
2	障がい者ということではないですが、当園でも昨年度より少々通常のお子さんと違うと思われる園児が増えており、市の方で巡回していただけてますがこれも保護者が納得いかなければ先には進められないので大変厳しいなあと感じています。	無回答
2	市外に住んでいる発達障がい児が疑われる園児の相談がスムーズではないので、市の枠を超えて支援ができるようになれば良いと思う。	近隣の市と提携をして、療育の事業所等の選択の幅が将来広がれば良いと思っています。
2	気になる子が増えてきている。	無回答
2	発達障がいを抱えている子どもの保護者が幼稚園での生活を望むがすべての子どもを受け入れられないこと。また受け入れた子どもに対し何が最善か葛藤がある。	他園でも障がいのあるお子さんを受け入れていただきたい。うちで受け入れたお子さんに関しては日々模索しつつ、最善をつくしたい。
2	園児の親と対話ができない。自己主張のみ。	無回答
2	乳幼児から保育をしていると保育園にはノウハウが多々あります。保護者の方に問いかけて専門機関につなげていくデリケートな作業に今年度は児童発達・発達支援センターの公的な立場の方が入っていただき、期待通りのスムーズな対応に安心しています。	うつ病に関して共有していただける専門機関と連携したいです。特に職員。個人情報が入りづらい要因で産業医もいないので。
2	認められるまで保育の現場が大変。	難しい。
2	発達障がいに関する相談の増加。	親の関わり方が気になる事例も多くあると感じます。発達の心配なのか、家庭内の関わり方による心配なのか。健診時に専門の方がいると、もう少し早期発見につながるのかなど。
2	全ての子どもを包括できる体制づくりが望まれますが、現状では人員問題、発達障がいに関する理解の深まり等もあり、すべての子どもが生きやすい社会(地域)となっているとは言い難いです。	人＝力であることを念頭に、自治体としてどこまで真摯に向き合い人員、財源確保に努めるかにつきまします。現場との連携を密にしていきたいです。
2	障がいのある児童・ご家庭への対応。	市の児童発達・発達支援センターの方とクラブ職員とが交流する場があればよいと思う。
2	子育て中の相談事項として、発達が気になると声を挙げる参加者が見られる。	例えば、児童発達・発達支援センターなどから専門の先生をお呼びして「発達についてちょっと気になるが誰に相談していいかわからない」方が気軽に参加し見通しが立てられるイベントなどを計画したい。
2	発達巡回を通して、知見を保護者に伝え、今後の支援方針の検討ができる。発達巡回日に対象児が欠席してしまうと、診てもらえない。	発達巡回の頻度を増やしてもらえないか。
2	発達の気になる子どもが増加している。	児童発達・発達支援センターにも協力をいただき、保護者や教員が子育てや教育活動に前向きにかかわれるよう支援活動を行う。
3	園周辺を徘徊している方。	記録を残す。行政、自治会等に報告する。
4	ここ数年さまざまな外国籍の子どもが入園してくるが、両親ともに外国人の場合は、日本語の理解や習得が困難で就学に支障をきたすことがある。	就学前の子ども向けの日本語教室の検討をお願いしたい。
4	園児の保護者が外国籍の方で会話が難しい方とのコミュニケーションの取り方。	翻訳機を使う。外国籍向けのおたより等の作成。
4	技能実習生が搾取されている問題。さらにコロナ禍で困窮している。	国が制度を変えるべき。

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
6	どういった活動があるのか興味がある。	無回答
7	無回答	児童発育・発達支援センターとこれからも連携して取り組みができることに期待しています。
8	新型コロナ感染等で仕事を休んだりすると、保護者が経済的な不安を抱えていないか心配。	積極的に声掛けを行い、お困りのことがあれば相談に乗ったり、必要な機関を紹介したりする。
8	人材確保と人件費の比率が収入に対して高くなっている。人件費及び経費の高騰。	少子化に伴い利用者の減少が続いていて施設利用費の増額が必要です。
9	車通りが多いので事故が起きる前に取り組める事がないか考えている。	無回答
9	不審者対応。事例：学校がお休みの日にお友達と公園で待ち合わせをしていて、お友達が来なかったため、移動して別の場所に行った時に不審者に声をかけられた。その後、家に戻り、家族が警察に通報した。	子ども達を危険から守るために地域の方と一緒に不審者に対する訓練などでできれば良いと思う。
11	近隣から運動会等の練習で流す音楽の音がうるさいとクレームがくる。	幼稚園や保育園等で子どもの声や遊戯の音楽が聞こえてくるのは自然と、皆が思ってくれるような市になって欲しいと思います。子育てしやすい市として、このことも市民に啓発していただきたくお願いしたい。
11	幼稚園で出すマイクやスピーカーの音がうるさいと近隣からクレームがあり、いつも神経を使っている。	騒音は昼間一時的なものなので、地域全体で子育てをするという観点から近隣の住民たちには寛容な気持ちを持つよう、何かの機会に働きかけていきたいと思っています。
11	園近くのごみ収集場所のルールが守られていなかったり、公園のごみの放置。	記録を残す。行政、自治会等に報告する。
1,5	時々、不登校の子どもが情報が入ってくる。	無回答

■団体区分：医療機関

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
7	新型コロナに感染しないかどうか不安の相談が増えている。	無回答
7	やはり新型コロナ流行による外出自粛の影響は、運動不足、肥満、下肢筋力低下、意欲低下、ストレスの増大につながり、疾病の増悪を起こしています。	無回答
7	現政策による保険医療の今後。	無回答
8	賃金アップは望ましいが、医療費や診療報酬の削減による収入確保の困難と、それによる求職者の減少。	無回答
11	おひとり暮らしの住環境悪化。	無回答
13	生活保護費より少ない年金額(国民年金)。	医療費無料等の優遇措置の是正。

■団体区分：市で働く専門職

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
1	若年妊婦、親の精神的問題、経済面での困窮等、問題が複雑困難化している。	多職種と連携して丁寧な個別支援の実施。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
1	不登校の児童生徒についての相談が増加している。出産費用が支払えない等、妊娠家庭からの経済的相談・支援の必要が増えている。	学校や医療機関等と情報交換したり連携を計っていく。
1	ヤングケアラー。対応できる社会資格がない。	無回答
1	不登校や発達障がい、精神的ケアが必要な相談が増えている。両親の不仲や離婚問題が子どもに与える精神的負担が大きい。	支援関係機関との連携関係を重視して関わることで、ケースの情報収集や役割分担などがスムーズにいき支援や問題解決につながる。
1	不登校の子どもについての相談が増加。	学校、家庭以外の子どもの居場所づくり。
1	不登校の子ども、教室に入ることができない子どもが増加しているが、教育相談室は予約が一杯で、そういった子どもの日中の居場所がない。	無回答
1	新型コロナの影響か、言葉の発達がゆっくりな子どもが増えている。	乳幼児健診等でフォローをする。子どもへの関わり方について、保護者向けに周知を行う(講演など)。
1	①不登校児の増加 ②若年での妊娠出産 ③保護者のどちらかに精神疾患疑いがあるが、本人に病識がなく通院や支援につなげられないケース。	①学校で不登校児に対応できる人員が不足するため専任の職員を複数配置する、オンライン授業を出席扱いにする際のガイドライン作成。②全校を対象とした専門家による性教育。家庭や教師による性教育には限界があると感じる。自分と大切な人の体と心を守るための教育をすることで、不本意な性行為や妊娠を減らすことができるのではないと思う。「万引きはいけない」と教えていてもしてしまう人は一定数発生するのと同じで、完全にゼロにすることは難しいかもしれないが、無知からくる妊娠や性被害を減らすことは可能だと思う。
1	新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントや講座の中止や縮小、公共施設の利用制限等により、保護者および子ども同士の交流機会が減っていること。育児に関する情報交換や相談機会の減少により、悩みを一人で抱えこみ、孤立してしまう親子が増えていること。	感染対策を徹底した上での交流機会やイベントの再開。時間を短縮したり、定員を減らしたりするなど、実施方法を見直していくことも必要と考える。オンラインでの講座や交流会の利用可能性も検討する必要がある。
1	問題が複雑に絡み合っている相談の増加(精神疾患のある親が発達障がいの子どもの面倒をみている。ひとり親世帯。経済困窮ありなど)。	他機関が連携して支援できる体制づくり。
1	里親制度の充実。	無回答
1	ステップファミリーで継父による虐待事案が増加。	関係機関と情報共有したうえでの見守り体制づくり。気になる状況があれば、すみやかに介入できるようにする。
2	サービスの利用にあたり、計画相談の事業所が少ないこと。	サービスを適切に利用するための助言や指示を適宜行うこと。
2	地域で暮らす障がい児・者への働きかけがほとんどない(孤立している)。	無回答
2	①発達検査を受けたくても近隣の検査可能な場所は数か月待ちであること。	無回答
3	認知症の方が本当に増えていると実感せざるを得ないほど、日々の相談が入ってきています。窓口に直接いらっしゃる方については一つ一つ丁寧な対応が求められますので時間も要します。	高齢福祉の問題だけでなく全体的に認知症の方の理解と適切な対応方法を身につけて行く必要があると感じています。
3	独居、認知症の方が増加している。	高齢者の方が気軽にいき、おしゃべりができる居場所があると良い。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
3	介護サービスを利用していない高齢者が孤立していること。無年金の高齢の両親の医療費、介護料を負担している子ども。	高齢者あんしん相談センターでの積極的な関わり。生活福祉課と連携をし、両親世帯、子世帯の支援をできるようにする。
3	在宅における訪問看護の存在があまり知られていない。	ケアマネジャーさんから依頼を受けた際、契約の前に事前訪問し、訪問看護サービスについての説明をお伝えするようにしている。
3	家族からの相談が多く、その家族も困窮している場合もあるため、他機関との連携が必要であるが、連携の難しさを感じる。	困難なケースについては、高齢福祉課をはじめ、関係機関と定期的にケースカンファレンスを行う。
3	新型コロナウイルスの感染拡大による家族や友人、地域との交流機会の減少により、フレイルのリスク上昇が考えられること。	感染対策を徹底した上での交流機会や通いの場の再開。高齢者あんしん相談センターの事業を軸とした、地域での見守りの強化。
3	地域の活動に参加してほしい人へのアプローチの方法が分からない。高齢者の社会参加を促す方法は？	無回答
4	外国籍の子育て家庭の増化により、ビザの期限切れ等による無戸籍、経済面での問題等多方面での支援が必要な人が増えている。	対象者とのコミュニケーションを円滑に図り、適切な支援が行えるように多言語通訳機器を導入した。
4	住民票のおけない外国人の妊娠相談が市に入る。在留資格が学生で妊娠し、特定活動に切り替わるもお金がなくて困ることがある。	入院助産条例の検討。福祉総合支援チームにて就労支援、子は保育所入所のための支援。
4	コロナの影響を受け、収入が減り、生活が成り立たなくなっている。貸付などの使える制度は全て利用済。	ふじみの国際交流センターとの連携。母国への帰国も検討する。
6	新規加入者が少なく、高齢者が増え、若手の参加が少ない。	無回答
6	ボランティア団体の元気は「活気がある市」のバロメーター。市民に感染防止対策ばかりを求めている市全体が萎縮してしまう。	明るく元気なふじみ野市が見えるイベントや居場所を企画する。気楽に参加できる居場所づくり。
6	新型コロナウイルスの感染拡大による活動機会の減少や、活動内容の変更により会員離れが進んでいること。感染拡大状況に左右され、活動再開の見通しを立てにくいこと。会員の高齢化により、感染対策を優先し、新たな活動を控える傾向にあること。	従来の方法にとらわれず、ウィズ・コロナの現状に合わせた活動方法への変更および、活動方針の再構築が必要。活動時の感染対策について、具体的に実行可能なアドバイスをしていく必要がある。
10	高齢者の親からのひきこもりの相談が多くなっている。ひきこもり対象者と直接会うことが難しく、支援が難しい。	ひきこもりに関する支援機関や取り組み(家族の集い、就労準備支援センター)を周知していく。居場所づくりを社会資源を活用して創造していく。
10	サロン等が中止のために高齢者の方が気軽に集う場所がない。	まちの保健室、話を聞いてくれる場所。
10	ひきこもりの方についての相談が増えている。	関係機関で連携しチームで支援する。市で実施するひきこもり家族の集いを継続する。
10	必要な医療を受けていないため、障がいサービスにつながらない。年金収入のある高齢の両親に頼り、生活をしているひきこもりニート。	潜在しているひきこもりを両親が健在のうちに行政や地域で把握し、つながりを持つこと。
10	地域で支える体制の1つとして、地域生活支援拠点等の整備や重層的支援体制構築に向け、体制を整えていくが、実際に利用や支援の対象となるであろう「ニートやひきこもり」の人が動き出せるのか、動いてくれるのか、情報が届くのか、不明である。	社会参加が難しい状況の方々を対象となることから、段階を踏んだアプローチが必要になると考える。また、家族との関係性についても個々の状況を考慮していく必要がある。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
12	誰でも理解しやすい情報を提供。障がいがある方が理解できるような情報提供を考える。	無回答
13	親亡き後の支援を準備する中、権利擁護の観点から成年後見制度について情報提供とその必要性を説明するものの、金銭的に余裕のある世帯からは積極的な準備につながらない。どちらかというところ消極的である。	引続き、権利擁護に関する講座を開催するほか、地域生活支援拠点等の利用者登録等が行われる際には、アセスメントに基づいて、情報提供と制度の概要説明等を行いたいと考えている。
1,2	障がいのある親の元に生まれる子どもに対する理解啓発。	無回答
1,2,11	発達障がい者への支援の充実。障がい者が安心して暮らせるような住環境の整備(グループホームなど)。精神障がい者が安心して暮らせるような相談支援の充実。	無回答
1,4,5	発達特性のある児童の保護者について、児童だけの問題ではなく、保護者が抱える背景も児童に大きく影響してくるため、世帯支援が必要であると感じている。	無回答
2,12	発達特性のある児童の保護者へのサポート資源や利用できる福祉制度等の情報がうまく発信されていないように感じる。	無回答
2,7	当事者の高齢化に伴う関わり方。入院中の障がい者への支援。	無回答
2,8	発達特性のある児童に対し、保護者が療育等を受けさせたいと考えていても、保護者の就労状況によっては利用できる事業所やサービスが限られてくる。	無回答
2,9	災害時の連絡体制や避難所における対応。	無回答
3,5,10	虐待事例や、その背景となる認知性高齢者、その子どものひきこもりなどが気になる。	虐待事例の早期発見に務め、関わりをもっていく。
8,10	8050 等の問題が多く、中でも未就労の子による親の年金搾取や虐待など、いくつも課題が絡んでいるようなケースが増えています。	課を跨いだ連携が一番求められているように思います。
無回答	無回答	認知症サポーターの方を増やして地域で活動していただく。

■団体区分：地域福祉活動関係者

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
1	「防波堤」や「港」がない子ども達は非行や自殺に走る。「逃げ道」がない子ども達が増えている。	市内の学校行事への参加。
3	認知症の症状が進んで一人暮らしが不可能になる人が増えている。	徘徊等にはいつ何時に行方不明になるか見当がつかないのでマイクロチップ挿入等の徘徊防止鍵を使う。最後は近所の顔なじみの人が多くいたら良いと思います。
3	空き家に荒れた庭が増えている。	市と連絡を取り合いながらその把握に努める。
3	一人暮らしの高齢者に介護度が進んでいるように思われる。	無回答
3	民生委員及び社協支部の見守り役が高齢化しており、なり手不足にもなっている。	民生委員が担う活動が増大していてそれに対応した活動費の支給が必要である。それが難しいのであれば委員定数の見直し等で民生委員活動の負担軽減が必要である。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
3	当該地域における人口の高齢化が進み、活動が制限される。	情報の共有化を促進し、民生委員、社協等を含め関係機関との連携を強化促進する。
3	無回答	社協の見守りチームの拡大。民生委員の中には見守りチーム自体を知らない人が多く、市内全域でも、70件ほどと聞いています。一人暮らしの高齢者は、不安をもっていますので、一人になったきっかけで、近所に見守ってもらうことを希望する人が多い。やはり、隣近所の目が一番ですし、お互いさまの精神で、やさしい地域づくりに一役かうと思います。ただし、ある地区の民生委員に限って言えば、社協との協力を拒否している民生委員が、4～5人いるので、市役所で、見守り隊のようなシステムをつくってほしいと希望します。
3	高齢者の増加にともなう見守り者の不足。	無回答
3	1年単位(数か月もあり)における高齢化による急速な身体的・事務能力の衰えによる活動への影響が顕著になっている。身体的には足腰の衰えにより事業や会議場所まで行くことが困難になっている。事務能力的には年とともに事務作業を行うことが遅くなったり、面倒になり対応できなくなっている。そのために役員等をできなくなったり、退会する人が出てきている。	無回答
4	団地内住民において、増加傾向があるものの、情報がつかめない。自治会への参加もほとんどない。まれに問題(騒音など)をおこす。	はっきり言って、言葉の問題もあり対応に苦慮している。
6	行事、地域活動を回覧等にて周知をしていますが参加者が予想以上に少ないことが懸念されます。子どもから高齢者まで参加できるスポーツ交流会等に不安を感じます。	小学校等の協力をいただき、町内会より通学している子どもさんへチラシ等を配布していただいている。老人会への参加協力要請の実施等。
6	運営にかかわる人材が高齢化している。若い人が少ない。	無回答
6	高齢化とともに就労年齢があがり、地域活動に参加できる人が減少している。	無回答
6	活動をするにあたり、役員が高齢化し、役員になるのを嫌がり、町会を脱退するケースがある。	高齢化は、解決できないので難しい。
7	隣近所等の接点がなくなり、情報が入りにくくなっている。	無回答
8	仮釈放されても働く場がなかったり、生活していくための資金も無いために生活保護を紹介。	協力雇用主やハローワークの活動。
9	人を騙す事が日常的にあると、お互いの信頼感が薄れてくる。他人を信用しないで生活すると、身勝手な行動言動が多くなってしまう。	身近な人々との交流を更に大切にし、一つ一つの物事を大切なものと再確認する必要がある。自分も相手も大事にしていく事だと思う。
9	災害の時、障がい者の避難所。歩行空間の整備(段差など)。	無回答
9	地区の一部には、台風・集中豪雨による冠水・浸水のおそれがある。	無回答
9	さまざまな情報伝達が不足している。	無回答
9	当市、幸いに大きな災害がないので、防災に対する意識が低い。なぜか、総合防災訓練実施の説明を行っても他人ごとのように感じられる。	無回答
9	高齢化に伴う、各種詐欺等の犯罪増加が懸念される。	定期的会合(会議)で注意を促す。チラシやポスター掲示(のぼり設置、見直し)。

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
10	家庭、身内の協力が必要。	無回答
11	高齢者や一人暮らしが増えている。	無回答
11	空き家があり、火災や治安の悪化が懸念される。	無回答
11	アパートの住人が引っ越しの度、リサイクル家電等置きっぱなしでいくなど、ゴミ置き場に関する苦情が発生している。管理会社に連絡してもいっこうに処置がされない。	無回答
12	高齢者が必要とする福祉・医療・行政などのサービスを知らない(知ろうとしない、または相談しない)事が多い。	回覧だけでなく、民生委員、福祉・地域役員による手渡しによる情報提供。
13	町会、自治会への加入率の減少。	防災や防犯活動のネットワークの充実、難しいと思いますが市の事業への協力の軽減化、各単位組織の役員構成のスリム化。
1,2	子どもに対して適切な対応ができているかを常に考えています。	なるべく前もって準備をする。
1,2	支援が必要な子(軽度)のペースに合わせられないこともある。	無回答
1,2	人数が少なすぎて子ども同士の関係を築きづらい。	無回答
1,3	老々介護や親の介護疲れなどで、怒鳴り声が頻繁に聞かれると、ご近所の声が増えてきた(シングルマザーによる疲れ)。	子育て支援センターや高齢者あんしん相談センターとの連携(民生・児童委員との今まで以上の連携による)。
11,13	隣家のベランダにゴミが放置しており、不衛生である。11による解決のための交渉ができない。	13.行政の関与をお願いしたい。
6,10	数十年先まで積極的に役員等をしてくれる方々がいた頃は多少無理をしても事業がやっていたが、最近のように役員を受けてくれる人が少なくなれば、最低の事業をやらざるを得ません。特にコロナ禍でひきこもりがちの多くなっている高齢者の家庭を訪問して激励してあげたいが、思うようにいかない。	無回答
7,10	コロナ禍で外出や各種制限で体力が衰える高齢者が増えている。	無回答
9,11	空き家・高齢者世帯の増加で雑草が多く環境の悪化。	無回答
無回答	評議委員会の開催が不透明。	不明
無回答	提示されている項目に対する対応が不明。	不明

■団体区分：NPO・ボランティア団体

項目番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、解決に向けたご提案
1	不登校や学校になじめない子どもの把握ができない。	教育委員会との連携。
1	子どもの居場所、遊び場が少ない。公園も遊びを制限されている。不登校児の居場所、中高校生の居場所が少ない。	放課後児童クラブの開室時間外を不登校児等に居場所提供。屋外においては、移動式プレーパーク開催。
1	不登校やヤングケアラーの子どもが増加している。	不登校やヤングケアラーの子どもが相談できるための居場所活動、アウトリーチの強化。
1	一番難しい時期は過ぎたが、熱中症の心配がある中でのマスク着用の声掛け。厚労省も「2m以上距離をあける」「会話をしない」などの状況での	暑さが落ち着いて来たので、熱中症の心配は少なくなってきたが、コロナ禍が続く限り、外遊びに行

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
	マスク着用を避けるアナウンスがあったが、児童の遊びの中では2m以内に近づき、会話もあり、でも暑いのでマスクを外す子が多く、マスクを外すなら一度遊びの輪から離れ落ち着いたらマスクを付けて戻るよう声掛けをしていた。	ける条件(暑さ、湿度、熱中症指数等)や時間帯等を考慮し無理なく過ごせるよう配慮する。
2	夕方の作業終了後に過ごす場所がない。	「夕方支援」の実施。
2	就労の場も必要だが、居場所づくりも大切。	誰もが心地よく、ゆったりとできる居場所づくり。
2	放課後児童クラブは、児童にとって安心して過ごせる場所でなければならない。障がいのある児童も他の児童との人間関係を円滑にするなどして、安心して過ごせるようにしなければならない。そのために支援員は障がいについての理解、必要な配慮について知識を持つ必要がある。	クラブ間での情報共有、事例研究。県主催の研修などの受講。
2	同居する親の高齢化に伴い、親亡き後の生活全般への不安を抱える方が増えてきている。	実際に親亡き後、自立した生活をしている方からの情報発信の場をつくる。
2	障がい者の働く場所が少ない。障がい者の保護者が亡くなった後の生活について。	障がい者の就労場所設立。グループホーム設立。
3	認知症や高齢になりできないことが増え、自宅での生活をどうやって継続していくことができるのか。	地域の福祉活動、近所のかた等との連携をとれるようにしていけたらと思います。
4	日本語習得のために企業と行政と NPO の協働が難しい。	日本語の必要性を共有し、解決に向けて協力したい。
5	障がいのために家族や子どもからも離されてしまった。	傾聴に徹して、話しやすい環境を心がける。
5	支援員は児童からの SOS、暴力やネグレクトの兆候を見逃すことなく、対処しなければならない。	クラブ間での情報共有、事例研究。県主催の研修などの受講。
6	提供会員になる人が少ない。	報酬額が 30 分で 350 円、60 分で 700 円。自動車を使うので額が低すぎる。引き上げていただきたい。
6	ボランティア活動も交流しながら情報交換が必要です。	交流場をつくりたい。地域の民生委員と交流したい。
6	親と子の意識のずれ、理解不足などから生じるトラブル。障がい者、特に発達アンバランス・シンドロームやアスペルガーなどについて学習する必要があると感じています。	障がい者の運動不足や過食による肥満を防ぐための関わり。
7	耳が聞こえない人のために健康方法や食事方法の講演を開催してくれれば、高齢者には安心して気楽に暮らしを求めたい長生きできるようにしていく。	保健センターで相談ができるようにして欲しい。
7	時間的拘束も長く負担の大きな医療に関する通訳はボランティアではできない。外国人当事者への通訳費負担が難しい。	通訳を必要とする病院側と当事者や行政の通訳料の分担。
9	近所の人にチャイム放送を手助けしてもらいたい。	防災訓練に参加しています。
10	ひきこもり期間が長い人をどのように就労意欲を高めるのが難しい。今一人の就労希望者の体験を受け入れているが、本人の気持ちがなかなか理解できない。	無回答
10	市内にどれくらいのニート・ひきこもりが存在しているかをどのように把握しているかが気になる。	地域からのニート・ひきこもりの情報提供を集約できるようなシステムづくり。

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
11	以前から、騒音のクレームを年に数回受ける。大きな音が外に漏れないよう配慮しているがそのご家庭からのみクレームがくる。	行政にも協力してもらい、ご家庭側に音を軽減させるための対応してきた。
12	福祉事業所同士の情報共有事項が少なく、事業所によって情報提供の差がある。	情報を取り締まる機関が福祉事業所に対し平等に情報提供を行っていただけるような組織を構築してほしい。
無回答	無回答	交流の場所の確保。

■団体区分：無回答

項目 番号	気になる事例・問題	これからの取り組みや活動等、 解決に向けたご提案
1	子ども会や行事が中止になり、地域での交流が無くなっている。	事業所の前にある畑を高齢者機能訓練で利用していますが、地域の子どもの農作業活動等を考えて行きたい。
1	最近 TV でもよく取り上げられているヤングケアラー。介護サービスの介入により、介護負担は減少するが、勉強が遅れたり、学校行事に参加できなかったり、また、打ち明けることができず、ひとりで病んでしまうとのこと。ケアラー自身への支援はできているのか。	無回答
1	親族が近くにおらず頼れる人がいない等、子育てに不安を感じる声が多い。	ファミリー・サポート・センター利用により子育ての不安が軽減できたり子育てしやすい環境として、児童センターや子育て支援センターを紹介している。
2	子どもの発達に不安を抱え、誰かの手助けが欲しいとの声も増えてきている。	会員向けの発達支援の知識を広げるための研修の場があれば、活動の可能性が広がるのではと感じる。
3	認知症の介護者に対しての支援をもっと充実して欲しい。	認知症の方の活躍できる場の提供があると良い。
3	新型コロナウィルス感染判明時の情報共有と運営対応。濃厚接触者、陽性者の入所先が見つけにくい事に困っています。	無回答
3	訪問看護や週数回のヘルパーを頼んでいる一人暮らし高齢者の方が静かに生活できていない事例がある。配偶者が認知症で入所、ヘルパーの来ない日に動き回り、ケガや転倒し、近所の方が手助けしている。家族にも伝えてあります。別の方の場合は、最近配偶者が亡くなり一人となる。訪問看護を受けているが、妄想癖がある。	いずれも地域包括支援センターやケアマネジャーがついていることなので、それぞれの人がどうしたら安定して生活ができるか、家族と話し合っ（既に行われていると思うが）いただきたい（要望はお伝えしてあるが…）と思います。（近所の人が助けに出なくて良いよう。）
3	ケアマネさんを紹介して欲しい、老々介護でどのようにして行けば良いか等の地域の高齢者の方からの相談を受けます。	デイサービスサロンにおいて地域の方々との交流ができると考えています。なるべく屋外で芋煮会、焼き芋、焼きそば等。
8	ファミリー・サポート・センターに活動依頼をしたいが、経済的な負担から利用をためらう声もある。	各家庭の要望に合った、保育園の一時預かりなどの他の子育て支援の情報を提供・紹介したりしている。
9	1.防災…災害時地区内の障がい者の救出について。2.交通安全…地区内の川沿いの道路は幅員が狭いわりに車の通行量が多い。住宅地の側なので、子どももいることから交通安全注意策をお願いしたい。	無回答
無回答	認知症の方の残された力を活用しての社会貢献。	無回答

問8 就労支援や交流の場、居場所の創出は、社会的な孤立のリスクを抱える高齢者、障がい者、生活困窮者、ひきこもりの人等が地域や社会とのつながりを持ち続けるための支援として重視されています。このような就労支援や交流の場、居場所の創出に向けて、感じている課題や貴団体・事業所等にできることはありますか。(自由記述)

(1)感じている課題

(2)団体・事業所等にできること

■団体区分：福祉事業所

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
福祉サービスを利用していない方、相談できる場がない人。	体験の場、日中活動の場として可能。
介護者の中には就労できず介護されている方、介護により就労したいがクビになった方などがいらっしやいます。介護されている方は孤独感を感じてストレスを溜め込んでいる方も多い。孤独やストレスをどう改善していくのが課題になってくると感じます。	孤独を感じている介護されている方をピックアップして市町村に情報提供して早期に対応することにより社会的な孤立のリスクを減らす事はできると思います。介護者同志のネットワークづくりはストレス軽減のための話の傾聴や場の参加への結集はできると思います。
交流の場等の情報が入らない方もいる。	外出やイベントを開き、活動を良く知ってもらう。
交流の場、居場所の創出も大切ですが、そもそもその場を必要とせずにひきこもっている場合は「場」を作るより先にやらなければならないことがあるのではないかと思います。	利用者やその家族が用具があることで外出の一步となるように、生活動作が安心して行える事が生活の助けとなるように支援する。
そうした支援をするためにはどうしても「その人」「家族」に関わる「中心的な支援者」が必要になり、実際に支援していくとその人に負担が集中してしまう。ケアマネジャーや相談支援員等。	市内で事業所ネットワークを立ち上げて課題を集約して市の担当課との話し合いの場を持つてはどうか。
当所を利用したいと思い連絡くださった方が数名いらっしやったが受給者証取得のために病院へ行かなくてはならず、病院へ行けないから困っているのにと話をされていた。「ありがとう」と言ってもらえる機会が少ない。心から楽しいと思う機会が少ない。	今は丁寧にお話を聞くことしかできないのか。役所や相談支援につなげることしかできていない。心からの「ありがとう」が職員の口癖になれば良いと思っている。メンバーが「ありがとう」を上手に使えるようになることも大切と考えている。
ご利用者様と家族との関わりが少ない方が多い。	交流の場の提供を行い、ゲームやコミュニケーション等で孤立しないようにしている。
居場所の設置をする場合に誰が率先して引っ張っていくのか、市民主体で動くことができるのが課題。	無回答
支援者の研修確保と地域の理解。	家族児童相談という内容は思った以上に支援内容が広範囲に及び、勤務日数もかぎられているために母子交流の場の設定があると良いと感じるが実現に向けては厳しい。
ボランティア団体や大学のボランティアサークルとのつながり。	食事づくりやレクリエーション等を一緒にやる。
当法人では就労支援や彩の国安心セーフティネット事業に参加させていただいています。地域の相談窓口として高齢者あんしん相談センターもあります。しかしコロナ禍で外に出て行くことが制限されています。全体的な問題になると思いますが周囲との関わりがなくて孤独死する高齢者を何人も見て来ましたが、こういう時だからこそもっと人と人の関わりを大切にしていければと思います。	「みんな違って当たり前」という思いで外で誰でもできる子ども、高齢者、車イスの方等の催物。
本人がつながりを持つことに拒否的な場合が多く難しさを感じる。	本人の気持ちに寄り添って継続的に関わり続けること。

(1) 感じている課題	(2) 団体・事業所等にてできること
社会とつながりが特に結び付きにくい障がい者として感じるのは発達障がい、精神科長期入院者、医療ケア、累犯障がい者、強度行動障がい、キーパーソンがいなくてもしくは脆弱。	今現在事業所で行っている内容であるが、ひきこもり等でなかなか社会と結び付きにくい方の支援。今後新しい事業所の開設に向けて準備中。共生型の事業所もできていけば高齢の障がい者へ向けた支援も展開できるかと考えています。
事業所に連絡をいただいた方には対応できますが、そうでない方への支援ができない。先日の第1回連絡会で児童発育・発達支援センターでも市内全ては把握できていないとのことでした。	併設の子育て支援センターの発達に心配のあるお子さんの保護者の通うグループ活動(幼児グループ)を紹介してつなげていく。
ひきこもりがちな児童がいますが、やはり原因は家庭にある場合が多いように思われます。子どもだけではなく、ご両親や家族の協力、また、家族への啓蒙が必要だと思いますが、実際にはなかなか触れることが難しい。	発達障がいの子どもを持つ親同士の懇親会や保護者向けの研修会などを開くこと。
障がい者の事業所内のみの情報以外が分からないので、実際に10年、15年先に見える課題を地域で共有するためのデータ。	無回答
就労継続支援の事業所が不足している。特にA型。	無回答
地域レベルでの施設の認知度をもっと高くしたい。コロナもありなかなか難しい。	地域との交流場を今後増やしていきたい。地域の子どもたちと触れ合いも増やしたい。
今後増加するだろう独居の高齢者に対して、家族に代わって家族の役割を果たすことが難しい。今のところ見守りを行い、地域包括支援センターに相談することしかできていない。	これから増加していく困りごとを抱えた高齢者をお断りすることなく、受け入れの範囲内で受け入れていく。
コロナ禍により外出ができなくなった利用者が多く、家族と会うこともできなくなってしまった。	コロナの終息に努め面会が再開できるようにすること。
特に交流の場や居場所づくりは、市(行政)がコーディネートし、場や運営に関わる費用を提供してほしい。	就労の場としての事業を展開しています。
精神障がいの場合、外出先での人間関係でトラブルになることが多く、そのため、なかなか一歩が踏み出せない状態になっている。	無回答
福祉事業者や当事者・その家族等の関係者が感じている「地域や社会とのつながりを持ち続けるための支援の重要性」と地域住民が感じている重要性に格差があると思われる。また、交流の場や居場所として活用できる(活用しやすい)施設が少ない。	講座・研修会等の実施。交流の場や居場所の運営に関する情報の提供。運営費の助成。他団体等との協力、連携、協働。
障がいや病気の有無、診断名などにより、制度の狭間で支援に結びつかない方のインフォーマルでも利用できる場が必要と感じます。	精神疾患がある方や疑われる方の日中活動(交流)の場として利用支援など。
自分から発信できない人が多い。ネットでの発信の機会をつくる。	無回答
現在のコロナ禍では交流の場をつくるのが難しいと感じています。	無回答
地域とのつながりが脆弱、交流の場がない。地域の方々、認知症リスクのある方々とつながりを持ち、お互いに支え合えるような場を提供できれば良いと思う。体操教室に参加していただくなど。(コロナ収束後)。	無回答
施設を大きくして収容人数を増やすか、小規模の施設を増やしていくか検討が必要。	無回答
ひきこもりの人が社会に出ていくきっかけづくりは、個別に対応し話を傾聴する必要がある。働く意欲をどう引き出すか、将来的に考えないと親もつらい。	介護の職場はいくらでも働ける場所がある。リネンや生活支援など。
受け入れ先がない。交流の場、居場所がない。	就労準備支援を行っているが受け入れ先がない。受け入れ先の開拓をしていくこと。

(1) 感じている課題	(2) 団体・事業所等にできること
障がいのある方と地域の方との関わりが持てる場(イベント等)や、交流の機会は少ないと感じています。自治会との協働はどんなことが可能か…?	いろいろな場に作業所として参加し、障がいへの理解をしてもらう啓もう活動や、助けてもらうばかりではなく助ける側にもなれるように活動していく。
コロナ禍のため人が集まるのが難しい。	スタンダードプリコーションの徹底。
一般市民への告知不足。	出張または来所時に詳細な説明と、当事者に合った福祉施設等の紹介。
1. 核家族化の影響: 安心してコミュニケーションが取れる最大の学び相手。核家族化による家族構成員数の減少はコミュニケーション能力の低下に大きな影響を与えている。2. 競争社会: 同世代同士のやりとりの中で、社会性を養っていくわけですが、競争社会が豊かなコミュニティを築きにくい環境をつくり出している。	現時点では、ございません。
人材不足が叫ばれる中、高齢者の雇用が促進されてないと感じます。70代でもまだまだ働ける方がいらっしゃる中で、雇用の促進がまだまだ不十分かと感じます。	現在、シルバー人材を受け入れておりますが、今後は直接雇用も積極的に行っていきたいと思っています。
前の質問のところにも記載しましたが、若く障がいを持った方の活躍できる場が私が知らないだけかもしれませんがが少ないように感じます。	通所サービス内で役割を持って活動をしていただくことは可能かと思えますのでそういった取り組みは継続していきたいと思えます。また今は休止となっておりますが、オレンジカフェなどでもっと多くの方々にご利用いただけると良いかなと思います。
同じような立場や悩みを抱える人達が気軽に集える場が少ない。	そのような場があるのであれば情報提供することはできる。障がい者については総合相談支援センターで検討いただきたい。
新型コロナウイルスの影響により居場所の創出(イベントごとや趣味でのコミュニティなど)については気軽にできなくなったのかなと思います。	現状はお力になれる部分は少ないと思います。
できることは全て参加してみんなで療育することを目標にしていますが、福祉と営利が矛盾しているので、何も補助がなく事業を続けていくのは難しいことだと思います。	協力できる活動に関しては参加するようにしています。
本人が強く拒否するケースが多いので、問題を抱えてしまう前に支援できたら良いと思います。	無回答
現在は少しずつ再開していますが、活動の中止期間はそれまでの交流機会がすべて失われてしまい、ボランティアさんも「心身ともに活気が失われた」と聞きました。現役世代と違い、地域との関わりが密であり生活の中心になっている方にとってはなくてはならないものであることを、改めて感じています。	感染対策の前提で「集まる」「話す」場を持ち続けること。地域に開かれた事業所を目指すなかでは、現在は「誰でも出入りできる」ことはリスクになってしまいます。限定的でもフリースペースを地域に開放する取り組みはできるのではないかと思います。
前述問7(1)のとおり。	町内会や民生委員のサポート役としての施策。例) 車いすの一時的な貸与、介護技術をご家族の方へレクチャー等。
ひきこもりの人が参加できる場が少ない。	ひきこもりの人が参加できる居場所づくり。
クラブに行きたくないと感じる児童、高学年へのフォローアップ。	コミュニケーション。役割を与える。
ひきこもりがちな人に、地域の場に参加してもらえる方法。独居で周囲と関わりを持ちたくないという高齢者の増加。高齢者の孤立やうつ病などを持つ人が多い。	地域サロンへの誘い。シルバー人材センターや支え愛ボランティアなど定年後も働ける場所や機会を案内する。
ヘルパーの人員を集める場をもう少し増やしてほしい。	無回答
各々の事情や障がいにより、社会参加には参加を敬遠されている方々に会う機会が度々あります。恥ずかしい、もういい、と諦めている方々が多くいるように感じています。	福祉用具貸与、販売を通して、高齢者や障がい者の方は支援し社会参加へつながるように日頃より努めています。

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
新規で利用したいとの問い合わせに対して、受け入れができずお断りしている現状。	ニーズに合わせた放課後等デイサービスを新たに開設する。
ふじみ野市は市民活動団体が多くあるが、はんどめいどイベントもその1つ、積極的に参加して欲しい。	各種イベントの情報を広める活動。
個人情報問題や家族が隠したがることもあり、地域で問題を共有できない。多問題を抱えた家族のことがわかった場合、本人に断って協働で解決に当たれると思うが、支援者同士相手の支援について十分把握できていないためどのように支援を進めていくか迷うことがある。	無回答

■団体区分：保育・教育機関

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
システムづくりが整えば不登校児童の居場所にはなりたいと思っています。	「自分が役立つ」そんな社会づくりを考え自己肯定ができる子を育てたいと考えます。園内の活動の参加、お手伝い、掃除、小さな子のお世話等、コロナ禍がスタートして中学生の職場体験がなくなりましたから。
交流の場が少ない。	コロナの様子によって行事に地域の方を呼ぶ。
課題の重要性は感じるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、現在のところは困難であると思う。	設備の面で難しい問題だと思うが、今後考えていかななくてはならない課題であると思う。
子どもにもよるが、高齢者と距離を感じている様子がうかがえる。	高齢者でしか出せない「味」(昔あそびや話)を披露できる場を設ける。
コロナや核家族化等により、さまざまな人との関わりが希薄になっている。どこに支援を必要としている人がいるのか見えにくくなっているため、どのような方法でつながれるのかを、日々、模索している状況。	いろいろな施設にチラシや通信を設置したり、さまざまな SNS を利用して情報発信をしている。また、地域のサークル等に協力いただき、いろいろなイベントを開催。地域ぐるみで子育てをできるような社会を目指す。
やる気はあっても資金面が足りない。	人材？
保護者の中にもメンタル面に不安を抱えた人もいます。外へ出ることもなかなかできなくなる人もいますので、どんどん悪い方向に向かってしまうと思います。	園とのつながりを強く持つようにしていく。
参加	無回答
児童クラブは登録した児童のみを預かっている施設なので他との交流は難しいと思う。	無回答
子どもの貧困の背景にはシングルであることや親自身が発達に困難を抱えていることも多いです。	保育所としてできることは、子どもの幸福の尊重であるため、保育所内で保護者が孤立しないよう交流の場を設けたり、思いに共感し寄り添っていく対応が保育者としての専門性と考えます。子どもに対しても偏見、差別ではなく一人の尊重されるべき人間であることを伝えていければと考えます。
園周辺の高齢者の方の徘徊。	記録と行政、自治会への報告。子育て支援センターの開催。
民設民営をもっと広き門にする。	今の事業で実績をしっかりとつくり、保護者や児童、自治体、地域から信頼を得る。
障がい者の家族支援。	インクルーシブ保育の実践。
孤立を抱えている高齢者、障がいのある方、生活困窮者、ひきこもりなど誰がそのリスクを持っている人かわからない。何かを抱えていると外に出ようと思わないのでは。	団体や事業者だけでなく市としてもリスクを抱えている人が気軽に来れる居場所(交流できる場)を増やす。
新型コロナの流行によって園外でのイベントが難しい現状がある。	安心安全に遊びに来れる環境を整え、自分の居場所の1つとして心の距離を縮めたい。

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
新型コロナの流行により、地域に出での活動に難しさを感じている。落ち着けば、開かれた給食提供や、地域の方の集いの場として活用したい。	子どもたちと触れ合う機会をつくる。(季節のイベントへの誘いや共同イベントの企画)
支援の情報を知ることができているか。	散歩時の周辺地域の把握。周知方法の種類を増やす。
新型コロナ前に行っていた園庭開放や地域向け支援活動のような外部の人の立ち入りを規制していることから地域に貢献できているのか不安がある。	模索中です。
高齢者の雇用もしているが、子ども相手の仕事であり、健康状態の維持が気になる。	コロナ禍が解消されれば交流の場を設けることはできるかもしれない。

■団体区分：医療機関

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
難病等にて若くして社会に出られていない方が見られる。	就労支援。

■団体区分：市で働く専門職

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
実は地域に存在している集いの場等を行政も把握できていない。民間企業等との情報共有も不足している。	地域にもっと目を向けていく。民間企業等との歩み寄り。
課題に対して地域住民と情報共有ができるかどうか。	同じ悩みを持つ方々を積み上げることができる。
対象となる方を支援していくには民間団体の協力も必要となるが、それらの専門性を有した適切な支援ができる団体が少ないし見つけることが難しい。	日々の業務の中で活用できる地域資源がないかアンテナを高くして業務に取り組んで行く。
居場所等の拠点となる物件や場所の確保。居場所運営に必要なボランティアや担い手の確保。	地域とのつながりを持ち、使えるような場所(物件)をピックアップする。空き家活用等の情報が入るようにして地域住民を巻き込んで居場所づくりを進めていく。社会福祉協議会との連携。
必要性は感じているが、社会資源の創出はハードルが高い。	難しい。
子どもの不登校やひきこもりの当事者への支援としての地域資源が不足。	無回答
家庭や学校に居場所がない子ども達が、安心してすごせる場所がない。	無回答
居場所づくりでは、限りある資源の中で、対象者を限定してしまうことにより、つながりが持たなくなってしまう人が出てくる可能性がある。	属性を超えた誰もが集まることができる居場所づくり。
交流の場、居場所が少ない。困っていることを相談できる人はいいが、自らできない人が取り残されてしまう。	地域住民、関係機関から情報提供があれば、当センターとつながり、支援することが可能。地域の社会資源や制度を案内したり、就労準備支援セミナーへの参加、就労支援も可能。
不登校児童の居場所創出について、担当課がどこになるのか、どのようにするのか何も方針がない。	無回答
人と関わるのが苦手な方の場合、就労支援や交流の場を提案しても、参加を希望しない。アウトリーチの体制が不十分。	一人や少人数で参加できる場を設ける。報酬加算をつけて、事業所にアウトリーチのメリットを持たせる。
予算、人材、場所、ノウハウが不足している。	無回答
地域のつながりが薄くなっている。	独居の方の早期把握と関わり。
オフィシャルな機関とアンオフィシャルなグループの融合は考えや想いの違いからか、難しさを感じている。リーダーシップを取る担当が統一した目的と役割を明示	障がい福祉に関連する事業所間の連携や専門性を活かしたネットワークづくり。

(1) 感じている課題	(2) 団体・事業所等にできること
することで、難しさが解消されるのではないかと考える。	
児童の部門で言えば事業所の数や利用できる人数が限られているため、児童の特性に合った事業所を利用できない事案が多くみられる。	限界はあると思われるが、需要の多い事業所は利用人数の枠を増やす等の対応をしてもらえるとありがたい。
社会に連れ出すには誰かと信頼関係を築けているかということが大きく影響する。	開かれた雰囲気であること。ただ、配架のチラシを見ただけでも話をするだけでもいいのではないかなと思う。
障がい(特に精神障がい)がある方が障がい福祉サービス外で通所できる場所がない。	現段階では障がいの理解を進めるための周知。
高校を卒業した障がい者の夕方支援について。高校卒業後の進路(生活介護、就労継続支援B型)によっては、16 時頃までの利用となり、保護者のフルタイム就労に影響が出てしまう。	無回答
「どこに相談すればよいかわからない」という問合せを受けること。	相談場所の啓発を継続すること。健康相談や健診等の事業を通じて、その方の抱える課題やリスクについて客観的かつ適切に判断すること。その方の抱える課題や要望に応じて、適切な支援機関を紹介すること。

■ 団体区分：地域福祉活動関係者

(1) 感じている課題	(2) 団体・事業所等にできること
近くにあれば良いと思いますが、本当に支援の必要なひきこもりの人等が参加しやすいアプローチが必要だと思います。	今は手一杯ですが協力はしたいと思います。
コロナ禍の影響もあるが、血縁、地縁、社縁と言った共同体機能の脆弱化が拍車を掛けている。	身近なところに気軽に立ち寄れる「場」の開設などがあれば民生委員、児童委員の立場で協力できる。
新型コロナに対しての意識が大差あるので難しい。	できる範囲で交流の場を考えていきたい。
地域の老人から子どもまでが気軽に利用できる場所を設置してもらいたい。	そこに来た方の生活上の相談を聞くことができる。
問題だと実感している。その対象者を特定できない。	相手から相談されないと、当方からは対応できない。解決のためのノウハウを持っていない。
そのような情報は町会としてあがっていません。	町会としてサポートできることには取り組みたいと思いますが、現役世代ではできることが限られると思います。
防災・防犯の講習会等、子どもから大人まで意識を高めること。一生学んでいく姿勢を身につけていくことが大切だと思う。	協力し合う、声を掛け合うことをし続けていく所存です。
その立場にある者として、絶えず情報入手に努力する他ないと思います。	入手した情報を強制的確に発信することが重要だと思います。
一人で自宅にひきこもり気味な人や、参加したくても一歩踏み出せない人、送迎がなくて参加できない人がいる。	(1)の方々の把握に努める。
福祉委員では個人情報を知ることがむずかしい。	とにかく、常に回りの高齢者などの様子に気を配ること。民生委員さんと話し合う時間を持つこと。
町内会社協等でいろいろな行事やサロン、ぴんしゃん体操等、居場所として開催しています。民生委員の協力を得て家にひきこもりがちな方々に声をかけてもらっていますが、なかなか出て来ていただけない現状です。	町内会等の役員の負担を軽減しつつも楽しくお互いにつながりがもてるような行事、居場所づくりを続けていく。
課題が多すぎてまとまらない。	無回答
不登校の児童に対してあまり有効的な対処が難しい。	学校と協力し不登校児が登校しやすくなるよう配慮する。また、リモートなどで、登校せずとも学校のお友達と関わりを持ちやすくしていくこと。

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
高齢者、子育て中の方が、気軽に集まれる場所がない。	無回答
特にない。	できることがあるかも知れないが、対応内容の提案がない。

■団体区分：NPO・ボランティア団体

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
障がい者の観点で親離れ子離れがあり、家庭で囲ってしまうケースが多い。	就労継続支援B型を運営しているのでできる範囲で受け入れます。定員まで残り4名です。
地域の人達との交流をもっと多くしていきたい。	マルシェ(市場)の開催を定期的に行い、コミュニケーションの場を広げていく。
ボランティアメンバーの高齢化。障がい者でも簡単な食事を自分で作って食べられるように、調理指導等、楽しい調理実習(ガスを使わない)。	障がい者と一般のサークルなどの触れ合い活動。
外国ルーツの子ども達の学校内で孤立化。コロナ禍に仕事を失う外国人が多く生活困窮しているが再就職が難しい。	国際子どもクラブは学習支援とともに居場所として土曜日を解放している。生活困窮者に関しては、食べ物の提供(フードバンク)と再就職に向けた情報提供をしている。
まだ年齢的に若く介助を必要としている方でも、できる範囲での仕事等があれば生きがいや収入にもなるのですが、なかなかないのが現状です。	無回答
祖父母が同居人においても高齢化により小学生児童の面倒をみるのが困難な共働き家庭もある。	(1)の家庭の児童も受け入れている。各ご家庭から使用することが無いと判断された食品を集めフードドライブに協力。
一人ひとりのニーズにあった居場所や相談場所が必要だと感じています。また、居場所をつくり、維持していくためのお金をどのように確保するかが課題です。	ふじみ野市内に福祉関係事業をしている3つの事業所があり、協力することができるため、さまざまな課題に取り組むことができると思います。
当事業所において、送迎が必要な方がおり、また利用者以外の方でも送迎があれば通うことのできる方々がいること。	将来的に送迎も検討事項としている。
支援を必要としている人の発見。	訪問支援による関係づくり。

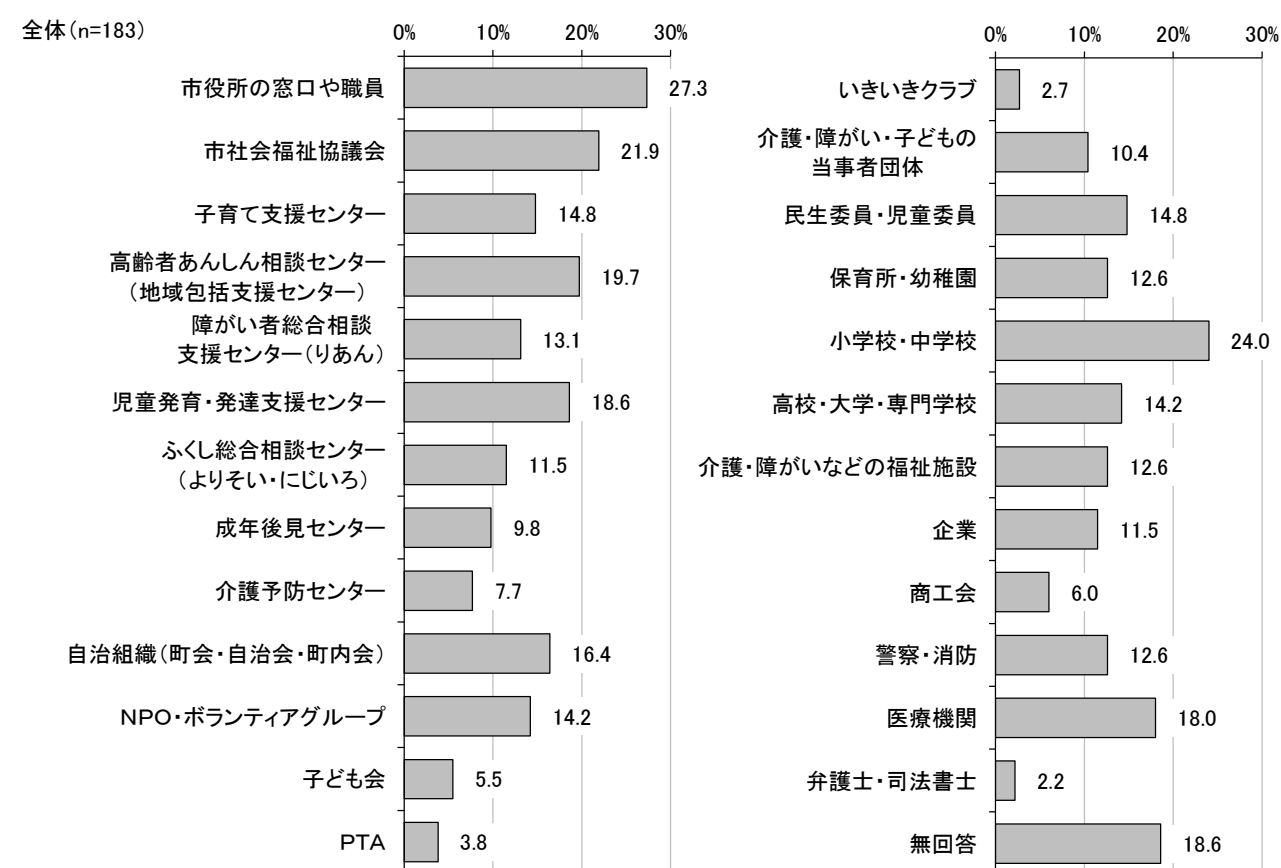
■団体区分：無回答

(1)感じている課題	(2)団体・事業所等にできること
地域の方々を巻き込む動きをすることで事業所を身近に感じてよろず相談窓口になっています。コロナ禍での交流、居場所をどうするかが課題で工夫とアイデアが必要だと思います。	小農活動とポールウォークの推進。
やはりコロナ感染の収束ができていないことかと思いますが、現在において、感染者の減少(少しではありますが)、治療薬等もできていることから、少しずつ活動を始めても良いのではないかと考えています。	担当地域内の情報を集め把握することかと思っています。

問9 貴団体・事業所等が、今後、連携していきたい他の団体や専門職はありますか。該当する番号を選び(複数回答可)、連携したい具体的な内容をご記入ください。(自由記述)

今後、連携していきたい他の団体や専門職については、全体では「市役所の窓口や職員」が27.3%と最も多く、次いで「小学校・中学校」が24.0%、「市社会福祉協議会」が21.9%となっています。

団体区分別にみると、[福祉事業所]では「市役所の窓口や職員」、[保育・教育機関]では「児童発育・発達支援センター」、[医療機関]では「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」
「企業」、[市で働く専門職]では「NPO・ボランティアグループ」、[地域福祉活動関係者]では「市社会福祉協議会」、[NPO・ボランティア団体]では「市役所の窓口や職員」「高校・大学・専門学校」がそれぞれ最も多くなっています。



■クロス集計

単位：％		市役所の窓口や職員	市社会福祉協議会	子育て支援センター	高齢者あんしん相談センター (地域包括支援センター)	障がい者総合相談支援センター (りあん)	児童発育・発達支援センター	ふくし総合相談センター (よりそい・にじいろ)	成年後見センター	介護予防センター	自治組織 (町会・自治会・町内会)	NPO・ボランティアグループ	子ども会	P T A
全体(n=183)		27.3	21.9	14.8	19.7	13.1	18.6	11.5	9.8	7.7	16.4	14.2	5.5	3.8
団体区分	福祉事業所(n=74)	32.4	20.3	10.8	24.3	18.9	13.5	10.8	16.2	9.5	20.3	20.3	4.1	5.4
	保育・教育機関(n=30)	13.3	6.7	46.7	0.0	3.3	63.3	0.0	0.0	3.3	13.3	0.0	0.0	0.0
	医療機関(n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	市で働く専門職(n=23)	21.7	26.1	8.7	21.7	17.4	8.7	17.4	13.0	8.7	8.7	30.4	4.3	0.0
	地域福祉活動関係者(n=32)	31.3	37.5	6.3	31.3	0.0	0.0	18.8	6.3	9.4	25.0	9.4	15.6	6.3
	NPO・ボランティア団体(n=13)	38.5	30.8	0.0	0.0	30.8	23.1	7.7	7.7	0.0	7.7	7.7	7.7	7.7
単位：％		いきいきクラブ	介護・障がい・子どもの当事者団体	民生委員・児童委員	保育所・幼稚園	小学校・中学校	高校・大学・専門学校	介護・障がいなどの福祉施設	企業	商工会	警察・消防	医療機関	弁護士・司法書士	無回答
全体(n=183)		2.7	10.4	14.8	12.6	24.0	14.2	12.6	11.5	6.0	12.6	18.0	2.2	18.6
団体区分	福祉事業所(n=74)	2.7	14.9	13.5	14.9	17.6	10.8	21.6	12.2	8.1	13.5	25.7	1.4	20.3
	保育・教育機関(n=30)	0.0	0.0	6.7	26.7	50.0	16.7	3.3	3.3	10.0	20.0	13.3	0.0	10.0
	医療機関(n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	市で働く専門職(n=23)	0.0	17.4	17.4	8.7	13.0	21.7	8.7	21.7	4.3	4.3	21.7	4.3	13.0
	地域福祉活動関係者(n=32)	6.3	3.1	28.1	0.0	28.1	9.4	6.3	6.3	0.0	15.6	9.4	3.1	21.9
	NPO・ボランティア団体(n=13)	7.7	23.1	15.4	15.4	30.8	38.5	15.4	23.1	7.7	7.7	7.7	0.0	7.7

■項目

1 市役所の窓口や職員	2 市社会福祉協議会
3 子育て支援センター	4 高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)
5 障がい者総合相談支援センター(りあん)	6 児童発育・発達支援センター
7 ふくし総合相談センター(よりそい・にじいろ)	8 成年後見センター
9 介護予防センター	10 自治組織(町会・自治会・町内会)
11 NPO・ボランティアグループ	12 子ども会
13 PTA	14 いきいきクラブ
15 介護・障がい・子どもの当事者団体	16 民生委員・児童委員
17 保育所・幼稚園	18 小学校・中学校
19 高校・大学・専門学校	20 介護・障がいなどの福祉施設
21 企業	22 商工会
23 警察・消防	24 医療機関
25 弁護士・司法書士	

■団体区分：福祉事業所

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	今までもお世話になっていますが、今後も連携して教えていただきたいです。
1	生活保護利用者と介護保険利用者の申請、相談がスムーズに行えるように。
1	利用されている方の生活組立の相談と支援。利用者様が今後窓口などにて相談がしやすくなるような体験、経験を行えるような連携。
1	保健センターとひきこもり支援、自殺予防等への取り組みやアウトリーチを含めて一緒にできたらと思います。
1	通所児の情報共有。
1	実際、連携しないといけませんね。市のサービスなど情報をいただいています。
1	利用者に関する事全般
1	福祉用具貸与、販売の業種としてお客様の、代理となり申請をさせていただくことも多くあるため、必要に際した相談もしていきたい。
2	福祉用具を必要とされる方へスムーズに提供できるような連携。
2	成年後見やあんしんサポートなどの利用方法、特に金銭面。窓口での利用の仕方等、身近に感じ相談できるような体験など。
2	連絡、調整、課題解決、研修。
2	夏まつりのイベントで綿菓子機を借りました。
3	子育てに悩む保護者様への対応に関する相談。
4	障がい者も高齢化が進み介護保険に移行する方が増えてきた。介護保険と障がい福祉サービスの違いをそれぞれ理解する必要がある。
4	金銭面の相談、ご利用者様の相談。
4	ケアマネジメントの指導や助言など。
4	利用者情報の共有の方法。
5	今までもお世話になっていますが、困難ケースに対して関わっていただきたい。
5	当所を必要とされている方々への情報提供など。りあんさんが企画された活動への参加など。
5	障がい者の生活面や就労面の支援について。
6	日中預かり型療育が必要な中等～重度の発達障がい児の受け入れを依頼したい。
6	療育に活かせる情報共有ができれば良いと思う。
6	児童発育・発達支援センターの役割が明確になっていないように感じます。18才未満の障がい児について気兼ねなく相談できる場所になって欲しい。
6	児童へのフォロー。

連携先番号	連携したい具体的な内容
6	利用児や相談者等の相談や情報共有、ニーズ把握等。
7	失業や仕事量が減ることで生活困窮になる方が増えていると思います。さまざまなケースの相談をさせていただきたいです。
8	認知症の独居、夫婦だけで生活している方が増えているために成年後見制度について相談させていただきたいです。
8	家族が疎遠の方などの相談。
8	障がいのある方の親亡き後の生活支援、権利擁護について。
8	高齢者世帯、お一人暮らし、身寄りがいない方の後見制度利用は必須になると思っています。対象となる方や手続きなども含めて、後見制度の理解が必要な段階です。
8	成年後見人制度の活用。
8	気軽に相談できる雰囲気になって欲しい。とても勉強になっているので講座は定期的に行って欲しい。
10	介護者向けの就職セミナーや就活支援の充実。
10	此处で暮している障がい者がいることを知って理解して欲しい。
10	地域で埋もれてしまっている課題等を抱えている方へのアプローチ。
11	居場所づくり。
11	余暇活動(休日)で、1～2 か月に 1 回でもボランティアさんがいると、利用者さんの活動が広がると感じている。
11	認知症の方に対しての見守りボランティア。
11	介護保険で対応できない家事支援等。
11	レクリエーションなどで、ボランティアグループとの交流をしたい。
11	児童発達支援、放課後等デイサービスの児童への関わり、ボランティア活動(イメージとして児童館における地域ボランティアの参加)。
11	インフォーマルサービスを取り入れる中で地域にどんなサービスがあるのかを知りたい。
12	学校や地域活動における福祉教育の推進。子育て支援に関する人材の確保。
13	3,6,17,18 は既に連携している。子育て講座への勧誘を保護者へ呼び掛ける際に有効と感じる。
13	学校や地域活動における福祉教育の推進。子育て支援に関する人材の確保。
15	今後の障がい者支援について。
16	民生委員の方々は地域のイベントや催し物に詳しいと思うので情報を共有させていただきたい。
16	前述問8(2)に加え、民生委員への情報提供。
16	情報交換などの有機的なつながりができたらと思う。
17	訪問支援
17	施設の近くに子どもと触れ合う場がないので、幼稚園児や保育園児との交流の場を見つけたい。
17	子どものパワーを要介護にある高齢者のみなさんへ届けるための中継点。(お子様作の絵やビデオ等)
17	利用者様が通う園と情報共有して今後の支援の橋渡しになればと思う。
18	目の前が小学校なので本来は学校帰りに気軽に寄ることができる場所として考えていました。しかし現実には厳しくて親にも理解してもらわなければならないし、施設にいる時の急変時の対応等、詰める点が多いです。
18	通所している児童の保護者からは学校の指導についての不満や希望など、よく耳にすることはあるが、一方的な情報になってしまい、問題点と思っていることが正しいのか確認ができないことがある。
18	学校、クラブでの児童の様子。
18	教育と福祉の機関がつながりにくい。特に民間の発達支援事業所は避けられがち。情報交換の場を持ちたい。
18	利用者様が通う学校と情報共有して今後の支援の橋渡しになればと思う。
19	就労の場だけでなく障がい者の生活全般を知っていただきたいのでボランティアでも実習でも来てほしい。

連携先番号	連携したい具体的な内容
19	実習先として手を挙げていますが昨今の少子化、介護の仕事は学校の先生や親にもやめた方が良いと言われているそうです。これから少子高齢化に拍車がかかり介護を担う人が増えないと大変な事になると国が力を入れて欲しいところです。
20	地域資源である施設や社会福祉法人との連携、有効に活用するための意見交換をさらにやりたい。
20	自立支援などの普及や考え方など、もっと事業所同士でつながり、一緒に考えなどを共有できると良いかと思っています。
20	地域の障がい者支援について。
20	課題の確認等、相談し合いたい。
20	ネットワークによる横のつながりが必要だと思う。
21	就労準備の受け入れ先としてつながりたい。
21	介護者サロンの実施や介護者の勉強会、交流会により地域住民とのつながりを持つ。サロン参加者にはジム無料券やスーパー銭湯無料券等配布。
21	社協の運営費や地域福祉活動を支援するための財源と人材の確保。団体・専門職として相互の知識・技術等の共有と協力、連携、協働。
22	地域住民と連携、居場所活用や買い物難民などの支援等。
22	社協の運営費や地域福祉活動を支援するための財源と人材の確保。団体・専門職として相互の知識・技術等の共有と協力、連携、協働。
23	対応ケースのその後の対応。
23	地域の防犯や防災のため、何か役に立てることがあれば参加したい。
23	避難訓練、防犯対策、救命講習。
24	薬局や栄養士との連携をしていきたい。
24	体調をくずし入院する高齢者のために、医療機関と連携することで退院後のスムーズな在宅の生活の支援が可能。
24	地域に連携できる精神科が少ない。
24	受診時の詳細。
24	病状等医療的見地からの意見を得たい。(入退院連携については現在進めている。)
24	認知症があると入院等の受け入れをしていただけないこともある。地域の一員として急変時等の受け入れ体制を構築強化したい。
無回答	支援員で活動してるから。
無回答	地域の団体を知りともに活動したい。
1,2	地域や本人の問題等を中心になって把握してほしいです。
1,2,3,4,5,6,7,8,23	行政機関とは、我々の役割の理解を深めていただき、必要に応じて相互相談や連携を行い、当事者やご家族の安定した生活につなげたい。
全項目	各ケースに応じて。
1,2,3,5,6,7,10,11,12,15,16,17,18,19,20,21,22,23,24	連携可能な機関とは常に連携して、全体で子どもたちを支援していく環境を構築したい。
1,2,4,9,15	これまででもお世話になっており、ご利用に関わらず地域で気になる方の相談に乗っていただいたり、必要な情報をいただき感謝しています。ご利用者だけでなく、ご家族との交流にも「介護予防」の視点を学ぶことは必要だと思っています。
1,2,5,7,11,15,18,20,23,24	すでに何らかの連携をとっている。
1,3	現在連携させていただいている。
1,3,5,6,8,10	各行政機関や福祉機関との情報共有を行いサービスの質を高めたい。(福祉機関については研修の実施などご案内していただければ嬉しいです。)
1,4	ケアマネジャーが一人では対応できない困難ケースを、同じ目線から相談できると利用者にとっても安心できる。
1,4,5	複合的課題を抱える家族が増えているため、家族全体を見る必要性を感じる。分担ではなく、全体で情報共有したい。
1,4,5,15,24	訪問するにあたり利用者様について共有することが多いため。
1,5,15,20,	災害時の対応など。

連携先番号	連携したい具体的な内容
21,23,24	
10,11,15,16	当事者やその家族により近い地域組織の方々に福祉の種類や役割の理解を深めていただきたい。その上で、相談を受付、問題の軽減、解決に向けて協力していきたい。
10,11,15,16,24	地域の方との連携(共生社会に向けて)づくりとしてのプラットホームになれば考えるので、広分野でのつながりをつくりたいです。
10,15,20	さまざまな社会資源につながる事が大切だと考えている。自治会さんには大変お世話になっており有難く思っています。
10,16	災害時の地域連携など。
10,16,17	「上福岡地区のひとつの事業所」として近隣の方々との関わりは大切にしたいと思います。新型コロナ以前のように、保育園児のみなさんとの交流はご利用者も楽しみにされているので、感染が落ち着いた際はぜひ再開していただきたいと思っています。
13,18,19,20,21,22,24,25	学校、PTA には「ひきこもり防止、早期対策」のために、福祉施設や医療の利用が有効であることの理解と、相談会などの実施。企業や商工会にはひきこもり、障がい者の啓蒙活動と協力の依頼。医療機関との情報交換と連携。状況に応じて弁護士等と連携し、当事者やご家族の安定した生活に向けて支援する。
17,18	発達障がい、聴覚障がいの子が有する困り感や環境配慮について共有。
17,18	現在、近隣の保育園の園庭に遊びに行っています。小・中学生とも交流をし、いろんな子どもがいることを知って欲しい。
17,18,19,20,21,24	地域の学校や医療機関と連携することで、たくさんの障がいを持ったお子さんを育てている保護者様に有益な情報を発信できると思います。また、近隣の福祉施設や企業などとイベントなどで共同できれば地域密着の支援の実現にもなります。
17,20	地域における公益的な取り組みに参加してもらう。
18,19	学校行事など早めに知ることができると、児童センター年間事業計画が立てやすくなる。例 運動会などを避けた事業の計画。
2,9,10,11,16	地域の活動場所や資源について情報共有したい。
20,24	弊社との関連する医療機関や施設もあるため、お客様や家族様への支援となるよう努めたい。
21,22	フードドライブの物品提供をしてほしい。
23,24	支援員と児童への防犯講習など。ケガや急な体調不良への応急処置。
4,8,15	仕事上必要。
5,6	情報の共有と連携を密にとりたい。
5,7	障がいのある方々の就労についてや、ご利用者様の中での困りごとなどを共有し解決するための手段や方法など知りたい。
5,7,8,10,24	5.65 歳からの移行について。
9,10	介護を要しない年齢を長くするために、自治組織と協力してラジオ体操、スポーツを取り入れ、健康社会の実現。

■団体区分：保育・教育機関

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	市の保健センター等と連携し、配慮が必要な親子の見守り、必要があれば一時保育等も行い、支援を行う。
1	園児、保護者の情報共有のため。
3	気になる子について。
3	今でも連携はしているがもっと連携を深めていきたい。
3	支援が必要な子どもの保護者の相談窓口として利用させていただきたい。
3	児童クラブの開室時間の拡大を希望している保護者が多くいる。開室時間の前倒しや閉室時間の延長など、児童クラブでは限度があるため、他の組織と連携し、もっと子どもを預けやすい環境をつくる必要がある。
3	同じ建物の中にありますが、ほとんど交流がないので、何か一緒にできたらいいなと思っています。

連携先番号	連携したい具体的な内容
3	現在も交流はあるが、より深いネットワークにしていきたい。
3	各拠点で情報を持ち寄り、配慮が必要な親子の情報共有や地域ぐるみでの親子の見守り。
3	両方の施設を利用している共有が必要な家庭の連携。
3	子育てに悩む母親の支援。
6	前にも記入しましたが少々変だと思われるお子さんに対してのアドバイスをご伝授下さい。
6	包括的な社会の実現に向け、密に連携を取っていく必要があります。
6	発達が気になる子についての連携。
6	発達に関して悩み相談を受けることが多い。その際に実際にお子さんの姿を保育士目線で理解することができる。相談受付者の見解を共有し、以降の支援につなげたい。
6	発達の困り度の把握。専門家の知見を学び、保育や保護者支援への活用。
6	現在も年に 3 回、巡回相談で専門職のアドバイスをいただき大変ありがたく思っています。
6	巡回支援等ですすでにお世話になっています。
6	保健センターともつながりたい。
6	支援が必要な子どもについて連携して、より良い成長・発達をはかりたい。
6	発達が気になるお子さんの共有と支援のため。
6	気になるお子さんが増えているので、今現在も子どもの様子を見に来ていただいています。必要があれば専門機関等につなげられるようアドバイスをもらっているので今後も継続していただきたいと思います。
6	地域子育て状況の情報共有。
6	子どもたちの成長において、より良く保育できるように、アドバイスをいただく。
9	隣にある施設で、新型コロナ以前は交流を行っていたとのことなので、できる範囲での交流を行いたいです。
10	同じ地域に住む子育ての悩みや、家庭状況のお互いの把握など、保護者と地域がつながる架け橋になりたい。
10	地域とともに成長を喜び合う仲になりたい。互いに声を掛け合い、助け合う環境で、子どもたちの成長を見守りたい。何か一緒に行事やイベントをしたい。
10	子どもたちの過ごす地域にも、一緒に子どもたちの成長や育ちを見守ってもらいたい。
17	アレルギーや困った子の対応の仕方の引継ぎが見込める。
17	子ども達同士の交流など。
17	姉妹園だけではなく、さまざまな園との交流をすることで子どもたちの社会性も育つのではないかと考え、交流ができればと思いました。
17	近くに民間の保育園もあるので、交流ができればいいなと思っています。
18	中学生の 3Days 就労実習が無くなってますので早くコロナ禍が明けて交流できて一人でも多くの保育士が育つように希望します。
18	コロナ禍の影響でなくなってしまったが交流会をまたできるようになると良い。
18	特にスクールカウンセラーと話をし、子どものいろいろな面を共有。
18	特に小学校との関わりが途絶えていることで年長児の就学に向けて何かできないものかと気になっています。
18	現在は無理だと考えるが、年長児の就学準備の一環として小学校訪問等が実現できれば良いと思っています。
18	年長児の小学校へのスムーズな接続。
18	育ちを共有し、スムーズな進学へ進めたい。
18	子どもたちの発達・成長のため連携が必要。
19	プチ先生として子どもが興味のある分野について取り込めそう。
22	保育園なので、すでに多くの団体と連携をしている。
22	子どもは地域全体の財産であるため、将来の地域を支える大きな力だと考えます。そのため、地域の魅力、つながりを大事にしていきたいと考えます。

連携先番号	連携したい具体的な内容
23	防犯教室を行ってほしい。
23	コロナの影響で防犯訓練の立ち会いがしていただけ無くなっているの、またご指導いただいて職員の防犯意識を高めたい。
23	県からも度々不審者情報等が流れてきますので地域で守って下さい。
23	火事の時には指導に来ていただくのですが、水難事故等、さまざまな形で指導してもらえると良い。
24	子育てについての悩みや病気などについて専門の方から話を聞いたり、相談したりできるようにしたい。
24	コロナ禍の終息が一番ですが、お医者様あつての我々なので新型コロナに限らず怪我等でも広くお世話になりますので宜しくお願いします。
無回答	学校での様子をききたい。
1,6,17	今まで通りにお互い良い関係でいろいろな情報交換ができる仲でお願いしたいと思っています。
10,16	地域の中の子育てをもっと広げるためにも、町内会の催しに何らかのかたちで参加や、交流が持てると良い。
10,16	情報交換や交流、催しの参加等できると良い。
17,18	保育所、幼稚園時代の様子を、または今の様子を交流したい。
18,19	保育所は一般的な解釈では「子どもを預かってくれる場所」という認識も多いです。しかし、子どもの学び、生きるための力は生活の中にこそあります。生活こそ教育であり、子どもの基盤となりうるものです。その専門性の理解と共有が望まれます。
2,16,18,19,20,23,24	今までいろいろな形で関わっていただいています。
2,3,18,19	貴方が考えていらっしゃる事、現場の状況等教えていただき当園でどのように考えれば良いか教えていただきたいです。
21,22,23,24	子どもたちが職業を知る機会をつくりたい。
3,6	子育ての不安や悩みが気軽に相談できる出張相談などの機会を作る。発育、発達に関する保護者の理解向上の研修会など。
6,17	気になる児童について相談や話し合いをできる場が欲しい。

■団体区分：医療機関

連携先番号	連携したい具体的な内容
21	ドラッグストアにて災害時の応急処置品の提供。
21	整骨院にて災害時の応急処置のマンパワー。

■団体区分：市で働く専門職

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	ケースカンファレンス等を定期的に行い複合的な課題を抱えている世帯についての情報共有を行う。
1	市民サービス、福祉サービスの中核であるため。
1	市民活動支援センター開催の交流会やイベントへの参加協力。
2	地域づくりのための担い手の育成。
2	組織体制が整うと支部社協の負担が増える。体制ではなく平らな会議を開いて欲しい。
4	65才以上の高齢者の支援で、介護、医療と連携したい。
5	障がい者雇用を希望する相談者が増加しているため、支援方針等を情報共有したい。
5	障がい者雇用や障がい者の相談の支援で連携したい。
6	今年度から公設化となったため、これまで子育て支援課で行っていた業務を引き継いでいきたい。障がいのある子どもを育てることはより大変さがあり、虐待リスクも高いので連携していきたい。

連携先番号	連携したい具体的な内容
7	生活困窮や経済的に苦しい方などをつないで相談を受けて欲しい。
7	ひとり親家庭や離婚後の生活支援、子どもの学習、不登校支援。
10	市のまちづくりの基本は自治組織だと思っている。活動のマンネリ化。役員等の負担軽減をしてほしい。
11	居場所のない若者達の相談を含めた居場所支援をしてもらいたい。
11	食育や健康づくりを目的として地域で活動している団体と、事業協力等の連携をしていきたい。
15	現在のサービス体系において、ニーズを満たすことができているか把握すること。
16	他自治体では児童虐待分野においても見守りをしているようです。洗濯物が干してある、電気がついているなどでも良いので、ご協力いただけると助かります。
18	不登校の児童生徒への対応について。発達障がいやその障がいの疑い(グレーゾーン)の子ども、家族への支援対応について。
19	高齢者の支援に若い世代も絡んでもらうことで新たな視点での発想が生まれそう。
19	講義・講座等での連携。
19	福岡高校からふじみ野高校へ、生徒たちの地域参加活動をつなげてきた。市職員のイベントなどの引継ぎがされていない。積極的に連携をすすめる姿勢がほしい。
19	市民活動支援センター開催の交流会やイベントへの参加協力。
21	民間で行っている集いや取り組みを知ることで連携できることが見つかるのではないかと感じる。
21	(適切な選択肢が無いため「企業」としました)地域の認定栄養ケアステーションと、事業協力等の連携をしていきたい。地域における食育活動の連携や、通いの場としての活動支援など。
21	認知症サポーター養成講座を受けていただき、認知症の方への理解をしていただき対応連携をとりたい。
21	職場開拓の依頼。
21	地域において食育や健康づくりに取り組む企業や、賛同いただける企業と連携をしていきたい。
24	精神疾患を抱えている方(発達障がいを含める)への対応について。
1,5	支援センターには市民活動だけでなく、さまざまな相談があります。ご本人が窓口で相談したがきいてもらえなかった件が多く、こちらで話をよく聞いて担当者をたどり相談につなげた。
11,21,22	地域活動や民間企業の社会貢献の力と連携協力することで、ともに目的達成に近づくのではないかと考える。
16,23	独居、高齢者世帯が増加している。認知症の方も多くなっているので連携していきたい。
2,4,6,7,8	市の福祉分野における各基幹的な役割がある機関のため。
2,4,8,9,11,15,24,25	介護保険、成年後見関連及び地域で見守るネットワークをつくりたい。
2,4,9,10,11,15,16,20	ゲートキーパー養成研修。
3,11,12,15,16,17,18	子育て世代の障がい者を地域で見守るネットワークをつくりたい。
4,24	在宅における療養生活のサポート。
8,11	成年後見センターとも連携していきたい。地域資源として把握し利用者支援につなげたい。

■団体区分：地域福祉活動関係者

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	忙しいとは思いますが、自分の部署だけでなく、協力できるところは、よく連携したいものだと思う。
2	地域共生社会の実現に向け、包括的支援体制(重層的支援体制整備事業)の取り組み。
2	災害時や常日頃の活動する際に大変重要な連携団体である。
2	サロン活動ができないことで足の衰えが増えてきているため、杖の依頼が増えている。

連携先番号	連携したい具体的な内容
2	今年の 4 月より、いきいきクラブ連合会の事務局を市社会福祉協議会にお願いして 6 か月になります。これからは通常の事務局のだけではなく、いきいきクラブ連合会の事業等についても専門的知識を持っている社協に相談してアドバイスをいただいて進めていきたい。
4	地域共生社会の実現に向け、包括的支援体制(重層的支援体制整備事業)の取り組み。
4	一人暮らしの高齢者には問題解決の糸口となることが多い。
4	一人暮らしの方の相談が増え、つなげることができる。
10	近隣町会(自治会)同士の交流等をもっと図りたい。
10	私達の活動が地域内の活動であり、自治会の協力なくして活動はありえない。
10	防災、防犯をはじめ地域の情報交換等。
11	個人的に高齢者を対象とした有償ボランティアを 10 年以上継続しています(支え愛センター)。さらに継続してまいります。
16	情報の交流。
16	情報交換(課題の出しあい)。
16	民生委員さんは福祉委員さんでもありますので、なるべく話を聞いたりする回数をつくる。
16	民生委員は当地域 5 名ですが現在 4 名にて活動中。町会としていろいろお願いしましたが受けていただけない。
18	誰もが安心して住み続けられる地域づくりのために地域住民や関係機関、団体と連携協力して地域の絆づくりを進め取り組む必要がありますが、具体的な内容は検討中です。
18	教職員も子ども達の生活地域のことに、関心を持って、その良さを共感しながら、時間を共有して欲しい。
18	児童、生徒の登下校時の見守りや健全育成に関する情報交換等。
19	更生保護活動の事例紹介。
21	日常的に接触のある新聞、牛乳配達人などから住人の健康や生活の様子に変化がみられた場合、情報の提供を受ける。
23	地域、高齢者を見守る上で情報の共有交換ができればと思います。
23	講習会等、一人でも多くの人々に大切な心掛けとして、勉強会を広めてほしい。
23	詐欺被害にあいそうな(あった事のある)高齢者が多いと感じるため(火災の心配もあるため)。
24	住民の心身の健康の維持増進に地域の協力が必要と認められる場合、情報を受ける。
無回答	市や社協とはつながっていますが、関わりが一方的な感じがします。市→町会、社協→町会の一方通行。
1,18,19,23	人材不足のため、保育に関心のある人を積極的に取り入れていく。
1,2,13,14,16,18	情報交換。
1,2,4,7,16	高齢化している中、それぞれの団体と連携し、情報交換や協力をし合い、安心して住める地域にしていきたい。
1,2,4,7,9	やはり行政がらみとの連携は不可欠です。
1,2,4,8,9,10,15,20	情報交換による情報収集を行い活動に活かしたい。また、当該団体との信頼関係を築くことにもなる。
1,2,7	最低限度の生活をどう維持していくか。
10,12	コロナ禍以前は行事に参加していました。行事が再開された場合はまた参加します。
10,12	地域の中で活動していく上で自治会、子ども会との連携は必要となる。
10,12,18	これからの子どもたちを安全に見守っていくことに協力しながら、子どもたちの元気をもらえるような関係づくりをしていきたい。
12,13,18	小学校中学校の PTA、子ども会との交流機会がもっと有れば活動参加者も増えることが期待されますが現在は未だ少ないために良い方向にしたい。
12,16,18	的確な情報の取捨選択により、必要に応じて発信する。
18,19	情報が入りにくい。
2,7,9	認知症を防ぐため。
20,24	これから先のこと、現在の自分の体調を知っておくことの大切さがある。
23,24	地域防犯推進委員として継続的に活動するよう努力する。
4,7	今までも相談事はしていますが今後ますます相談が増えると思います。

連携先番号	連携したい具体的な内容
8,25	一人暮らしで、家計や老後の管理ができないとの相談がある。

■団体区分：NPO・ボランティア団体

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	障がい者の家庭の問題について。
1	問題などがあった時に相談できると安心です。
1	市役所の窓口や職員。指定管理者として、保育環境についてや保護者からの要望に関して相談し、協力して解決していきたい。
2	小中学校での手話体験。クリスマス会への補助金。
2	進学のための貸付に関する相談や、社会人ボランティアの確保について
2	ボランティア活動において、ともに協力しあう。
5	障がい児をサポートすることが何回かあったので、障がいの度合いによる接し方などを学ぶ機会を設けることも必要かと思います。
5	困りごと相談の対応。
6	放課後児童クラブの利用者の中で、児童の発達発達に不安を持っている方がいれば、センターを案内する。そのような方についての情報共有。
6	特別支援を必要とする子どもや保護者の相談について。
8	制度利用のサポート。
11	一つのボランティアグループでは負いきれない問題を支え合って活動する。
14	高齢者の時間と技術を分かち合い、触れ合って豊かな人生となるように。
15	当事者同士の話し合いの場をつくってほしい。
17	気になる児童の幼保時代の様子についての情報共有
18	気になる児童の学校での様子の共有
19	人材確保
19	卒業後の就職先として、放課後児童クラブに興味を持ってもらうようにインターンシップの受け入れや就職説明会を学校側と協力して行いたい。
21	就労先、もしくは内職等の仕事請負い。
23	災害時の情報共有、緊急時の対応。
1,16,18,19	不登校や学校になじめない子どもの把握。進路について担任の先生と連携。
1,18,19,21	行政の窓口や企業で日本語習得の必要性を伝えて、習得方法について案内してほしい。児童、生徒の親にも勧めてほしい。
1,18,19,24	同行通訳の費用負担。専門家の指導のもとでの医療通訳スタッフの育成
1,2,7,21,22	子ども食堂を開催する時に、支援をいただきたい。子ども食堂を利用するご家庭を増やしたい。
10,12,13,16,17,18,19	子どもの居場所をつくるための情報提供や協力体制を構築したい。
18,19	障がいを抱えている学生に対し、体験を通じ事業所の活動を知ってもらいきっかけをつくってほしい。
5,15,20	情報共有。
5,6,15,20	障がい者の居場所を作るための情報提供や協力体制を構築したい。

■団体区分：無回答

連携先番号	連携したい具体的な内容
1	上記の通り、精神疾患のある高齢者支援の相談ができると良い。
2	障がい者、生活困窮者、日常生活の支援。
4	高齢者について全般。
5	8050 問題に対する連携強化。
7	在宅介護支援に係る生活費の相談。
7	子どもから高齢者他の相談にのっていただけること。

連携先番号	連携したい具体的な内容
24	特に精神疾患のある高齢者への支援が難しく、専門医に相談したり、指示を仰ぎたい。
25	法律的なご指導。
無回答	高齢者の就労できる場があるとデイサービスでレク活動等に物足りなさを感じている高齢者には良いのではないかと思う。
1,3,4,9	7-(2)でお答えしたことです。

問 10 地域共生社会の実現に向けては、各分野の関係機関がその垣根を超えて横断的に連携していくことが求められています。このような連携にあたって課題だと思うことはありますか。（自由記述）

問 11 上記で挙げられた課題に対し、解決するためのアイデアや取り組みはありますか。（自由記述）

■団体区分：福祉事業所

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
特に感じていないが多問題ケースは現実的にあり、輪がないとも感じる。	情報交換を取りやすくてきたら連携しやすい。
各分野の理解力。業務の内容等その分野分野での仕事内容を理解していないと一方的な意思交換や疎遠になってしまう可能性がある。また一つの分野、例えば障がいに関しても生活保護のからみでスムーズに対応できなかつたりする。各分野の垣根を超えることは現状できていない。障がいは障がい、生保は生保等で複合的な足かせとなっている。	各分野の相互理解を友好的に行い、地域をサポートできる総合支援こそが必要。各市町村に一つでも各分野のプロが集結して地域を支援していくチームがあっても良いと思います。
時間調整が難しい。	オンラインを活用する。
問 8 の問いを受けて、それぞれの家庭に必要な支援は家庭ごとに異なっており、家族一人ひとりの立場が違えば受け入れ方も異なるものだと思います。「横断的に連携」とありますが利用者自身ではどのような支援があるかも解らないので支援をコーディネートする人材が必要と思いました。介護保険ならケアマネジャーですがこの枠を超えていると思います。	各分野に於いて対応可能なことを全て踏まえて実践するために各分野のエキスパート数名で1チームとなり案件に対しての最善策を導き出す。
津久井やまゆり事件で露呈したように現在の社会の中で弱者に対する無意識的な差別が多く存在している。グループホームや保育所の建設には反対運動が起こる。さまざまな機関や団体と協同しつつ啓発が必要だと思う。	高齢、生活困窮、障がい、児童を含めて目立つ場所で行う福祉祭りの開催。
それぞれが困っていると感じていること、ニーズの把握に対して疑問に思うことがある。障がいのある方達だからこそ、もっと時間を掛けて話に耳を傾けられたら良いのにと思っている。	日々試行錯誤を行っているがなかなか難しい。悲しいかな、理想通りに行くと赤字になってしまう。
連絡や連携、誰が主体に成ってどこまで関われるのか。課題の追求や新たな問題の確認など。	主体的に動ける人が必要。
自分達で対応ケースを解決するという気持ちに温度差がある。各課でできることとできないことがあるにもかかわらず、それが明確になっていない。	無回答
情報共有に際してプライバシーの保護。情報共有の複雑化。	無回答
民生委員を始め、ボランティアを確保するのが年々困難になってきている。また地域が脆弱化して住民間の相互の結びつきが希薄化している。	ただ課題を受け止めて支援につなげるルートを整えるだけでは不十分でそれだけでは専門職だけが支援に関わり要支援者を地域から切り離して専門機関だけが抱えてしまうことを助長しかねます。そうするとますます地域から見えない存在になります。支援につなげるルートの整備とともに地域住民自身が課題に気付くことができ、それを考えて地域住民でできる範囲での支援につなげようとするのが大事と思う。
交流の機会がない、窓口が解らない、個人情報の問題。	無回答

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
各機関の制限や縦割りの発想になると行政含めて実現は難しいと思う。温度差は出るし、役割の違いはあると思うがそれこそ垣根を越えることができるようなしくみがあれば良い。	コーディネーターの権限を強化するとか、そのコーディネーターの育成を促進するとか地域の団体や期間を集めてケースレビューしたり土壌づくりもあると良いのでは。
各分野の関係機関が集まり、具体的にどのようなことで連携、それが可能なのか、どうしたら実現できるのかなど話し合い。	無回答
医療と介護の垣根。	訪問診療ができる医療機関を増やす。
キーパーソンがしっかりいること。ケアマネジャーや相談員さんの存在が大きいということ。	無回答
もっと課題を提出できる、そして相談できる気安さがあると良い。	今は困っている高齢者の話をよく聞いて、まずは介護保険内でできることを提案し、できないことに関しては、関係機関に相談できる環境づくりを行っている。勇気を出して連絡する等。
コーディネートと課題整理をし、提示をする機関を明確にすること。各分野の機関が集まってできる場の設定がない。	無回答
まず必要と感じるのは連携に必要な課題・情報等の共有であるが、そのための会議・研修などを実施するための時間的な余裕がない。	既存の会議体を活用する。
各団体の活動内容を知る機会や顔の見える関係づくりなど。	行事や防災等の取り組みをともに行ったりすること。
異業種、多業種の方々との交流や情報の共有の場がない。(コロナ禍の中、難しいとは思いますが)。	無回答
保健センター等、同じお子さんに複数機関が関わるため、情報共有や発信内容の共有ができればと思います。関わる人が異なることを伝えることで混乱してしまうときがあります。	無回答
地域密着型のデイサービスを有効に活用する必要がある。	利用者が健康でいつも楽しく笑顔が絶えない場所を増やしていく。デイサービスの有効な活用。
連携の手続きは電話のみ(不在の時の対応はすれ違ってしまう)。メール等の活用を増やせると良い。	無回答
連携が必要であることの理解は一部の人たちだけである。もっと皆さんが連携が必要だということを知ってほしい。	意識の問題であると思う。繰り返し発信して理解を求めることが必要だと思います。
各分野が抱えているものを整理して、市全体で求められていることが何かが見えるようになると良いかと…。	コーディネーターとなる人が必要。
相手が何をしているのかが十分にわからない。どんな機関が関係してくるのかがわからない。どのような機関と連携したら良いかわからず行政の窓口で連絡しても行政もわかっていないので他部署をたらい回し。学校や幼稚園、保育園は民間の福祉や療育機関がどんなレベルで何を提供しているかわかっておらず、民間というだけで信用されにくい。信用されていないので個人情報などを理由に介入できない。	互いに何をしているのか、何ができるのかを伝える機会が必要。どんなことで困っているのか、それに対応できる機関はどんなところなのかの抽出。
それぞれの役割と、しくみの理解が不可欠。現在は個々の動きだけで、早急な解決ができていない。問題解決の前に当事者、ご家族の生活が破綻してしまっている。	問題を関連機関、行政機関に早期に相談し良策を検討している。また、各機関、組織と連携を予め取っておき、問題発生時に迅速に対応できるようにしている。
縦割りの枠組みを少しでも減らし、ふじみ野市の特性を活かした循環的な地域資源を活用し、さらには専門的な分野の人材を最大限活用	コーディネーターや行動心理士などの活用により対人支援の専門家による導入

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
どこが連携の音頭を取るのか、非常に難しいことだと思います。大変かとは存じますが、是非、市の方に連携の主軸となっていたきたいです。	無回答
地域共生社会という言葉がまだまだ皆がどういったことかという基本的なところが理解、イメージできていないと思います。自立支援という言葉もですが、もっとどういったこと、どういった地域を目指すのか啓蒙が必要だと思います。	無回答
自分たちの専門分野以外の機関について特徴や役割等の知識が少ない。	それぞれの分野のかたからの勉強会のようなものがあると顔つなぎもできるし良いと思う。
各事業所によって関わりのある福祉サービス事業所の数や密度にバラつきがあることが根本的な問題にあるように感じます。	難しいとは思いますが、各分野の福祉サービス事業所が集まり意見交換や情報共有をできる場がもっと増えると良いと思います。職種や分野に関わらず参加できる研修会などでも交流の場になるかと思います。(新型コロナウイルス感染拡大状況では難しいとは思いますが)
それぞれの機関の理念や目標が異なるので、こちらの理念を説いても賛同が得られないケースも多々あると思います。	それぞれの理念を尊重して、子どもたちのことを考えた連携ができればと思います。
「関連機関」がどちらを指すのかわからないのですが・・わたしたちは介護事業所なので学校や児童、障がいの事業者様とは関わりがない状況です。「わからない」「知らない」ことが問題でしょうか。	お互いに顔が見える関係は大切だと思います。地域や自治体にどのような機関、事業者様が居られるのかを知ることからになりますが、ふじみ野市の「ケアマネ連絡会」のように地域密着事業連絡会などあってもいいのかも。情報共有や法令順守についてなど、地域で話せるところが欲しいと思うこともあります。(もうありますか?)
この分野に参入し、まだ1年強のため、課題を述べるには少々早いと思われる。この1年強で設問に関して感じた点を記述させていただくと、多職種連携について勉強不足な方々がまだ多く存在することに違和感を感じた。特に、経験の長い介護支援専門員の方や看護職の方にそう感じる方が多い。	上記問 10 にて記載したとおり、まだ課題認識できるレベルにない。
横断的に連携していくことへの必要性の理解が進まないこと	連携することのメリットを理解できるよう情報提供する
連携機関のスピードを持った情報共有と対応。問題発生時だけではなくその後のハウレンソウ、常日頃の連携。	交流の場。会議、行事、イベントへの参加。※コロナ禍以前は実施していた。
各団体がどのような活動をしているのかわかりづらい。	見学会などの機会があると紹介など、案内しやすくなるのではないかな。
現場や案件ごとに協力することはあるが、その場は、という側面が多い印象がある。その後利害の関係は開いたとしても、協力関係がつながることがあればと思う。	繰り返し仕事をしていく中で関係性の構築に努めることだと思います。
「つながる」ための情報が少ないこと。相手機関のことを知ることができる機会がほしい。	無回答
縦割りを少しでも解消していくことと同じテーブルに着くことが求められます。	無回答
そもそも知り合うきっかけが無いので、会合など何かしらきっかけづくりをして欲しい。	無回答
連携するための人員不足	求人サイトの活用
働きかけても感心を示さない。	悩んでいます
お互いの支援内容や活動実績等理解できていない。押し付け合いになりがちで、歩み寄りが大切	複合的課題を抱えた方への支援で核となる人が必要。関連機関は自分の担当だけでなく全体を見る目を持つ(そのためにはお互いの情報共有必須)。
無回答	コミュニティソーシャルワーカーを育てる。

■団体区分：保育・教育機関

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
コーディネーターがいたら良いです、児童、障がい、高齢者、外国人にそれぞれ対応できる各専門の方。現場は本来の業務で多忙で思っている目目の前のことで手一杯です。コロナ禍となると制約条件もそれぞれあるでしょうし。	困っていたらできることは協力させていただきますが、不登校の情報はなかなか入りづらいです、たまたま親御さんがカミングアウトとか。時々保育園の活動を手伝ってくれたらなと感じています。
このコロナ禍で判断が難しい。	ゆとりが無い。
情報の共有。定例的な話し合いの場。上下のない関係。	定例的な話し合い。一方的ではなく、参加した方全て話せる場。
情報共有の難しさ。個人情報の取り扱いの難しさ。	利用可能な社会資源の提案を行い、本人の同意があれば「事前にこちらから概要をお伝えしておきますね」と本人目線だけではなく情報を伝える。
担当者の意識。	やる気のある人がその部署に行けるようにすること。
ひとつの組織だけではできないことばかりです。さまざまな分野と関わることが子ども達の成長には欠かせないことだと思います。	無回答
支援センターの拠点会議を行ってきたことによって、ここ数年、私立の支援センターと市内のセンターのつながりを感じます。そこで気になる子(支援、見守りが必要なご家庭)への共通理解等につながっていました。情報共有だけでなく各々の職員が機関を越えて話し合うこと。	定期的な会議。市民の方々に対してもさまざまな機関(公立、私立混合で)で開催するイベント。
小学校との連携は必要だと思うが、それ以外の組織機関とはあまり連携の必要性は感じられない。	無回答
お互いの専門性の理解と共有	ディスカッションや交流会を通した「互いを知る」ための方略が大切だと感じます。
現時点での勤務状況が多忙で、他に目が向く余裕が無い	無回答
行政へどの程度で報告したらよいかわからないので連携がとれないことがある	簡単なアンケートや報告できる機会を行政の方から案内していただいたり、定期的に聞き取りをしていただくと答えやすいです。
入りやすいシチュエーションをつくる！	いかに市民に、愛県心、愛市町村心を植え付けるか。普通ではダメ。それがないと、誰かがやってくれるという日本人の今のダメな意識は変えられない。
保育所と小学校との交流の場が少ない	保育所と小学校の交流機会をコロナが落ち着いたら増やしていけたらいいと思います。
つながりを密にしていく	無回答
地域全体で子ども達を見守って行くために、各分野の方と顔合わせや話し合いをする場を市がつくってくれるととても良いと思う。	子ども達を危険から守るために勉強会や訓練を行ってもらえればと思う。
お互いの活動内容を知るために出向く、もしくは情報の提供など。	無回答
互いの活動内容の把握。	垣根を越えた対話の時間を作る。
外部との関わりは大切ですが、これだけ感染者数が増加していると慎重になります	模索中です

■団体区分：医療機関

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
トップの短期間での交代により折角の絆が無くなる。	無回答

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
誰目線、何目線での連携なのかの共同理解	無回答

■団体区分：市で働く専門職

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
各関係機関ができることをそれぞれが共有しきれていない。	上記を共有するとともにケースに応じての役割分担などケースカンファレンスをきちんと行うこと。
顔の見える関係が充分にできていない。	関係者の連絡会等を積極的に開催していく。
市役所に於いては各部署が高度な専門知識や技術を持って業務に取り組んでいる一方で専門外(別部署)の業務に関しては敬遠することもあり、連携にあたっての課題となっている。各分野が共通する課題について我がことのように思って業務ができると良い。	本市では地域共生社会の実現に向けての取り組みとして「地域共生社会展」を令和 2 年度から行っている。展示を行うに当たり、部を超えた交流もあり各課が地域共生社会の実現に向けてどのような取り組みをしているのか共有することでお互いの業務理解に努めている。
日頃から事例研修や支援会議等で協力体制をつくる必要がある。お互いに連携するメリットや注意点など共通理解を図ることが大事。	無回答
他分野の制度理解がされていないことにより、適切に連携を図ることが難しい。	研修等を通して、他分野の制度理解をした上で適切な連携を図る。常日頃から情報共有を行う。
連携することと、丸投げすることは違う。丸投げの方が多い。担当ではないと言われ、対応してもらえない。担当業務をきちんとやっていただけない。	情報共有をしながら支援方針を統一し、関わっていく。担当課だけで動くのではなく、一緒に動くことも行う。共通認識、共通意識をもち行う。
縦割りの部分がある。	無回答
第1層協議体、第2層協議体などその組織の中でも縦割りで話し合っている。縦割りでなく取り組む。行政の仕事が細分化され、自分の担当以外との関連性をみる広い深い視野が求められる。経験者の伝達がされていない。市民の方がつながりを分かっている。	とりあえず、市職員は市報や議会だよりを熟読してほしい。上の人の意向を市民に伝えるのではなく、市民の声を上に拾い上げてほしい。(一部、上に近い人だけの特権になっている)。
各分野の業務や制度について分からないことがある。	関係者で会議や研修会を行う。
今はコロナ禍なので、難しいとは思いますが、機会があれば地域ごとに各関係機関が集まってディスカッションできると良いと思います。さまざまな課題に関する情報共有があると良いです。	無回答
特定の人に頼る連携しかできていない。	無回答
担当分野でないと分かったら、すぐに丸投げする体質の改善。	担当や専門性も大切であるが、福祉という考え方に基づき、アセスメントを行い、課題や困っている事を把握する。同時に、関連機関の動きや担当する業務も把握したうえで、担当部署に連携を求める体制にする。
ボランティア団体が市を支えているという認識が薄い。	日常のボランティア活動を紹介できる SNS ネット配信
連絡系統に無駄がある。連絡時、各関係機関ごとのこだわりを重んじる古くからの風潮。(社会)問題解決に対する職員の意識。	第三者による事務改善介入と、匿名式の内部アンケートなど。
他人事のように考えている人がいる。「難しい」とだけ言ってやろうとしない。自分の仕事ではないと言って連携しない人がいる。	方向性の共有をする。そうなったときに八方塞がりにならないよう、支援者を増やす。支援者同士が垣根を越えて集まれるような場をつくる。(顔が合わせられるような場)
似たような機能を持つ機関との連携の仕方。例えば発達検査を発育発達センターと教育相談のどちらにつなぐか、など。	無回答
各機関の業務範囲をある程度明確にした上で、フォローし合うこと。押しつけ合いにならないこと。	自身の所属および関係機関の業務範囲を理解し、フォローし合うこと。

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
関係機関や地域資源の情報不足により、連携につなげられないこと・連携の舵取りをする機関、キーパーソンの設定について	市が関係機関や地域資源の情報を適切に集約し、その活用や連携について提案したり、促したりしていくこと・連携の実情や課題について、地域の声を定期的に吸い上げ、議論や検討をしていくしくみづくり

■ 団体区分：地域福祉活動関係者

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
パート、介護、子育て中等と時間的に余裕のある人ばかりではないので困っています。	できる時にできることとか登録制度があったらと思います。
地域共生社会の実現に向け、当市に於いても協議体による取り組みが始まり、一部地域では着手していますが具体的な活動が見出せない状況です。これまでの論議の成果を具体化するための場所の確保も課題の一つになってます。支え、支えられる社会への構築に向けて支援の輪を広げること。	住民が気軽に立ち寄れる場所があると良いと考えます。空き家や空き店舗、学校の空き教室の活用などありますが実現にはいろんな問題があって時間を要すると思います。高齢者も参加し易い分館や自治会館などの定期利用ができると嬉しい。
横断的な連携は必要ですが、課題については解りません。	無回答
各分野の関係機関の連携がまだまだ十分でないと感じています。市役所が中心となって連携強化を期待しています。	可能な限りの情報共有。
それぞれ各関係機関の立場を理解し合う。	定期的な情報交換が有ればと思います。
セクト主義を捨てられるか。	素晴らしい職員の配置、養成。
各分野の関係機関の活動実態を知る必要がある。	地区定例会に於いて各分野の関係機関よりプレゼンしてもらう。
行政のタテ社会的な部分が連携するに当たっては一番の壁(障害)だと思います。	無回答
再犯防止、立ち直りの援護には「司法と福祉の連携」が欠かせません。	市が音頭を取って、保護司と民生委員の交流の場をつくっていただけたら嬉しく思います。
どの団体がどのような役割を果たすのか、それを話し合う場や取りまとめる組織が必要である。また、どのような課題があるのかを把握していかなければならない。	どこかの団体に責任や役割を担うのではなく、各団体が自分ごととして責任を持って連携していくことが必要である。長、リーダーを決めず、皆がリーダーとしての心を持つように努力をしていく必要がある。
担当者の時間や行動のキャパがあるか否か。	1.町会役員や班長は少額の報酬は約束されているが、ある問題の解決のため、時間や行動があった場合は、それなりの物的(金銭的)インセンティブが必要と思う。 2.解決事例の市からの情報提供。
今いるその場所を、一事が万事、大切にできることを皆で頑張っていく姿勢を身につけたい。子どもだから、大人だからと条件をつけず、人としてしっかりと生活していきたい。	自分たちのまちに自信をもって、良いまち・良い人々が生活していること。これを誇りにできるよう、どんどんアピールしたら良いと思う。
地域共生社会の実現のための「支え合い」の部分で未だに無理解な状況である。地域社会で心にゆとりがなければ難しい。例えば、小さなことですが、条例があってもエスカレーターは未だに歩行、右側に立っていると白い目で見られる。	教育現場での協力。
縦割り社会の弊害は以前から言われていることですが、まず行政からその垣根を撤廃し、範を示して欲しい。	慣例にこだわらない、自由な発想をもち、努力する。自分自身、半年経ちましたが、枠に囚われない情報入手ができています。何度も言いますが、情報の共有化が肝要ですね。
個人情報の共有が難しい(個人情報保護の壁)。	日常の交流を通じて、情報交換と連携を深める。
お互いの情報がない。知り合えない。	無回答

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
いろいろな関係機関の団体の方との話し合い、情報交換を持つことは大事なのですが、その話し合いの場から地域の方々へ広がりを持つことが難しいと感じている。	無回答
人材発掘。町会、自治会の役員のなり手不足。民生委員のなり手不足。	なり手不足と言うが、私は、発掘ができていないだけだと思います。町会長さんが一人で責任を持って、なんでもやろうとしている。本当は、協力する人はいると思います。理事になった人でできそうな人に、クリーン推進委員になってもらったり、保健推進委員、社協のサロンのボランティア、また、見守りチームの見守りする側になってもらい、どんどん地域に引き込んでいく。定年退職した人をキャッチして誘ったり、また、上福岡二丁目では、新しく引っ越ししてきた人に何気なく、町会に勧誘して、若い人の参加を心がけています。そのためには、簡単に来やすい庭でのクジ引き大会とか、ハロウィンのイベントを開催して若い人の参加を心がけています。
それぞれが忙しいため時間が合わず思うように進められないこと	それ専門の部署を作るなど
市全体で連帯するには、どうするか思いつかない。難しい問題です。	？
行政の対応や取り組みについての内容が不明。	無し

■団体区分：NPO・ボランティア団体

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
行政や社会福祉協議会等のリーダーシップ研修会、現場見学。	他市との交流、訪問など。
コミュニケーション障がいの合理的配慮。	手話・筆談での対応。
在日外国人への興味、関心、正しい情報が共有されていないので、NPO 等に任せてしまうことが多い。	地域を巻き込む国際交流、イベントの開催等
相互理解。自身の考えや価値観のみを押し付けず、相手側の考え価値観を理解し、よりよい道を探していく。	無回答
連携するためのキーマン(キーとなる組織)がなく、連携は関係機関の個人に頼っている	連携するための組織をつくる。子ども食堂の時に「よろず相談所」としての旗を掲げており、相談があった場合は、必要な部署につなげようと思っています。今後、「みんなのおうち」という多世代の居場所づくりをしたいと考えています。
連携の中心がどこにあるのかがわかりにくい。中心組織に連携へのきっかけをつくっていただきたい。	市が中心となり、分野別の関係組織の連携構築を行っていただいたうえで組織を横断するワーキンググループをつくってほしい。

■団体区分：無回答

問 10 連携にあたっての課題	問 11 解決アイデア
情報共有のフォーマット、開示できる範囲、参加できる機関の選択。	無回答
連携していくためには、お互いに話し合い、壁を取っていくことかと思っています。	お互いに理解していくことかと思っています。
他分野の関係機関の活動を知る機会がありません。	共通する分野や他分野での活動を共有できる研修など数年に一度でもあると良い。

問 12 その他市に対するご意見・ご提言等ありましたらお書きください。(自由記述)

■団体区分：福祉事業所

内容
市役所のCWさんは本当に大変だと思っています。各事業所に簡素な情報紙で会議の予定やその他情報等を配ってもらえるとありがたいです。
いつも大変お世話になっております。さまざまな場面でのご指導、ご助言をいただけて有難く感謝しております。小さな事業所で未熟者ですがひきこもりの方に対してまずはこんな所もあるよと1日でも体験していただけたら少しでも先が開けるのではないかと御利用されている今のメンバーを見ていると思ってしまう。受給者証はその後でも良いのかと思います。
さまざまな係、事業所の方々が相談者の方に寄り添い支援者する姿を見るにつけても頭が下がる思いです。
障がい者がホームを出て生活しようとする時に部屋を借りるのが大変です。家主は表には出ず不動産屋さんがやんわりと断って来る。「夜中に大きな声を出さないか心配」などと平気で言ってきて偏見が根強い。啓発などに力を入れて欲しいし、力も貸して欲しいです。
もっと気軽に相談できる窓口を広げていただきたい。相談したいことに関して、一緒に携わっていただきたい。介護保険の情報開示を依頼する時に、他の市町のように窓口へ行けば、すぐに対応して発行していただけるようにしてほしい(今はいちいち予約の電話をして、時間制限されている)。
ぜひ今後ともご指導をお願いいたします。
いつもありがとうございます。連携などについては近年話題に上がり、集まりが設けられる場面が増えて来ていますが、集まっただけで終わっていることが多いです。正直それでは忙しい時間を縫って集まった人たちは次を期待しません。行政の方も忙しい中で調整して会を設けていただいたのにも関わらず、労力に見合わない結果になってしまうと思います。何を話題にし誰を招集してどんな連携がしたいのか、今回の情報収集を活用していただきたいと思います。
福祉施設利用に対し、柔軟な対応(当事者、ご家族優先)を行なっていただきたい。法、事務手続き優先では、それぞれが抱えている問題の解決はできないと考える。また、窓口で相談を受けた際には、その問題解決の目処がつくまで対応していただきたい。パンフレットや施設の案内を行ない、自主性に任せるのではなく、しっかりと案内または、施設・組織の利用までつなげてもらいたい。当事者から「何度か市役所や、センターに相談はしたことがあるが、充分な知識がないままに、自分で選んで下さいと言われた」と、頻繁に耳にする。
ふじみ野市におかれましては、近隣の市町村よりも連携が取れているのではないかと存じます。課題は多いかと思いますが、これからもご尽力をお願いできればと存じます。これからも何卒宜しくお願い致します。
センターが機能することを期待しています。
民間の企業なので、経営は各企業の責任だとは思いますが、現状の国からの報酬だけでは、非常に運営が厳しく、療育よりも経営に舵を切ってしまう福祉サービスが多いように思います。当事業所も経営が厳しく、利用している児童たちを守るために各所を走り回っています。市からの補助金等があれば、非常に助かります。
在宅の認知症高齢者に対する支援策のうち、安全面での支援策を優先して実施していただきたい。 例)GPS 機能付きのシューズ等、徘徊対策品の支給
海外から来て住んでいる方への対応について少し足りていないところがあったなと感じたことがありましたので、訪問以外にも利用できるものの幅を用意してあげてほしいと思います。また生活保護の方でもあったので困っている部分をすぐに対応できるようにしてほしい。
こういった機会があり、気に留めていても文字にしてみると振り返ることができました。ありがとうございます。
大変お疲れ様です。
一般市民の活動に興味をしめして、お休みの日でも見学、参加して下さい。

■団体区分：保育・教育機関

内容
幼稚園運営に対する支援の充実をお願いします。
沢山の案件をこなしていくだけで日々大変かと思っています。特に福祉分野はご自身の精神的なバランス崩してしまいそう。そしてコロナ禍。人が人に寄り添うことで優しく豊かな時間を心掛けたいですが、「福祉」や「支援」の名のもとで営利な児童発達支援事務所が増えています。トラブルはないのでしょうか。利用されているお子さんの保護者は子育てのイメージなく必死ですから巻き込まれないといいなと感じています。
保育課さんや児童発達・発達支援センターさんにはいつも大変お世話になっております。丁寧に対応していただき感謝しております。

内容
子育て親子の支援施設ですが、小さな頃から多様な人との関わりを持つ機会をつくれたらと考えています。高齢の方などの団体様と一緒に子ども達との関わる機会をつくれるように、橋渡し等を希望する。同じような支援施設、相談センターの方々と情報交換ができる場や時間の確保ができるとよいと思っています。情報交換できる場を増やしていただけると幸いです。
コロナ禍を理由にせず、子ども達の成長にとって大切なことをしてきたつもりです。保育課の皆さんにいつも助けていただいたり教えていただいたりしています。感謝しています。
今後ともご指導よろしくお願いいたします。
とくにありません。これからもよろしくお願いいたします。
失礼な回答もあったかもしれませんが、個人としては、ふじみ野市はとても良い市だと思っております。何より、他の市でもない、ふじみ野の学童にこれからもこだわり全国の模範になるよう日々努めてまいります。
たくさんの子育て支援を受けるべきご家庭に有益な情報提供や安心できる場所をして尽力したいと考えております。そのためには当施設を知ってもらう必要があります。今後も市報記載や情報メール送信などご協力をお願い致します。
新型コロナ対策で規制が多く、積極的に活動ができないことが続いております。コロナが落ち着くことを切に願っております。今後ともよろしくお願い致します。
ふじみ野市が、子育て支援へ力を注いでくださっていることに感謝しております。私立幼稚園ができることを提案していただくことも今後の園運営の参考になります。今後ともよろしくお願いいたします。

■団体区分：医療機関

内容
税金や人材の有効活用。

■団体区分：市で働く専門職

内容
福祉事務所の人材育成と人員体制の強化に於ける組織的対応。
今後とも各課と連携をさせていただければと思いますので、よろしくお願い致します。
各団体、専門職のレベルに差があるため、研修を行ったり、顔の見える関係をつくっていただけたらいいと思う。
形をつくる体制になっている。その中で地域福祉課は幅広く取り組んでいると思っています。職員の皆さまが同じ立ち位置で参加活動していったらいい。一緒に取り組む。以前に市民活動交流会のグループワークに市職員の皆さまが同じテーブルで参加して、まちづくり提案をしてくれました。
人手が不足しているので増やして欲しい。
地域福祉においては他業種での連携が大切になると思います。違う分野からの意見等も意外と参考になることもあるかと思うので、是非横断的な連携ができるシステムをつくっていただきたいです。
どの分野においても同じことかもしれないが、人材育成を課題に挙げることが多いが、勉強した知識だけでは育成されることはなく、自身の経験が伴わないと技術は上がらないと考える。横のつながりが増えることは、一見して仲間が増えることで解決に近づいたような思いになるが、実は、関わりを薄くできる理由付けにもなることを理解する必要がある。各人がコーディネートできる技術を持って初めてネットワークは機能するものだと考える。
ボランティア団体のみなさんは市内の課題に生き生きと取り組んでいる。もっと誇りを持って活動できるよう周知していきたい。
問9について、すでに多くの他機関と連携をしています。

■団体区分：地域福祉活動関係者

内容
職員の皆様の研修講師としての週末の事業参加等があれば嬉しいです。町会活動や支部社協活動にボランティアとして参加している立場で感じます。
民生委員の件ですがなかなか引き受けいただける方がなく、お願いしに上がっている時間がかなり多く大変さを感じています。町会役員を探すだけでも大変苦労しています。役員選出に係る事項については本当に大変ですので良い解決策がありましたらご教授下さい。

内容
どの団体も人選にはすごく苦勞をしていると思います。何年にもわたり、欠員のままで活動をしているという状況は良くないことと思います。
保護司を「縁の下の方」にしないでください。保護司活動が誇れる社会こそ「明るい社会」だと思っています。
1.市からの助成金等の増額。2.解決事例を市が、市内及び他都市の事例を収集して提供して下さい(市の広報等で提供)。
民生委員について。市から民生委員への情報は伝えられていますが、民生委員を送り出した町会へは何の情報も伝えられず、彼らが何をやっているのかさっぱり分かりません。市役所から町会へ伝えてはいけないのでしょうか。民生委員の方とも頻繁に会うこともないので町会(町会長)は困っています。
一人のできることはたいしたことはないが、普通に物事が進んで行くこと、これが一番幸せなんだと思う。「普通」を当たり前と思わず、有り難いと思えるような余裕を持ちたいです。
職員の教育。
特にありません。的を射た解答になっていない部分もありますことをお許しください。
地域で活動している一自治会にとって、なかなか回答できない難しいアンケートでした。次はもっと回答し易いアンケートを！
コロナ禍での活動であったので、まずは今までの活動をとりもどすことが先決であり、通常の活動ができるようになってから、地域を越えたさまざまなことに思いを向けて行きたいと思う。
福祉部 地域福祉課 地域福祉係の対応が不明。民生委員に対する、指導が不明確。

■団体区分：NP0・ボランティア団体

内容
担当者が変わるにより市の行動が大幅に変わって困惑している。
障がい者に関する事業所等が一堂に集まる場をつくって欲しい。
ボランティア連絡協議会は毎年、現場見学のバス旅行を行っております。市役所の職員の方々にもご参加いただければ幸いです。今年は素晴らしい取り組みをしている小山市のパスヘルホームに行きます(3回目)。
バス(ふじみ号)を増発してほしい。上福岡地区から大井地区へのルートを希望。市役所へ行くルートを希望。バス停に屋根を設置してほしい。高齢者や障がい者に割引(または無料)を。
市からの情報提供が少ないため、分野ごとの連携が速やかにできない。市としての方針を明確にした上で必要な情報提供を各法人に広く開示していただき、活動に必要な予算を付けていただきたい。

■団体区分：無回答

内容
大型ダンプカーの幅員狭い川沿いの道での住宅接触事故(2 軒壊れる)に於いて、看板がないから起きたとの理由に、すぐに看板をたててもらいたい(市に)した所、すぐにたてていただき、地域としてホッと致しました。

IV 関係団体ヒアリング調査の結果

1 自治組織ヒアリング調査

1 調査の概要

地域におけるコミュニティ活動の中心的役割を担う自治組織に対し、地域の現状と課題、取り組み事例をうかがい、次期地域福祉計画の検討に向けた基礎資料とすることを目的として、自治組織連合会役員を対象とするヒアリング調査を実施しました。

■調査設計

調査対象	ふじみ野市自治組織連合会役員(12名)
調査期間	専門職・地域福祉活動関係者調査票配布: 令和4年8月～11月18日 ヒアリング調査: 令和4年11月30日(自治組織連合会役員会終了後)
ヒアリング方法	グループヒアリング

2 ヒアリング結果

【コロナ以降の自治組織活動の状況や、活動を行ううえで困っていること】

- 全体的にイベントは減っているが、過去にとらわれず、工夫しながら新しいことを実施しようと苦勞している。今後もっとスムーズにできるようになると良い。
- この季節は忘年会をやるのが通例だが、70 人前後のものはコロナ禍では実施できないため、先日コンサートを実施した。変わるものがなにかと考えたが、難しい。
- 後日、津軽三味線の演奏会を実施する。感染症対策のため飲食の場は設けず、老人クラブなどの会とともに、高齢者に外に出ていただくために計画する。
- グラウンドゴルフを実施している。コロナ禍で実施して大変だったが、今後も実施していく。
- 以前は夏祭りに集中していた。今後もやっていきたいと思っている。盆踊りの踊り手がいなくなっており、学校と相談して、盆踊りの継承のため、中学生に教え、次は中学生が小学生に教える。自治組織と学校が連携して、学校で継承する力を養ってほしい、という依頼をしている。

【多様な機関との連携について】

- 連携の在り方という総論的なところを行政でも検討いただきたい。
- 学校運営協議会のように、双方が Win-Win の関係にあることが望ましい。学校も地域を欲しがっている。例えば先日のコンサートでも、演奏する中学生を見て、あんな風になりたいと地域の小学生が目指してくる。地域からは学校の環境整備や、見守り、昔遊びの時間を提供することができる。人員等が不足しており、こちらにもメリットを感じるようなものを優先的にやっていくという考え方に変えていかなければ、活動が難しくなっている。支部社協からのお願いなど、一方的なお願いをされても、難しい状況である。

【自治組織活動の存続について】

- 働く年齢が高齢化しており、地域の担い手が仕事をしている状況である。自治組織の責任者は、できる人は勤めをしながらでもできるが、今までやってきたこと全てを継承するのではなく、状況に合わせ、責任者になった人ができることを考えていく形を取って行きたい。
- 65 歳くらいの人が役員を担っても、パソコンが使えないとのことで、会計を委託することを考えている。現金と帳簿は担当者が責任を持ち、貸借対照表などはできる人に任せるなど、検討している。役員会の回数を減らすなど、負担の在り方を考えている。役員会も毎回必ず対面ではなく、データ通信でも開催できるため、やり方を変えていきたいと思っている。
- 各班や組、長の順番が回ってくるからと、退会する人が出てきている。そういう人がいなくても、やれる方法を考えていきたい。できる人に受けていただいているが、詰まってきてしまう。

2 社会とのつながりづくりに向けたヒアリング調査

1 調査の概要

地域の活動拠点や就労支援に取り組む団体・市内事業所等を対象に、社会的な孤立のリスクを抱える人等が地域や社会とのつながりを持ち続けるための支援（参加支援）に関する課題や連携方策の把握することを目的に実施しました。

■調査設計

対象団体	【地域の居場所づくりに取り組む団体】 ●（一社）彩の国子ども・若者支援ネットワーク(子どもの学習・生活支援業務受託業者) ● 認定栄養ケア・ステーションほほえみーる ● わくわく食堂((特)わくわくみらい応援団) ● コミュニティ広場にこまる 【就労支援団体】 ● ジョブスポットふじみ野 ● ふじみ野市ふるさとハローワーク
対象者数	専門職・地域福祉活動関係者調査票又は事前シートを配付し、結果を踏まえてヒアリング
調査期間	事前シート配布時期:令和4年10月下旬～ ヒアリング実施期間:令和4年11月中旬～12月上旬
主な調査項目	○社会的な孤立のリスクを抱える人等がつながりを持つための支援に向けた課題 ○既存のサービス等では対応できない(制度の狭間の)問題・解決アイデア ○新型コロナウイルスの影響で顕在化した地域の課題・解決アイデア ○他の団体との連携状況 ○市との協働 ○行政に期待すること

2 ヒアリング結果

【活動を通じて感じる地域の課題・新型コロナウイルス感染症の影響】

(一社)彩の国子ども・若者支援ネットワーク	－ 高校中退者、不登校の生徒、保護者の居場所や交流できる場所が少ない。 － 小学生には児童館があるが、中高生になると居場所が減ってしまう。結果お金もなく家にいるという子がいる。適応指導につながっていれば良いが、そうでない子もいる。 － 教育相談室が市役所の隣にしかなく、大井エリアの子の利用が不便。 － 登録はあるが学習教室や訪問学習にはつながりづらいお子さんがいる。家庭訪問を拒否されたり、勉強は無理ですと保護者に言われてしまうケースもある。 － インターネット上を居場所に行っている子が多くみられる。身近な地域でのコミュニティが必要だと思う。 － コロナの影響で公民館のロビーなどが使用できなくなった。公共のフリースペースなど、自由に行って勉強したりする場所がないことが課題。 － フードバンクの食べ物を活用し、「気にかけているよ」という関係づくりのための訪問ができています。感染したという情報があれば、それに合わせて食料をお届けしたりもしています。
-----------------------	---

認定栄養ケア・ステーションほほえみーる	- 核家族が多いので、いろいろな世代の関わりの場になったら良いと思うが、方法が難しい。 - 食べることで癒されたり、他人なら言いやすいような不安や愚痴をこぼしたりできる場になりたいと思うが、発信の仕方が難しい。この場に限らずだと思うが、本当に来てほしいと思う人には届いていない。
わくわく食堂（(特)わくわくみらい応援団）	- コロナ禍で失業して困っているパートの母親がいらっしゃった。シングルマザーの利用が多く、フルタイムで働けないからパートをしていたのに、飲食店などで営業ができず、家賃も支払えないという、切実な状況であった。市の支援制度なども知らない方が多い。孤立していて相談先がわからないなどの話がある。
コミュニティ広場にこまる	- 外国ルーツの家庭で、小学生や中学生の子しか家族に日本語がわかる人がいない状態など、苦慮されているようだ。 - 自閉症で座ってられない子、食べ物を手で食べる子、食べにも行けない子、母子分離ができていない親子など、さまざまな子どもがいて、大変な思いをしているようだ。 - 子ども一人で食べている家庭が多く、活動をしていると初めて食べたメニューがある、家族と一緒に作る経験がなかったというような子がいる。
ジョブスポットふじみ野ふじみ野市ふるさとハローワーク	- 雇用側は若い人材を求めるが、求職者側は中高年齢者が多いというミスマッチ。求人情報上は年齢不問となっても、会社のなかでの基準が密かにある現状。 - 就労継続支援B型以上に働けるという人でも、次のステップは 20～30 時間以上の働き方を求められてしまう。週3日で午前中だけなど、中間的な就労が望ましいが、そのような求人は少ない。少数派なので、なかなか次に届かないことが多い。 - 生活保護受給者の就労定着が進まない。仕事に行かなくなってしまう人は多い。その後は個人差があり、同じような職種で別のところを探すということを心掛けているが、自信喪失して相談に来なくなってしまう人もいらっしゃる。紹介先を辞める前に、必ず相談に来てくださいと伝えるが、事後報告になる方もいる。 - 発達障がい疑われる人が、病識がなく受診せず、手帳がなく、制度の対象にならず就職活動がうまくいかないケースがある。遠回しにお伝えしても、怒ってしまう方もいる。若い人が多く、当法人につながっていても利用できる枠がなく、本人が一番苦労されてしまう状況。 - 新型コロナの影響で、若い人がよりネットなどで仕事を探すようになり、より窓口に来なくなったと思う。高齢者は窓口に来る傾向が強くなった。対面相談を避けていただいた時期もあったので、それで離れてしまった求職者もいるのだろう。 - 不況で求人件数が増えてこないで、制限のあるなかでできる仕事というのがなかなか見つからず、仕事探しが長期化しているという問題になっている。 - 困窮しており目先の収入（日払い・週払い）がほしい人が増えたが、ハローワークでは長期安定的な仕事の紹介を主としているので、マッチしないことがある。

【孤立のリスクを抱える方に対して団体・事業所ができること】

（一社）彩の国子ども・若者支援ネットワーク	- 学習教室だけでなく家庭訪問や電話相談（食糧支援・相談支援）、訪問学習等で保護者やお子さんとのつながりを絶やさないようにしている。 - 有益と思われる冊子やチラシ等の配布。 - 学習教室でのイベントなど、参加者同士の交流の機会を作る。
認定栄養ケア・ステーションほほえみーる	- この場をきっかけに友だちができたり、自分のやりたいことを見つけて、講座を開催するようになったりする人もいて、新たな活動の場につながっている。 - 麻雀やものづくりなど、スタッフが教えられないことでも、参加者が講師・指導者になってくれるケースもある。

わくわく食堂 ((特)わくわく くみらい応援 団)	- 「子ども食堂」は、本来は子どもたちの居場所であるが、保護者を含めて孤立を防止する観点から、「家族で食べられる子ども食堂」に努めている。必ず保護者の方と会話を交わすことにして少しでも「つながり」をつくるようにしている。
コミュニティ 広場にこまる	- 学童、幼稚園、保育園、地域の方とつながりを持ち、必要な時に動ける体制を取っておく。 - 周知活動に努め、前を通ったら一目でわかるような掲示物を置いている。 - 公式ラインを通じた個別相談等がしやすい身近な存在になれるよう少しでも話せるようにする。
ジョブスポッ トふじみ野 ふじみ野市 ふるさとハ ローワーク	- 高齢者は働きたい意欲も熱意もあるので、雇用側にアピールしている。高齢者は特に「通える範囲」という制約があり、選択肢が狭くなってしまうこともある。採用につながるケースも、つながらないケースもある。 - 生活保護受給者と雇用側に開示すると支援制度の対象になるが、開示すると、雇用側に生活保護受給者に対する先入観があり採用に至らないこともある。開示しない結果、採用後の介入やフォローもできず、いつの間にか辞めてしまっていた、ということもあり、本人への連絡はできるが会社に対して連絡を取る理由付けがない状況なので、難しい。

【連携して取り組んでいること・取り組みたいこと】

(一社)彩の 国子ども・若 者支援ネット ワーク	- 市関係各課や市内中学校等と連携をし、実施している。他の自治体では教育部門との連携が難しいため市はそれができることがありがたい。 - 発達障がい等の傾向があると感じて、自分たちから保護者に伝えたりすることはできないため、児童発達・発達支援センターとの連携により、関わるうえで知っておくべきことなどが知れたらありがたい。 - CSW と情報共有ができると良い。ヤングケアラーなどは学習支援だけではフォローができず、ケース会議で方針が定まるとよい。 - 学習教室のほかにも居場所が必要であると思われる子を、他団体への居場所へとつなげていきたい。
認定栄養ケ ア・ステーシ ョンほほえみ ーる	- 自治会、民生委員さん方との情報共有をしたい。 - ボランティアさんの協力を得たい(例えばぴんしゃんサポーターのような形)。
わくわく食堂 ((特)わくわく くみらい応援 団)	- 関係者がPTA連合会や社会教育分野と関わりがあり、事業開始の際、学校を通じてチラシ配布をすることができたので、現在の活動が普及したと思う。 - 埼玉県の子ども食堂ネットワークを通じて、お米などを大量に寄付してもらうことがある。悪くなる前に提供できるよう、産業祭で出店し、資金の調達にもつながった。 - その際のたいやき機も閉業したお菓子屋さんからいただいたもので、焼き方を練習しているときに教えに来てくださった。
コミュニティ 広場にこまる	- 子どものイベントごとができなくて寂しい思いをしていると思う。何か子どもが楽しくなるようなことをやるためにつながることができたらと思う。 - まだ知られていないためかパントリーの利用者が少ないので、他団体と連携し、必要な方に適切な対応や支援をできるようにしたい。

ジョブスポットふじみ野市ふるさとハローワーク	– 市のふくし総合相談センターよりそいとは常に連携している。精神障がいの方は週 20 時間の就労ではハードルが高い場合があり、障害者短時間トライアル雇用制度として、10 時間以上 20 時間未満の契約で1年間慣らししていくということも行っている。求人票に明示されていないといけませんが、雇用側に対し、この制度の周知が行き届いていない。 – トライアル雇用は高い確率で常用雇用につながっている。要因として、就労支援機関が間に入っていることが大きい。就労支援機関のバックアップがある人の方が、企業側も雇用しやすい。
------------------------	--

【団体の活動上の課題・人材確保に向けた取り組み】

(一社)彩の国子ども・若者支援ネットワーク	– 常勤スタッフに加え、ボランティアが増えており、人員の確保はできているが、理念の共有や、スキルアップに課題を感じており、年1回のボランティア研修を行っている。 – スタッフのバランス感覚が必要で、「勉強がしたくない時はできなくてもいいんだよ」という、長い目で子どもと向き合いつつ、背中を押してくれるような人材がいるとすごくありがたい。子どもが安心して過ごせるかどうかを大切にしている。 – 市や社協等からの周知により、地域の方が学習支援ボランティアになっている。子どもの気持ちに寄り添いながら、学習支援を行っていただき、ありがたい。
認定栄養ケア・ステーションほほえみーる	– 幅広い年齢層だが、利用者は 60～80 歳代の高齢者が多い。今まで参加していた人が免許返納で来られなくなってしまい、代わる手段が必要。ふじみん号があっても本数が少なく、思うように利用できないという人がいる。
わくわく食堂((特)わくわくみらい応援団)	– 人力的な理由のほか、物理的に席がないので現状は難しいが、利用枠を増やしてくれという要望が多い。申し込みはその日のうちにいっぱいになってしまう。 – 家庭の事情や会社の経営等でボランティアを続けられなくなってしまう人がいる。講演会を通じて、希望者が何人か来てくださるのでそのような場があるとありがたい。 – ボランティアは、特に年齢・性別は問わない。一緒にやっていただける方であれば誰でも良いと思う。
コミュニティ広場にこまる	– 活動を始めてからずっとお弁当配付やイベント開催等を行ってきたが、利用者とのゆっくり話す時間がとれない。 – ボランティアが足りていなく、特に夜間に人手不足になってしまう。世代を問わず誰でも来てもらえたら。それで元気になるという方もいらっしゃる。 – 本当は活動頻度を増やしたいし、ニーズもあるが、現状は手一杯な状況。利用者で手伝おうとしてくださった人もいるが、内部情報の関係でお断りしたところだ。分業できると良いかもしれない。 – 障がいのある人が体調に応じて手伝いに来てくださっており、手助けできるような環境にできたらいいと思っている。障がい者と健常者のふれあいの機会を設けたいと思っている。

3 中学生ヒアリング調査

1 調査の概要

本調査は、次代を担う若い世代が福祉に関心を持ち、地域共生社会の実現に向けた担い手となることができるよう、また、あらゆる世代にとって暮らしやすい地域を実現することができるよう、地域の課題の要因や背景を明確にすることに留意して実施しました。

■調査設計

調査対象	市内中学校に通う生徒 10 名程度(葦原中学校・大井西中学校)
調査期間	事前シート配布:令和4年 10 月上旬～中旬 ヒアリング実施:令和4年 11 月8日、10 日
ヒアリング方法	事前ワークシートを市より配布、その後グループヒアリング

このヒアリング調査では、市の東部地域、西部地域より一校ずつのご協力をいただきました。事前にワークシートを配布し、ご記入いただいたのち、ヒアリングの場で各自発表していただきました。発表いただいた内容を模造紙に取りまとめることで、参加者全員での共有を図りました。

2 ヒアリング結果(※両校共通の意見を太字にしています。)

【みなさんの住んでいる地域(自宅や学校の近く)について】

Q1 みなさんの住んでいる地域(自宅や学校の近く)のいいところ・悪いところを挙げてください。

	葦原中学校	大井西中学校
地域のいいところ	- あいさつをすると、返してくれる。 - 仲が良く、関係が深い。 - ボランティアや見守りをしてくれる。 - 商業施設の前の道がきれい。 - 静かで、公園など自然豊か。	- 人との関わりがある。あいさつ、お祭り多い。 - 公園・自然など落ち着ける場所がたくさんある。 - 消防署、体験ができる。 - スーパーが近い。 - バスや電車が走っていて出かけやすい。 - ボランティアをしている人がいる。小学生が安全に登校できる。
地域のよくないところ	- 道路が狭く、自転車が危険。 - 路上喫煙者やその吸い殻、ごみが散乱しているなどマナーが良くない。 - 飲み屋があつて賑わっているが、酔っぱらっている大人が怖い。吐しゃ物などもあり、汚い。 - 動物の死がいがある。 - 豪雨の際、浸水してしまった。	- 通学路が暗く、人通りも少ない。街頭が少ない。 - 道が狭いところがあり、危険。 - ガードレールが少ない、危ない。 - 街灯が木で隠れている。 - ごみや落ち葉が多い。管理されていない。

Q2 みなさんの住んでいる地域(自宅や学校の近く)で「困っている人」はいますか。

葦原中学校	大井西中学校
- 散乱しているごみなどを処理してくださっている人は大変な思いをしていると思う。 - 道路が狭いので混雑している。交通マナーも良くない。 - 不審者情報がある。 - 移動販売では足りず、坂を上らないと買い物に行けない高齢の方がいる。	- ハチの巣がたくさんある家。人が住んでいるかわからない。 - エレベーター点検のため階段で上り下りしなければならないお年寄り。 - ごみ拾いを若い人がやってくれない。 - おばあちゃんがひとりでごみ出ししている。 - ごみにネットをしても、カラスに荒らされる。 - 迷子になっている高齢者がいた。

Q3 あなたは、ボランティアやお祭りなどを通じて、地域の人(自宅や学校の近くに住む人)と話したり、関わったりする機会がありますか。新型コロナウイルス感染症の影響で、そのような機会が減った・今までと違うやり方になったなどがあれば、あわせて教えてください。

葦原中学校	大井西中学校
- 七夕祭りが中止となり、交流機会が減ったと思う。 - 餅つきがコロナの影響で活発ではなくなった。参加することを控えている人もいる。 - 郷土かるたは継続してできている。 - 会話が減ったと思う。あいさつくらいの付き合いになった。	- 清掃活動や餅つき、お祭りをやっていたが、コロナの影響でやらなくなった。 - 防災訓練、ボランティア活動もやらなくなった結果、公園が汚れてしまった。 - 長寿の会。消毒や検温、対策していた。地域の集会有很多。餅つきなどの会食はコロナの影響でなくなった。他のものを渡したりするようになった。 - 小学校に大学生が来てくれて、話す機会があったがコロナの影響で減った。 - マンションとの関わりがなくなった。 - 人通りが減った。帰り道に人が少ない。

【ふじみ野市内のことについて】

Q4 自宅と学校以外で、あなたが安心して過ごせる場所がありますか。ふじみ野市内であなたがよく使う場所やスペースなど、みんなに紹介したい場所があれば教えてください。

葦原中学校	大井西中学校
- 公園(福岡中央・西中央)。静かで落ち着くため。 - 学習塾。 - 図書館。 - 児童センター。スーツの人が優しく接してくれて、安心して過ごすことができる。 - 大井弁天の森。	- 図書館、マンションの屋上。勉強のほか、少しだけ一人になり、一息つきたい。 - 塾の自習室。勉強に集中しつつ、大人の目が行き届く。 - 習い事。

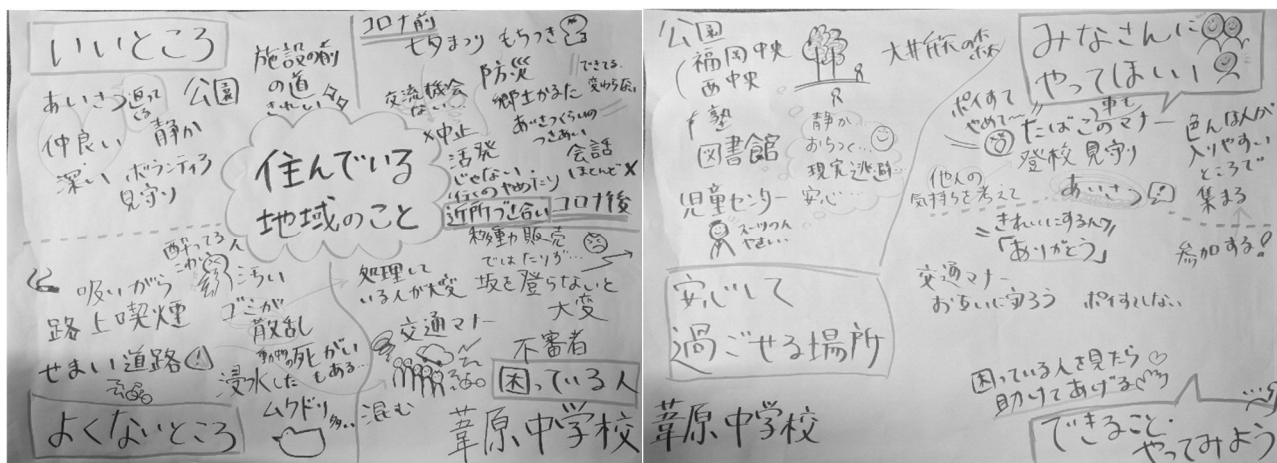
Q5 お互いに「つながり」、「助け合い」、「支え合う」ふじみ野市を実現するために、ふじみ野市で暮らす人たちにやってほしいことや、みなさんにできると思うことを自由に書いてください。

	葦原中学校	大井西中学校
ほに市 しいに ことで や暮 ってら す	- たばこや交通マナーを守ってほしい。ポイ捨てをやめてほしい。人の気持ちを考えてほしい。 - いろいろな人が集まりやすい場所でイベントなどを開催してほしい。	- マンションではあいさつを交わすが、地域ではない。 - 集会に参加する。 - 困っていたら、気軽に声をかけてほしい。

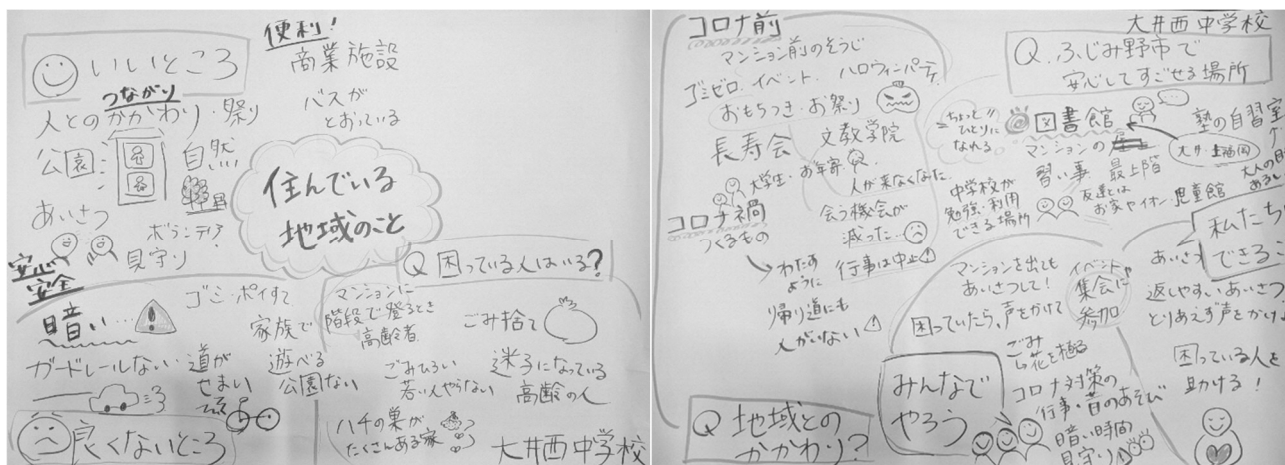
	- あいさつを積極的にしてほしい。	- あいさつを気軽に、返してほしい。 - 感染対策をして行事を復活させてほしい。 - 暗い時間の見回り、挨拶。 - 防犯パトロール。 - 昔やっていたことを復活させたい。 - 中学生が勉強したり利用したりすることのできる場所を増やしてほしい。
自分たちができること	- 清掃活動など、まちをきれいにしてくれている人に「ありがとう」と伝える。 - 交通マナーはお互いに守らないといけない。 - ポイ捨てをしない。 - 困っている人を見たら、迷わずに助けてあげる。まず声をかけてあげる。 - 地域のイベントに積極的に参加する。 - あいさつを積極的にする。	- 地域活動やイベントに積極的に参加する。 - 自分からあいさつをする。 - ごみ拾いに参加したい。 - 困っている人がいたら、声をかけてみる、助ける。

3 各学校模造紙

【葦原中学校模造紙】



【大井西中学校模造紙】

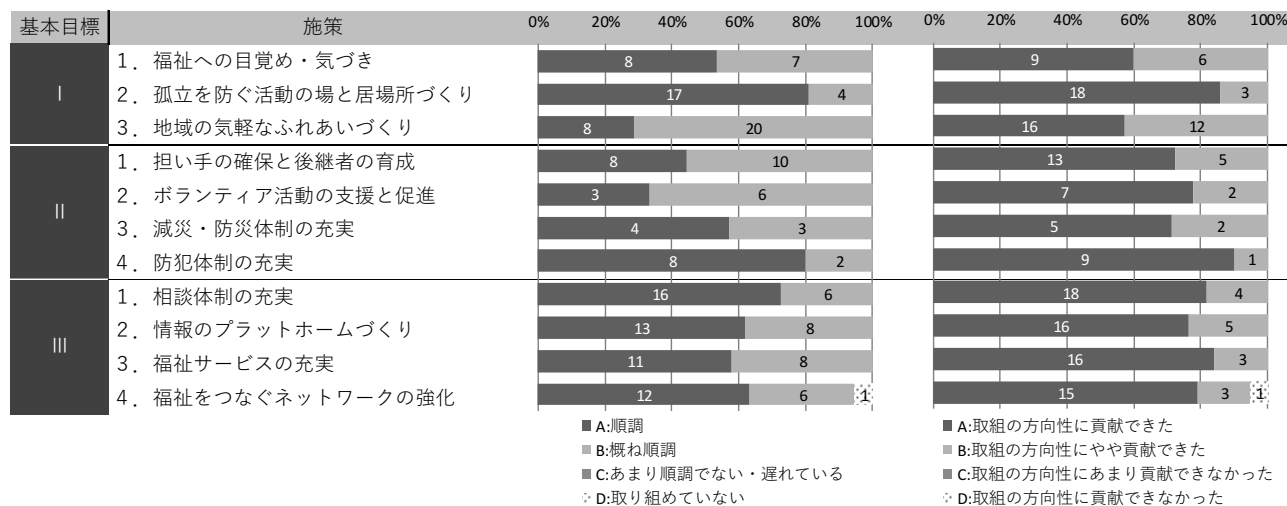


V 庁内関係課調査

「第3期ふじみ野市地域福祉計画」の策定にあたり、「第2期ふじみ野市地域福祉計画」の進捗状況について、各事業の取り組み状況と担当課の自己評価をもとにとりまとめを行いました。

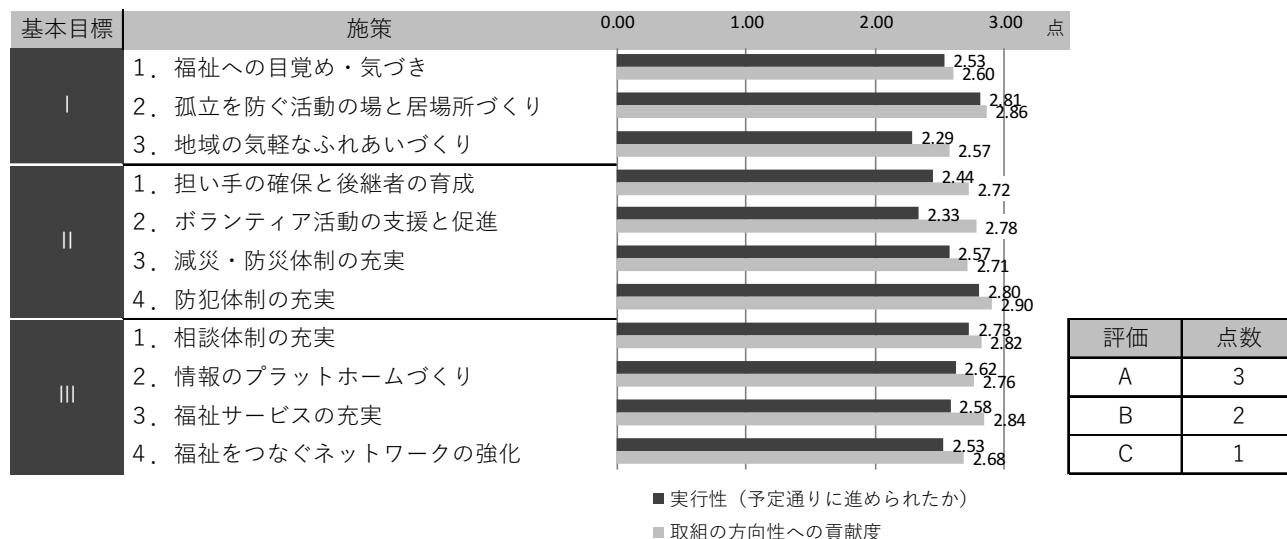
評価の実施にあたっては、各事業の「実行性（予定通りに進められたか）」と、計画に定める「取り組みの方向性」への「貢献度」の2つの観点から、A～Dの4段階評価を行いました。

施策ごとの集計結果は以下の通りです。



自己評価を点数化して算出した、施策ごとの平均点は以下のとおりです。

基本目標I-3や基本目標II-1、2では「実行性」が2.5点を下回っている項目もみられるなど、新型コロナウイルス感染症対策のために予定通り実施できなかった事業が多くなっていますが、貢献度としては多くが2.5点を上回り、高くなっています。



基本目標ごとの取り組みの評価と課題は以下のとおりです。

基本目標Ⅰ 心をつなぐ～誰もが気軽につながるまち～

【重点項目】様々な市民が気軽にふれあう新たな機会づくり

（第2期ふじみ野市地域福祉計画より）

近年、高齢者や障がい者、子育て世代やひとり親家庭、外国籍市民、生活困窮者等、様々な立場で地域における孤立が課題となっており、地域のつながりの希薄化の解消に向け、地域に暮らす様々な人々が日常的にふれあう機会を設けることが重要です。

そのためには、これまでの高齢者や児童生徒への見守り活動に加え、相談窓口や活動の拠点としての機能を持ち、地域に暮らす人々がいつでも、誰でも、気軽に利用できる、新たな拠点を設ける必要があります。

こうした新たな拠点の設置に向けて、地域の空き家等の活用に取り組むとともに、そのような場に市民一人ひとりが自ら出向くことができるよう、福祉意識の醸成や福祉教育の推進のほか、日常的なあいさつ・声掛け活動の推進に重点的に取り組みます。

【成果指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和4年現在】	目標値 【令和5年度】
「地域福祉」という言葉の認知度の向上【「内容まで知っていた」を増やす】			
60歳未満	7.1%	7.0%	20.0%
60歳以上	14.4%	8.2%	30.0%
普段の近所付き合いの程度の向上【「よく家を行き来している」と「会えば親しく話をする人がいる」を増やす】			
60歳未満	28.1%	25.4%	38.1%
60歳以上	45.3%	41.2%	55.3%
自治組織加入率の向上	56.7%	46.7%	60.0%

【活動指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和3年現在】	目標値 【令和5年度】
新たな拠点の設置	—	2	2

- 成果指標は、いずれも目標達成に至っていません。
- 相談窓口や活動拠点としての機能を持ち、気軽に利用できる新たな拠点として、ふくし総合相談センターよりそい・にじいろの2か所を設置しました。

1. 福祉への目覚め・気づき

- 福祉意識の醸成に向けて、福祉教育や福祉活動の意義と重要性のPR等に取り組みました。新型コロナウイルスの影響で中止や縮小せざるを得ない時期もありましたが、工夫して取り組むことで効果的な推進に努めました。
- 大学や金融機関をはじめとするさまざまな団体と包括連携協定を締結し、地域連携による福祉教育を推進するための取り組みを行いました。より一層周知に力を入れていけるよう検討していく必要があります。
- 新型コロナウイルスの影響により中止していた推進校連絡会議を令和4年度に再開し聴導犬デモンストレーションや学校内でZoomを活用した手話体験授業など新たな取り組みを実施しました。
- 令和4年度には、学生ボランティアの協力を得て、ひとり親家庭交流支援事業や協議体でのボッチャ体験を行うなど、多世代交流を通じた新たな福祉教育の取り組みを行っています。今後も各教育機関との連携強化に取り組む必要があります。

2. 孤立を防ぐ活動の場と居場所づくり

- 日常的なつながりの基盤となる地域コミュニティの育成や、見守り活動の推進に取り組んでいます。
- 自治組織加入促進のチラシを全戸配布、転入時や子育て世帯に対して小学校入学時に配布するなど、自治組織の活動をPRしています。
- コロナ禍により自粛していた支部と自治組織との共催事業なども一部再開した地域がありました。
- 高齢者への見守りを目的とする「ふじみん見守りネットワーク」は参加事業者及び個人に対して研修会を行っています。また介護予防センターと共同で多世代交流事業を開催し、コミュニティソーシャルワーカーによる市内企業へのアプローチのもと、大手スーパーによる食糧や日用品の寄附、事業当日のボランティア参加、企業独自の社会貢献事業との連携による出前講座などを実施し、地域が地域を見守るネットワーク構築に向けた取り組みを行いました。
- 市社会福祉協議会と連携し、市民の厚意により借用している空き店舗を活用したパソコン教室、ひきこもり当事者やボランティア活動に興味のある市民を対象としたサロンを実施し、新たな居場所となる事業を開始しました。

3. 地域の気軽なふれあいづくり

- 交流の場や機会の充実を目指しましたが、新型コロナウイルスの影響が大きい施策として、実行性の評価は他に比べて低い結果となりました。工夫して取り組むことで効果的な推進に努めました。
- コロナ禍により小学生・保育園児といきいきクラブ(老人クラブ)の交流事業はできませんでしたが、児童の下校時の見守り、小学校の除草作業など奉仕活動を高齢者の生きがいづくりに向けた取り組みを実施しています。
- 民間路線バスと相互に補完する市内循環ワゴン及びお出かけサポートタクシーなど移動手段の確保に取り組んでいるほか、新築・改修建物についてユニバーサルデザインやバリアフリーを取り入れた施設整備を行い、誰もが利用しやすい施設としました。

基本目標Ⅱ 人がつなぐ～世代を超えたまちのつなぎ役～

【重点項目】新たな地域のつなぎ役の確保と育成

(第2期ふじみ野市地域福祉計画より)

近年、生活スタイルの変化や支援を必要とする人の増加に伴い、地域の抱える生活課題は多様化しています。これらの問題に対し、可能な限り地域の力で解決に導くことができるように取り組む必要がありますが、地域活動の担い手不足が課題となっています。

そのため、本市における地域活動の推進を担い、地域の課題解決に向け適切な機関につなぐことのできる地域福祉リーダーやボランティア人材の確保と育成に取り組む必要があります。

また、幅広い年代の市民が地域のつなぎ役として、それぞれができることに取り組むことができるよう、ボランティア・NPO活動の支援に加え、新たな人材の発掘、企業やサービス提供事業者のボランティア活動の促進に重点的に取り組みます。

【成果指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和4年現在】	目標値 【令和5年度】
地域活動等への取り組み状況の向上			
【「現在、積極的に取り組んでいる」と「たまに、取り組むことがある」を増やす】			
60歳未満	14.4%	11.4%	24.4%
60歳以上	24.9%	18.9%	34.9%
市民活動支援センター登録団体数の増加	107団体	122団体(R3)	150団体
ふじみ野市生きがい学習ボランティア人材の向上			
登録団体数	8団体	4団体(R3)	12団体
登録人数	35人	26人(R3)	50人

【活動指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和3年現在】	目標値 【令和5年度】
市民活動支援センター利用人数の増加	6,055人	3,831人	7,787人
「ふじみん見守りネットワーク」登録事業所数の増加	79事業所 (個人登録含む)	139事業所 (個人登録含む)	85事業所
ホームページアクセス件数の増加	2,416,067件	6,415,888件	2,435,000件

- 成果指標について、地域活動等への取り組み状況は年代を問わず低下しており、新型コロナウイルスの影響がうかがえます。市民活動支援センター登録団体数は増加し、122団体となっています。
- 活動指標について、市民活動支援センター利用人数は平成30年度までは増加していましたが、新型コロナウイルスの影響で令和2年度以降4,000人弱になっています。「ふじみん見守りネットワーク」登録事業所数及びホームページアクセス件数は大幅に増加しました。

1. 担い手の確保と後継者の育成

- 地域の課題解決力の向上や市民主体の福祉活動推進に向けて、人材育成に取り組んでいます。
- 令和3年度から対面を避けて自宅でできるボランティア体験プログラムの新規開発を行いました。また、新規メニューを併催したことで参加者の増加につなげることができました。
- 認知症サポーターや手話通訳者、災害ボランティアセンター運営ボランティア等の養成のほか、地域協働学校の取り組みの中で、各校の教育活動に参加する地域人材の発掘を行っています。今後は、大学ボランティアセンターなどと連携して若者世代のボランティア人材の発掘に努めるとともに、高齢者と若者世代の交流の機会を設ける必要があります。

2. ボランティア活動の支援と促進

- コロナ禍によりボランティア活動の停滞、ボランティアの減少、グループの解散などが見られましたが、行動制限が緩和されてからは少しずつ改善傾向が見られます。
- 情報提供の手段として「生きがい学習ガイドブック」を発行しました。
- 市民活動支援センターを通じて、ボランティア団体やNPO法人をはじめとした市民活動に関する情報提供を行いました。また、打合せスペースの開放、印刷機等の無料貸し出しを行いました。
- 市民活動支援センター通信「駅前COCOから便」の発行、コーディネーターによる窓口相談により、市民活動、ボランティア活動に関する情報提供や活動の支援を行いました。
- 企業やサービス提供事業者に対してボランティア活動の推進をはかる方法の検討を続けており、企業・団体のCSR・社会貢献活動を応援し、SDGsを推進するSAITAMA社会貢献プロジェクトのチラシを窓口を設置し、同事業のPRを行いました。

3. 減災・防災体制の充実

- 防災講習会や講話への講師派遣などを行い、各地域における自主防災組織の育成に努めました。また、全市民参加型の総合防災訓練について、新型コロナウイルスの影響もありましたが、感染症対策を踏まえて見直しを図った避難所運営マニュアルに基づいて実施し、地域住民の減災・防災意識と防災力の向上に努めました。
- 避難行動要支援者全体名簿の更新を毎月実施しているほか、民生委員には避難行動要支援者同意者名簿及び緊急時災害時高齢者あんしん台帳の情報提供を行っています。
- 地域防災計画の改定に伴い、避難行動要支援者制度の対象者要件について、関係各課、自治組織及び民生委員等と意見交換を行い、より実効性のある制度へ見直しを図りました。

4. 防犯体制の充実

- 地域と連携した防犯体制の充実に取り組んでいます。市内小学校においてスクールガードリーダーを配置し、登下校の見守り強化に取り組んでいるほか、地域防犯会議を開催し、防犯活動における地域の連携を強化することができました。
- 自治組織や青色防犯パトカー市民パトロール隊などの自主防犯団体により防犯活動を実施し、地域ぐるみでの活動により、安全・安心なまちづくりを推進しました。
- 各種講習会などについては、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら実施し、地域、学校、警察などと犯罪抑止に向けた情報共有を行い、更なる防犯意識と知識の高揚を図っていきます。

基本目標Ⅲ つながるシステム～「オールふじみ野」で解決できる体制～

【重点項目】市の情報提供と地域福祉ネットワークの強化

(第2期ふじみ野市地域福祉計画より)

個人や世帯単位における複雑な課題に対応するためには、地域の実情に応じて、高齢者・障がい者・子どもといった分野をまたがり、福祉、保健・医療、権利擁護、雇用・就労、産業、教育、住まいなどの多機関が連携した包括的な支援体制の構築が重要です。

そのためには、地域と専門機関等との橋渡し役となるコミュニティソーシャルワーカーの配置や地域の福祉課題を総合的に受け止める体制の推進、また、それらをどのような区分けで構築していくかという生活圏域の検討に取り組みます。

さらに、これまでの本市の取り組みや地域の中の活動について、どのようなことが行われており、どのような支援があるのか、市民一人ひとりに行き届いていないという課題が浮き彫りとなっており、誰もがアクセスしやすい情報提供手段の充実や相談窓口の周知に重点的に取り組みます。

【成果指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和4年現在】	目標値 【令和5年度】
「市民総合相談室」の認知度の向上【「良く知っている」と「ある程度知っている」を増やす】			
60歳未満	15.5%	13.5%	30.0%
60歳以上	38.1%	29.3%	50.0%
自分に必要な「福祉サービス」情報の入手度の向上 【「十分入手できている」と「十分ではないが、入手できている」を増やす】			
60歳未満	29.6%	31.6%	39.6%
60歳以上	34.8%	38.4%	44.8%
ふじみ野市の福祉サービスへの充実感の向上【「とても充実している」と「まあまあ充実している」を増やす】			
60歳未満	24.0%	29.0%	34.0%
60歳以上	28.2%	27.4%	38.2%

【活動指標】

指標	現状値 【平成28年度現在】	実績値 【令和3年現在】	目標値 【令和5年度】
市民後見人の育成	35人	58人	70人
コミュニティソーシャルワーカーの配置	0人	4人	2人

- 成果指標について、自分に必要な「福祉サービス」情報の入手度はいずれの年代も増加し、ふじみ野市の福祉サービスへの充実感について60歳未満は増加しています。一方で、市民総合相談室の認知度がいずれの年代も低下しています。
- 活動指標について、市民後見人を58人育成しました。コミュニティソーシャルワーカーは4人となり、目標を達成しています。

1. 相談体制の充実

- 市民が抱える課題や問題を早期に発見し、適切な相談や支援ができるように取り組んでいます。令和元年に市内社会福祉法人をはじめ医療法人やNPO法人等が共同の相談窓口となる「つながる相談窓口」を開始し、14法人26事業所まで拡大し、身近な相談窓口として周知普及に努めています。
- 重層的支援体制整備事業の開始と「ふくし総合相談センター」「つながる相談窓口」などの相談窓口、相談支援の連携（協働）を周知啓発するため、職員による出前講座等を行い、リーフレットの配布を積極的に行いました。また、専門職や相談員に向けた会議・研修会を実施し役割分担の確認や専門性向上に努めています。
- 市民総合相談室においても、多様な分野に関わる総合相談窓口としての機能を発揮するため、福祉制度や社会資源などの情報収集、相談員や関係組織との多職種連携をしています。一方、相談するほどではないとの思いがある方へ向けてどのように周知・啓発していくかが課題となっています。
- 日本語を母国語としない市民向けの生活相談業務をNPO法人に委託して実施しました。

2. 情報のプラットフォームづくり

- 福祉サービスや各種窓口について、ガイドブックやホームページ等多様な手段による情報提供を行うとともに、情報アクセシビリティの向上に努めています。
- 地域課題に協働で適切に取り組んでいくため、活動中に知り得た個人情報の適切な管理に努めるよう、定例会等の機会を通じて周知しました。また、個人情報を守り、適切な運営が図れるよう支部活動べんり帳に個人情報保護に関する情報を掲載しました。引き続き、関係機関との情報の共有や情報セキュリティポリシーの策定を検討するなど、個人情報の保護に取り組んでいきます。

3. 福祉サービスの充実

- 高齢・障がい・子育て支援サービスのほか、生活困窮者やひとり親家庭など複合的な問題を抱えている家庭に対し、寄り添い型による包括的・総合的な支援を行いました。また、必要に応じ、庁内外の関係機関と連携した包括的な支援を行いました。
- コロナ禍においても、必要に応じ、訪問や同行支援など、アウトリーチによる支援を行い、支援を要する人を支援につなげました。また、子どもの貧困対策として、市社会福祉協議会と連携し、フードパントリーや多世代交流など、新たな福祉サービスの充実を図りました。
- 認知症や障がいを理由に判断能力が十分でない方を支援するため、成年後見制度の推進に取り組んでいます。令和2年度に中核機関として成年後見センターを立ち上げました。また、市と成年後見センターが連携して後見制度に係る勉強会の開催、市民への後見制度の普及・啓発を実施、法人後見事業を実施しました。

4. 福祉をつなぐネットワークの強化

- 地域で活動を行うさまざまな組織や団体が互いに連携して課題解決等に取り組むことを目指して重層的支援体制整備事業を開始し、市職員とコミュニティソーシャルワーカーを核として、複合的な課題を抱えた相談者の課題を整理し、支援機関の調整を行う迅速な相談の受入れとアウトリーチを重視した伴走型の支援を実施しました。コミュニティソーシャルワーカーを4名配置していますが、今後は増員に向けた検討が必要です。
- 日常的に寄せられる相談の中から求められる機能やサービスと地域資源をマッチングさせ、市内企業の協力のもと、社会とのつながりが必要な市民の就労訓練先の開拓や子どもやひきこもりの方の居場所づくりに取り組みました。
- 生活支援体制整備事業の4圏域全てに協議体を設置し、介護予防・支え合いのしくみづくりに取り組んでいます。今後さらに小地域での生活支援を活発化するため、事業展開や協議体の開催が望まれますが、支援するコーディネーターが不足しています。

**第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための
アンケート調査報告書**

発 行：ふじみ野市 福祉部 地域福祉課
発行年月：令和5年3月

第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書

令和5年3月 ふじみ野市